



2014年度

# 活動報告書

Tokai University  
Student Project Center  
Activity Report

 東海大学チャレンジセンター



 東海大学チャレンジセンター

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1  
Tel : 0463-50-2504(直) Mail: challenge@tsc.u-tokai.ac.jp  
Fax : 0463-50-2472 URL : <http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/>



# 2014年度チャレンジセンター 活動報告書の発行にあたって



チャレンジセンター所長  
木村 英樹

東海大学チャレンジセンター(以降:本センター)は2006年4月に、前学長の高野二郎・現副総長の強いリーダーシップのもとで設立されました。大塚滋氏を初代所長に多様な学生が一つの目的のために集い、挑み、成し遂げる過程を通して社会的実践力を培うことを目指して船出した本センターは、2015年3月で9年間の活動を終え、学生主体のプロジェクトはこの間大きく成長しました。

私は設立当初からチャレンジセンター推進室長として着任して以来、一貫して本センターの運営に携わり、2014年度から梶井龍太郎前所長のTo-Collabo推進室長転出を受けて所長を引き継ぎました。所長就任から1年、学生、大学、地域といった様々なステークホルダーとの間で、先代所長の皆様が重い責任を背負ってきたことを改めて実感する日々が続いています。

本センターは、「大学による社会的責任(USR:University Social Responsibility)」を推進するため社会的実践力を培うとの立場から、地域連携や社会貢献などの要素を含んだプロジェクト活動を推進してきました。実践的なプロジェクト活動を生きた教育の場ととらえ、教職協働体制で学生達の力を伸すというモデルは定着しつつあります。

このような実績をもとに、2013年度に東海大学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、「社会貢献分野」における中心的な役割を担うことが期待されるようになりました。北海道から九州までの広域にわたって展開する東海大学は、地域の活動を横断的に束ねることで、「全国連動型の地域連携活動」を推進しようとしています。地域や部門によって縦割りになりがちな組織の壁を乗り越えることで、新しい東海大学の力を生み出そうとするのが本事業の狙いでもあります。

2014年度は、この事業推進のために設置された「To-Collabo推進室」と連携してプロジェクト活動やセミナー開催を進めてきたことが、大きな特徴であったといえるでしょう。

地域と連携する重要性への理解は全てのチャレンジプロジェクトに浸透し、従来よりも強力な活動が展開されました。これは関連する自治体や地域住民からの期待に応えられるよう、学生達が奮闘してくれたおかげであると思います。今後も、ますます活動内容の充実や地域連携の強化が進展するよう期待しています。どうか、学生達の活動に対してご理解いただき、さらなるご支援をいただけますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

一方、大学は地域連携だけでなく、産学官連携やグローバル化の流れにも対応することが求められています。孤立しやすい留学生や、地域の外国人児童を支援するなどのプロジェクトも活動し、相互理解を深めるためのフェアなどを開催しました。また、経済産業省や企業からの要請を受け、本センターは工学部ならびに国際部と連携して、アラブ首長国連邦の石油大学とソーラーカーの共同開発に関するプロジェクトを立ち上げました。この企画に対して湘南校舎と熊本校舎の2つのプロジェクトが支援活動を行ったことは、両国の友好関係の深化に結びついたといえるでしょう。

設立からちょうど10年目の節目を迎える本センターは、To-Collaboプログラムを強力に推進する役割を担うために、新たな飛躍をめざして新体制へ移行することが求められています。すでに、学内で新体制に関する検討が開始されており、2015年度中には方向性が固まってくるでしょう。できるだけ早い時期に、新たな本センターの体制について、皆様にご報告することができればと思います。

2015年3月

2014年度チャレンジセンター活動報告書の発行にあたって ..... 1  
 チャレンジセンターとは ..... 3  
 チャレンジセンター支援体制・運営体制 ..... 5  
 チャレンジセンターの活動 ..... 7  
 リーダー研修 ..... 8  
 チャレンジプロジェクト活動報告 ..... 9

【湘南校舎】	ライトパワープロジェクト	9
	スポーツ社会貢献プロジェクト	11
	サイエンスコミュニケーター	12
	東海大学学生ロケットプロジェクト	13
	Tokai Formula Club	14
	3.11生活復興支援プロジェクト	15
	病院ボランティアプロジェクト	16
	キャンパスストリートプロジェクト	17
	Tokai International Communication Club	18
	環境キャラバン隊	19
	Music Art Project	19
	Beijo Me Liga	20
	DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト	20
【高輪校舎】	Takanawa共育プロジェクト	21
【熊本校舎】	先端技術コミュニティACOT	22
	メカトロマイスター	23
	熊本地域プロデュースプロジェクト	23
【阿蘇校舎】	阿蘇援農コミュニティプロジェクト	24
	阿蘇は箱舟プロジェクト	24
	あにまるれすきゅープロジェクト	25
【札幌校舎】	福祉除雪プロジェクト	26

チャレンジセンター所長賞、チャレンジプロジェクト学科別参加人数 ..... 27  
 チャレンジプロジェクト協力団体・協力者一覧 ..... 28

ユニークプロジェクト活動報告 ..... 29

	ワンダフル・マリニアニマルズ	29
	Tokai Kesenuma Shark Project	30
	よよさんぽ	30
	ロボP	30
	TOKAI DESIGN PROJECT	30
	Unique Endless Lifeプロジェクト	30

プロジェクトコーディネーター・アドバイザー ..... 31  
 チャレンジセンター開講科目 ..... 33  
 研究業績 ..... 39  
 FD研修会・FD研究会 ..... 41  
 To-Collaboプログラムの取り組み ..... 43

	PROGによる基礎力測定テストの結果	45
	広報媒体(ポスター・チラシ)	46
	メディア一覧	48
	チャレンジプロジェクト活動一覧	49

# チャレンジセンターとは

チャレンジセンターは多様な人々との関わり合いの中から「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につけ、社会に貢献できる人材を育てることを目的とした教育プログラムです。

大学は科学、人文の各分野に細分化された専門性を身に付けさせる場として、その役割を担ってきましたが、近年ではさらに社会人としての基礎力など総じて人間力を育成する場、社会性を修得する場として、機能を充実させつつあります。社会が大学に求めているものは単に専門性だけでなく、その専門性を有効に使って未来を切り開く、積極性・主体性を持ったリーダーシップを発揮できる人材の育成であり、自ら課題を見つけ出し、チームで協力し合いながら解決できる力を身に付けた人材の育成が必須となっています。さらに大学教育が行われている、それぞれの地域で、学生が市民の一員として地域の課題に関心を高め、それぞれの役割を認識し地域と共生していくことが重要になっています。大学はその役割を果たす地域の拠点として、地域の改善に役立つ知識・スキルを体得する場としても期待されています。

東海大学は他大学の教育改革に先駆けて、こうした大学への新たな課題に挑戦するため、2006年度にチャレンジセンターを発足させました。チャレンジセンターは「集い力・挑み力・成し遂げ力を身につけた社会に必要とされる人材を育成する」とのスローガンのもと、学部・学科の枠を越えて集まった学生達が、「地域活性化」「ものづくり」「国際交流」など多様なテーマに向き合い、学科を超えた仲間と集い、さまざまな意見をぶつけ合いながらプロジェクト活動(実践)を進める場を提供しています。学生達はその過程で、実社会のさまざまな問題の解決にチャレンジし、現代社会を生き抜くために必要な力を身につけます。

また、プロジェクトと連動したチャレンジセンター科目を開講し、その中の社会的実践力科目はいかにして問題に向き合い、解決していくかを、PBL(※1)やアクティブラーニングなどを取り入れて教え、ジャーナリズム実践教育科目は社会を批判的にとらえることで、社会の様々な問題を認識する目を養います。

2014年度は、チャレンジセンター開講科目(ジャーナリズム科目含む)を5校舎6,061名が受講。プロジェクトは7校舎49件が活動し、約2,000名(チャレンジプロジェクト21件1,405名、ユニークプロジェクト28件573名)が参加しました。

2006年度には現代GPに採択され、社会貢献活動を主体的に担うことのできる「USR(※2)型人材」を輩出することに取り組みました。2013年度からは、チャレンジセンターの教育目標である「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」に、建学の精神に基づく「自ら考える力」を含め、4つの力の育成に取り組んでいます。

さらに、チャレンジセンターが進めてきた「教育・社会貢献」に全学的な「知・人・力」を活かした研究活動を連動させる4計画8事業を実施する「To-Collaboプログラム」が文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されています。チャレンジセンターはこれからも大学に求められているニーズに柔軟に耳を傾けながら、本学が担うUSRを果たしていきます。

※1 PBL(Project Based Learning)・・・現実の問題または課題についてチームで解決する学習法  
 ※2 USR(University Social Responsibility:大学の社会的責任)・・・チャレンジセンターは社会の現状と向き合い、社会的実践力を身につけた人材を育成する汎用性の高い教育モデルを創出することをUSRと捉えています

## 東海大学が育む人材

### チャレンジセンター

多様な学部学科で学ぶ専門性



社会的実践力を養うために東海大学が育成する「4つの力」

#### 自ら考える力 集い力 挑み力 成し遂げ力

常に未来を見据え、自らが取り組むべき課題を探求する力

多様な人々の力を結集する力

困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力

失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力

学習力	コミュニケーション力	問題発見力	工程管理力
思考力	関係構築力	構想力	実行と継続力
探求力	アイデンティティ獲得	プランニング力	分析と修正力

理論:チャレンジセンター科目

実践:プロジェクト活動

#### 社会が必要とする人物像

社会的実践力を身につけ、高い専門性で社会に貢献できる

・プロジェクトコーディネーター(職員)  
 ・プロジェクトアドバイザー(教員)  
 による支援体制

※詳細はP6

#### チャレンジプロジェクト

- ・学生が自由な発想で企画・立案した年間を通じたプロジェクト活動
- ・大学職員によるプロジェクトコーディネーター、教員によるプロジェクトアドバイザーを配置
- ・メンバーが複数学科に横断して構成されていること
- ・参加人数が50名以上であること(湘南校舎以外は30名以上)

#### ユニークプロジェクト

- ・将来的にチャレンジプロジェクトとして発展することを目的とした萌芽的位置づけのプロジェクト
- ・少人数のグループ(10名以上)で構成
- ・学生からの希望があり、かつ、人員が配置できる場合はコーディネーターとアドバイザーを配置

#### プロジェクト修了認定

チャレンジプロジェクトが以下の条件(抜粋)を満たし、プロジェクトコーディネーターによって1年間の活躍が評価されたプロジェクトメンバーに授与されます。

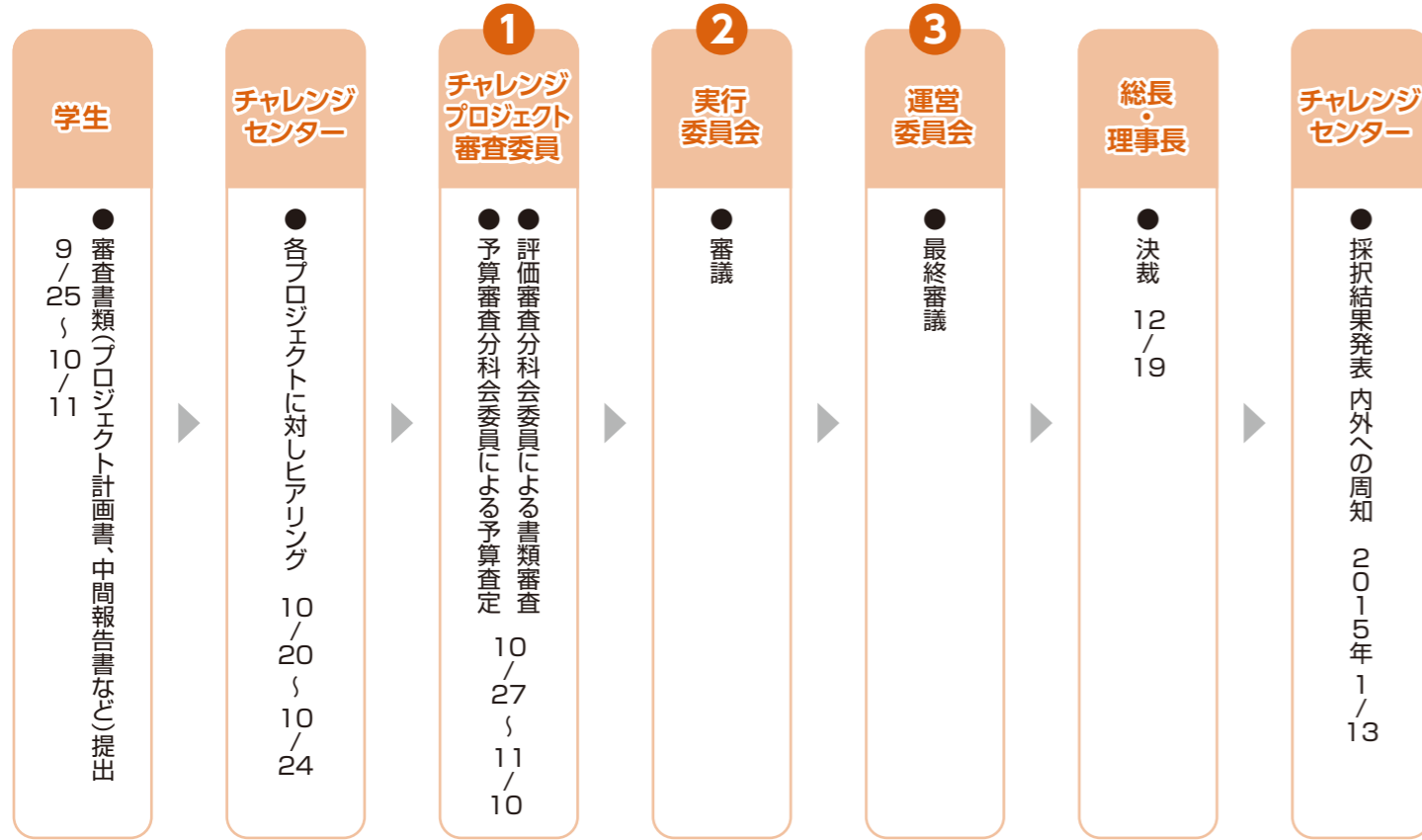
- 1 コーディネーターによる推薦**  
1年間のプロジェクトに積極的に参加し、また、その成果に貢献し「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を身につけたと認められる学生を推薦
- 2 チームとしての条件**  
・プロジェクト協議会へのプロジェクトリーダーの出席・幹部ミーティングの実施(年9回以上)・中間報告会(10月)および最終報告会(2月)での発表(P7参照)・建学祭での発表・応募要件のプロジェクトを実施するメンバー数を満たしていること 他5項目
- 3 個人としての条件**  
・振り返りシートの提出※1  
・中間報告会・最終報告会への出席  
・参加報告書の提出・当該年度7/1現在プロジェクトに所属し、活動期間が9カ月以上であること 他2項目

※1 振り返りシート:プロジェクトメンバーは、各企画終了後に省察会を開催し、プロジェクトが設定した「学びのテーマ」を踏まえ活動を実施できたかを振り返るシートを作成します(年3回)

# チャレンジセンター支援体制・運営体制

東海大学では、チャレンジプロジェクト採択をはじめとするチャレンジセンターの事業計画や修了認定、チャレンジセンター科目に関することなどについて審議・決定を行う、チャレンジセンター運営委員会および実行委員会を設置しています。チャレンジセンターの取組みは、これら委員会の承認を得て実施されました。

## ◆チャレンジプロジェクト採択までの流れ



## 2014年度の会議開催と審議事項

	実行委員会	運営委員会	審議事項
第1回	5月14日(水)	5月21日(水)	●2014年度チャレンジプロジェクト支援金審査について
第2回	8月25日(月)	9月1日(月)	●2015年度チャレンジプロジェクト募集要項について ●松前重義記念基金「2015年度ユニークプロジェクト」募集要項について
第3回	12月1日(月)	12月8日(月)	●2015年度チャレンジプロジェクト審査について
第4回	2015年3月10日(火)	2015年3月17日(火)	●2014年度チャレンジプロジェクトの修了認定について ●2015年度チャレンジセンター学年暦について

### 1 チャレンジプロジェクト審査委員

〔評価審査分科会委員〕  
実行委員(チャレンジセンター所長、次長、推進室長を除く)、付教員、常任教務委員、常任広報委員による書類審査(9校舎24名、うち教員7名、職員17名による)

〔予算審査分科会委員〕  
事務課長、事務課(会計担当課長)、チャレンジセンター次長、チャレンジセンター推進室長

### 2 実行委員会

チャレンジセンターの活動に関連した課長で構成され、プロジェクトが活動するにあたり必要な環境整備等、実務的な内容を審議します。また、実行委員はチャレンジプロジェクト審査委員も兼ねます。

委員長 : 木村英樹(チャレンジセンター所長)  
副委員長 : 崔一英(チャレンジセンター次長)  
委員 : 9校舎19名

### 3 運営委員会

チャレンジセンター運営に関連した部長などで構成され、実行委員会での協議を踏まえ、チャレンジセンターの運営全体について最終的な審議をします。

委員長 : 平野葉一(副学長)  
副委員長 : 木村英樹(チャレンジセンター所長)  
委員 : 国際部長、研究推進部長、事務部長、入学センター所長、教務部長、教育支援センター所長、キャリア支援センター所長、教務部事務室長、チャレンジセンター次長

## ◆チャレンジセンターにおける各会議

- チャレンジセンターミーティング(月1回) (所長、次長、チャレンジセンター教職員)
- 教授会(月1回) (所長、次長、チャレンジセンター教員、オブザーバーとしてチャレンジセンター職員、教務課員)

## 学生運営スタッフ

学生の視点から運営改善に向けた提案を行い、チャレンジセンター職員と共にプロジェクトの運営・サポートを行います。プロジェクト協議会の進行および議事録作成をはじめ、各報告会やガイダンスの司会、プロジェクト説明会の準備・運営などを務めます。

## プロジェクト協議会

プロジェクト活動を円滑に推進するため、プロジェクト間の情報交換、チャレンジセンターからの連絡事項の伝達を行う場として、プロジェクト代表者の出席を義務づけ、原則として月1回開催。今年度は、全9回開催し、全校舎をTV会議システムで接続して実施。

(議長:チャレンジセンター推進室長、委員:プロジェクトリーダー・プロジェクトコーディネーター、司会進行:学生運営スタッフ)

支援

## チャレンジセンター組織

### チャレンジセンター教員

所長 木村 英樹 教授  
(工学部電気電子工学科)  
次長 崔一英 教授  
主任 岡田 工 教授  
岩田 伊津樹 教授  
山口 勉 教授  
青木 孝子 講師  
園田 由紀子 講師  
田島 祥 講師  
堀本 麻由子 講師

### チャレンジセンター推進室

室長 五十嵐 義和  
室長補佐 佐藤 多嘉雄  
高橋 操  
山下 直也  
木村 直樹  
島村 祐太  
平島 滋義  
塚越 智美  
鈴木 絵理

### 付教員

福崎 稔 教授  
(高輪教養教育センター)  
齋藤 寛 教授  
(海洋学部水産学食品科学専攻)  
中嶋 卓雄 教授  
(基盤工学部電気電子情報工学科)  
田中 孝幸 教授  
(農学部応用植物科学科)  
河野 時廣 教授  
(生物学部海洋生物学科)

## プロジェクトコーディネーター

プロジェクト全体の進行状況を把握し、活動全般の相談役や提出書類の作成指導を担います。また、予算管理・工程管理に関する指導や、活動が困難な状況の時に円滑に進むよう学生にモチベーションを与える「縁の下の力持ち」としての役割を担っています。なお、コーディネーターは、チャレンジセンターが実施する複数の研修会の受講が義務づけられており、これは東海大学人事制度において「業務別研修」と位置づけられたオリジナルのSD※活動です。

## プロジェクトアドバイザー

専門的知識または技能を持った教員が担当し、各プロジェクトに1名以上配置されます。主な役割として、プロジェクト活動に対して専門的な立場から指導・助言を行います。プロジェクトの活動を、より質が高く大きなチャレンジとするためには、プロジェクトアドバイザーの豊富な知識と経験に裏づけられたアドバイスが必要になります。

※SD(Staff Development)・・・授業開発などの教員による「FD」に対し、大学職員として学生支援に必要な能力を高めるための研修会やミーティングなどの実施

支援

支援

## プロジェクト活動

ものづくり系やボランティア系、地域活性系など学部や学科、そして学年の枠を越えた学生達が意見をぶつけ合いながら、目標の達成に取り組んでいます。

※詳細はP9～

## チャレンジセンター開講科目

従来の大学の授業とは異なる、学生自身に「気づき」を促すさまざまな演習を組み込んだ授業を通して実社会において自身がぶつかる様々な問題の解決方法を身につけていきます。

※詳細はP33～



# チャレンジセンターの活動

## 7月8日 「第12回チャレンジセンターセミナー」を開催

「輝きから煌きへ～夢は15歳まで生きること～」と題し、フィリピン共和国で歯科医療ボランティアに尽力されている今西祐介氏が講演。湘南校舎のほか、高輪、清水、熊本の計4校舎とテレビ会議システムでつなぎ、学生や教職員など約230名が聴講しました。講演では、東日本大震災発生から9日後に被災地へ救援に出かけた時の写真を紹介しながら、歯科医師が救援活動をした経緯や、命の源である歯の大切さについて解説。続いて、フィリピンのスラム街の様子を映しながら、「ハローアルソン フィリピン医療を支える会」が行っている無償の歯科医療や歯ブラシを配る活動などについて説明しました。



## 10月18日 「2014年度チャレンジセンター中間報告会」を開催

湘南校舎のほか、札幌、高輪、清水、熊本、阿蘇の計6校舎をテレビ会議システムで結び、全校舎合わせて650名の学生や教職員が参加。上半期に展開した活動実績や成果を、各プロジェクトの代表学生が地域の方々や学生、教職員らに報告しました。「昨年度の反省からミーティングや連絡を密にすることで、活動の幅を広げることができました」「活動を周知してもらうために、新しい企画を立てて学外でのイベントを増やすなど、一般の方々も参加できる提案をしています」など、それぞれの活動を推進していく中での工夫や、学んだことなどを紹介。会場では発表を熱心に聞きながら、メモを取る学生の姿も見られました。



## 2015年1月13日 「第13回チャレンジセンターセミナー」を開催

「ベルマーレ理事長が語る いい加減人生～快の笑いを求め続けて～」と題し、NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブ理事長の水谷尚人氏が講演。湘南校舎のほか、札幌、高輪、代々木、清水、熊本、阿蘇の計7校舎とテレビ会議システムでつなぎ、学生や教職員、地域住民など約280名が聴講しました。水谷氏は自らの人生を振り返りながら、さまざまな仕事から現在の仕事に至るまでの経緯を紹介。さらに人と人のつながりによって危機を乗り越えてきた具体例を説明しました。参加した学生からは、「壁にぶつかることがあっても、乗り越えていけるような勇気をもらえました」などといった感想が寄せられました。



## 2015年2月4日 「2014年度チャレンジプロジェクト最終報告会」を開催

湘南校舎のほか、札幌、高輪、清水、熊本、阿蘇の計6校舎をテレビ会議システムで結び、全国で約500名の学生や教職員らが参加。各プロジェクトの代表者は、制限時間10分以内での報告に臨みました。各発表後には「目標をメンバーで共有するための工夫」「メンバーの人数が増えた背景」「メンバーのスキルアップ」「校舎間の連携」などについて質疑応答。講師として、古田土勉氏(本学連合後援会副会長)、宮原孝夫氏(本学同窓会東京ブロック会長)、石井祐吾氏(株式会社アビスト/本学工学部卒業生)、山口泉氏(株式会社マイスターエンジニアリング)、行岡正恭氏(パナソニック株式会社)を招き、「グッドプレゼンテーション賞」の審査と講評をいただきました。

※「グッドプレゼンテーション賞」の受賞団体は以下のとおりです  
 ・あにまるれすきゅープロジェクト(阿蘇校舎)  
 ・Tokai Formula Club(湘南校舎)  
 ・キャンパスストリートプロジェクト(湘南校舎)



## 2015年3月1日 理工学系6プロジェクトが「キッズフェスティバル」を開催

近隣在住の小学生に実験や工作などのものづくりを通して、理科の魅力を伝えようと毎年行っている取り組みで、ライトパワープロジェクト、サイエンスコミュニケーター、学生ロケットプロジェクト、環境キャラバン隊、Tokai Formula Club、学生航空機プロジェクト(※ユニークプロジェクト)が協力し、湘南校舎8号館で開催。教室ごとに設けられたブースで、洗濯のりを使った『スライム作り』やプロジェクト自作の製作キットを使用した『小型飛行機作り』などを行いました。当日は雨の中約150名の小学生が参加。実験で起きる化学反応や自身で作ったものが実際に動く様子に興味津々で、さまざまなブースを訪れていました。



# リーダー研修

## 9月27日、10月4日 プロジェクトの広報リーダーなどを対象に「イラストレーター講座」を実施

グラフィックデザインソフトの「Illustrator(イラストレーター)」などの技術をマスターすることで、プロジェクトの活動内容を紹介するポスターやパンフレットを学生達がより効果的に作成できるようになることを目的として、湘南校舎1号館において本センターが初めて企画・実施。東海大学教育研究所の広川美津雄教授を講師に迎え、両日あわせて13プロジェクト49名の学生が参加しました。講座では、広川教授が広報デザインの意味やポスターなどの制作に必要な考え方を説明。その後、学生達はデザインソフトの特色や使い方の説明を受けながら、絵を描く実習に取り組んだほか、写真の加工などにも挑戦しました。



## 10月8日 フォローアップ研修「プレゼンテーション講習」を実施

中間報告会を目前に控え、プロジェクト協議会の企画として実施。湘南校舎をはじめ、札幌、高輪、熊本、阿蘇の計5校舎をテレビ会議システムでつなぎ、プレゼンテーションのコツ・ポイントとして視覚・聴覚の感覚を意識すること、効果的な時間配分にするためのリハーサル的重要性について、チャレンジセンター所属の園田由紀子講師による講義を受けました。好印象を与える姿勢やスタイル、身体表現の方法を学びました。

## 2015年2月18～20日 「2014年度チャレンジセンターリーダー研修会」を実施

校舎を越えたプロジェクト学生同士の交流およびプロジェクトリーダーの育成を通じて、プロジェクト活動を活性化することを目的に実施されました。今年度は湘南校舎をはじめ、札幌、高輪、熊本、阿蘇の計5校舎の学生45名が一堂に会し、2泊3日で行われました。

- 目的とねらい：  
 ① キャンパスを越えたプロジェクト学生同士の交流、およびプロジェクトリーダーの育成を通じて、プロジェクト活動を活性化する  
 ② プロジェクトメンバーとしてメンバーを統率し、プロジェクト目標を達成するために必要な力を学ぶ  
 ▶ リーダーシップとは何かを考える  
 ▶ リーダーとしての自分の課題を捉える  
 ▶ 所属するプロジェクトの課題は何かを考える

実施場所：湘南校舎 1号館3階1C-302教室

対象者：2015年度チャレンジプロジェクトリーダー・サブリーダー・他(幹部候補の中から選出し、1プロジェクト2名参加)

講師：堀本麻由子(チャレンジセンター講師)・田島祥(チャレンジセンター講師)・高橋操(チャレンジセンター推進室)

事務局：チャレンジセンター推進室 佐藤多嘉雄・山下直也・島村祐太

### 研修プログラム

DAY1 13:00～18:10	DAY2 9:00～17:30	DAY3 9:00～12:45
▶ 13:00～13:05 【開会式】 講師：堀本 ▶ 13:05～14:05 【アイスブレイク】自己紹介ワーク ▶ 14:05～14:40 【講義】相手を理解する(コミュニケーション方法を考える) ▶ 14:50～15:40 【講義】ループリック ▶ 15:40～16:30 【講義】チームマネジメントとリーダーシップ ▶ 16:40～17:10 リーダーとしての課題についてワークシート記入 ▶ 17:10～18:10 グループ内での課題の話し合い	講師：チャレンジセンター推進室 高橋 ▶ 09:00～10:00 【チャレンジセンターとは】 講師：田島 ▶ 10:10～11:30 【講義】目標達成のためのリーダーシップ ▶ 11:30～12:15 リーダーシップ演習 ▶ 13:15～15:05 【講義】リーダーシップとコミュニケーション① ▶ 15:55～17:15 【講義】リーダーシップとコミュニケーション② ▶ 17:15～17:30 振り返りとまとめ	講師：堀本 ▶ 09:00～09:30 2日間の振り返り ▶ 09:30～10:00 【講義】プロジェクトマネジメントの理解 ▶ 10:00～10:30 ワールドカフェの方法説明 ▶ 10:30～11:30 【ワークショップ】ワールドカフェ(プロジェクトチーム目標について考えてみよう) ▶ 11:30～12:00 全体振り返り・研修終了 ▶ 12:00～12:45 修了式(修了証授与)



# ライトパワープロジェクト

ものづくり

湘南

学びの  
テーマ

先を見ずえる力を身に付け、先駆けとなる

達成  
目標

大会に出場し最高の記録を樹立するとともに、社会に貢献する活動を展開する

プロジェクトリーダー	本田 太郎	工学部	機械工学科	3年
サブリーダー	二川 悠汰	工学部	精密工学科	2年
サブリーダー	長谷川 隼人	情報理工学部	コンピュータ応用工学科	2年
広報リーダー	金澤 七海	工学部	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	2年
会計	大森 翼	工学部	精密工学科	3年
参加人数 134名				

**5月4・5日** 電気自動車チーム  
**「ワールド・エコノムーブ2014」に参戦**  
 ■ 大潟村ソーラースポーツライン (秋田県南秋田郡大潟村)

電気自動車・燃料電池車の省エネルギーレースとして毎年開催されており、今年は20回目の記念大会となりました。本プロジェクトは2台で臨み、同じコンディションのバッテリーを使って走行距離を競う『鉛蓄電池部門』のオープンクラスに、2004年に開発した『ファラデーマジック2』で参戦。一時は2位まで順位を上げたものの、雨の影響によって最終的には6位入賞。今年新設の『エコノムーブ・ミニカート部門』では2位と健闘しました。



**6月27日** ソーラーカーチーム  
**「アメリカ大使館主催のトークイベント」に参加**  
 ■ パナソニックセンター有明スタジオ (東京都江東区)

本学とミシガン大学の代表者に、チームマネジメントの観点から語り合ってもらうことを意図して企画されたもので、市民の方々約100名が参加しました。イベントでは当チームから2013年度学生リーダーの大久保亮佑さん(工学部動力機械工学科4年次生)とドライバーの坂井達哉さん(同)が登壇。ライバル校としてのぎを削ってきたアメリカ・ミシガン大学の代表学生と、チームの歴史や構成、技術継承の手法などについて意見交換をしました。



**7月9日** ソーラーカーチーム  
**「エコカー教室」を開催**  
 ■ 湘南校舎

秦野市立大根小学校の4年生80名を対象に、ソーラーカーの見学を通じて光電池と蓄電池について深い知識を持ってもらうとともに、地球環境保全の大切さについて学んでもらうことを目的に、実施されました。当日は屋外で実際にソーラーカーと電気自動車を見せながら「なぜ車体がこのような形になったのか」「ソーラーカーにはどれだけの発電能力があるのか」などの説明をした後、中央通りでデモ走行を行いました。



**7月26日** 人力飛行機チーム  
**「第37回鳥人間コンテスト2014」に出場**  
 ■ 琵琶湖(滋賀県)

読売テレビが主催となり開催された本大会では、2010年以来4年ぶり28回目の出場となりました。メンバーは琵琶湖に設けられる500mのコースでの往復タイムを競う『人カプロペラ機タイムトライアル部門』への出場を目指して昨年より2年がかりで新たな機体「かもめ」を製作。スタート台から無事飛び立つも、折り返し地点の直前で着水、記録こそ残せませんでしたが、観客からは大きな拍手が送られました。



**8月3日** 人力飛行機チーム  
**「ものづくり教室」を開催**  
 ■ 湘南校舎12号館、附属体育館

“手作りの素晴らしさを感じてもらい、ものづくりに興味をもってもらう” “飛行機に興味をもってもらう” “地域との交流を深める”という目的で実施。秦野市立大根小学校・広畑小学校の1・4年生29名が参加し、手作りのグライダーをうちわであおいで飛ばす模擬飛行や、的当ての正確さと飛距離を競うゲーム、ストローと紙で作った飛行機を飛ばす体験などを通じて、子ども達が飛行機に興味を持つように積極的にアドバイスしていました。



**10月23～26日** ソーラーカーチーム  
**「湘南ひらつかテクノフェア」 「平工祭」にてソーラーカーを展示**  
 ■ ひらつかサン・ライファリーナ、神奈川県立平塚工科大学(神奈川県平塚市)

“地域産業の振興を図る”を目的として開催された「テクノフェア(23～25日)」では、これまでの世界大会参戦の様子をまとめた動画を上映し、来場した子ども達に先着でソーラーカーのトミカを配布しました。24日には『世界最速ソーラーカーの紹介』というテーマで講演会を開催。「平工祭(26日)」では、ソーラーカーの展示と今年度の活動説明を行ない、子ども達にはソーラーカーの乗車体験も実施しました。



**11月13～17日** ソーラーカーチーム  
**南米唯一のソーラーカーレース「Carrera Solar Atacama」で優勝**  
 ■ チリ共和国アタカマ砂漠 Pozo Almonte～Calama～San Pedro de Atacama～Antofagasta～Pozo Almonte



チリ共和国北部のアタカマ砂漠で開催され、2011年、2012年に続く3回目の開催となる今回は、7か国26チームが参戦。海拔0mから3,400mを超える道を走行し、4日間・全行程1,082kmでタイムを競いました。本プロジェクトは、2013年型『Tokai Challenger』に、大会のレギュレーションに合わせた改良を加えて出場。走行時間15時間20分でフィニッシュし、2位のチームに9分の差をつけ、初参加で優勝を果たしました。

は人気が高く、たくさんの質問が飛び交う中、学生たちは熱心に答えていました。また、サッカーやダンスなどで他チームと積極的に交流を行いました。

■ Day1 11月13日(木) 天気:快晴  
 早朝に各チームは、スタート地点であるPozo Almonteに集合しました。09:00スタートフラッグが振られて「2013 Tokai Challenger」はトップでスタートし、第1コントロールポイントVictoria、第2コントロールポイントDesisertoまで途中で悪路があったものの順調に走行しました。しかし、途中の税関での通過手続きに手間取り、税関手続き不要の地元Antakari大学チームに追い越しを許してしまい、この日は約2分差の第2位でCalamaにゴールしました。

■ Day4 11月16日(日) 天気:快晴  
 レースとしては3日目となるこの日は、悪路や勾配が急なところがあり、一部コースではソーラーカーをトラックに積み込んで走行する場所も設定されていました。順調に走行していたかに見えていた序盤にブレーキトラブルに見舞われ、本日最後のコントロールポイントRead to Michillaを通過し、レース終盤となる高速道路の料金所でどうとうブレーキが制御できなくなり、停車していた一般車輦に接触してしまいましたが、その後、車輦が満身創痍でゴールし、3位になりました。

■ Day2 11月14日(金) 天気:快晴  
 2日目は大会期間中最も高低差があるコース取りとなりましたが、1位に遅れること10分で2位スタートしました。その後上り坂が続く標高が3,000メートル以上となる地点を越えましたが、この日も順調に走行し、第1コントロールポイントDesert、第2コントロールポイントも順調に通過し、この日最後のコントロールポイントToconaoに到着しました。ここは市街地であり、多くの聴衆の歓迎を受けましたが、特に子どもたちには高い人気でした。その後、順位は2位でSan Pedro de Atacamaにゴールしましたが、Antakar大学チームにペナルティがあり、確定順位は1位となりました。

■ Day5 11月17日(月) 天気:快晴  
 スタート地点はBaquedano。昨日のことは悪夢と思い、メンバーは気持ちを一つにして、怒涛の逆転劇を信じて疾走し、2位のConcepcion大学チームを追い越し、前回障害となった税関も難なく通過。さらに、Antakari大学チームがバンク対応で手間取っているところを横目にPozo Almonteに見事第1位でゴールしました。最終的には外国勢としては初めて総合優勝を勝ち取りました。

■ Day3 11月15日(土) 天気:快晴 レース休息日  
 この日は、全チームがキャンプしている場所で主催者による各種のイベントが行われ、中心はチーム車輦の展示。特に、「2013 Tokai Challenger」は子どもたちに

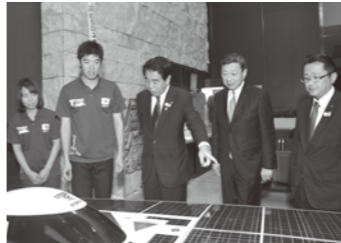
**12月9日**  
**「駐日チリ共和国大使館」を表敬訪問**  
 ■ 駐日チリ共和国大使館(東京都港区)

木村英樹総監督(本センター所長)と福田紘大監督(工学部航空宇宙学科准教授)、学生リーダーの若林希さん(工学部機械工学科3年次生)ら12名が訪問。特命全権大使のバトリシオ・トーレス閣下に優勝を報告するとともに、現地に関する情報提供などで支援を受けてきたことへの謝辞を述べました。



**11月4日** ソーラーカーチーム  
**下村文科大臣と丹羽副大臣がソーラーカーを紹介する展示を視察**  
 ■ 文部科学省庁舎内広報スペース(東京都千代田区)

下村文科大臣と丹羽副大臣が本学の展示『世界最高峰のソーラーカー』(文部科学省と大学・研究機関等との共同展示)を視察されました。山田清志学長が大臣を訪問したことにあわせて訪れたもので、2011年型『Tokai Challenger』のレプリカを前に、展示パネルを使いながらマシンの特徴やこれまでの活動を説明しました。



**2015年 1月15～19日** ソーラーカーチーム  
**「アブダビ・ソーラー・チャレンジ」に出場**  
 ■ アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国

本レースは中東初の大会として開かれたもので、UAEのほか、アメリカやオーストラリア、トルコなどから15チームが出場しました。本学では、国際石油開発帝石グループのジャパン石油開発や経済産業省の支援のもと、アブダビ首長国の石油大学(PI)とソーラーカーの共同開発プロジェクトを展開。PIの学生と協力しながら車体を製作し、PIチームも本学チームの2011年型『Tokai Challenger』とともに大会に参戦。モーター系のトラブルにより、惜しくも総合7位となりましたが『エレクトリカル・デザイン賞』に選出されました。なお、PIチームは総合2位になりました。



# スポーツ社会貢献プロジェクト

社会貢献  
湘南

学びのテーマ **スポーツの力を知る、伝える、広める**  
達成目標 **スポーツで社会に貢献する**

プロジェクトリーダー 柏原裕 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 3年  
サブリーダー 水谷早希 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 3年  
サブリーダー 長澤陸郎 体育学部 競技スポーツ学科 3年  
広報リーダー 鈴木杏唯 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 3年  
会計 新田祥大 情報理工学部 コンピュータ応用工学科 3年  
参加人数 57名

5月5日  
「秦野子どもまつり」で  
スポーツブースを出展  
■ 秦野市中央運動公園陸上競技場(神奈川県秦野市)

秦野市子ども健康部子ども育成課主催によるもので、会場には工作やスポーツゲームなどによるふれあいの場が設けられました。本プロジェクトは、“スポーツの楽しさを通じ家族のコミュニケーションを深めること”を目的に、『まてまてしっぽ』、『キックボリング』、『カラフルけんけんば』、『フライングゲット』、『あちこちどっち』、『わなげ』の6つのスポーツブースを出展。「もう一回やりたい」と何度もブースを訪れスポーツを楽しむ子ども達が多く見受けられました。



5月11日、10月3日  
「初心者のためのノルディック  
ウォーキング教室」を開催  
■ 平塚市西部福祉会館(神奈川県平塚市)

5月11日は、健康の維持・増進に関心の高い15名が参加。ストックを使った準備体操を実施後、平塚市西部福祉会館から神奈川県立花と緑のふれあいセンターまでの往復約4キロの道のりを約2時間かけて歩きました。メンバーはアドバイスで参加者をサポート。全員完歩することができました。10月3日は“高齢者の健康維持”を目的に開催し、15名が参加。メンバーは、前回の問題点であった参加者とのコミュニケーションを意識し、楽しく交流しました。



9月7日、10月12日  
ワークショップを開催  
■ 平塚市西部福祉会館(神奈川県平塚市)

9月7日に実施した「初級者のための卓球教室」では、“ラリーを続けるコツを身につけよう”をテーマに、卓球をまだ始めたばかりの方など20名が参加。メンバーがお手本を見せながら、フォアハンド打法やバックハンド打法のレクチャーをしました。10月12日に実施した「にこここ教室」では、“親子でコミュニケーションをとる”を目的に開催し、当日は13組の親子が参加。マットの上に転がりながら速さを競う運動や、散らかったおもちゃを片付けるゲームをしました。



10月11日、25日  
小学生を対象とした  
ワークショップを開催  
■ 大野子ども家・みなと子どもの家(神奈川県平塚市)

平塚市青少年会館より依頼を受け、小学生(主に低学年)に遊びを伝えるワークショップを毎年開催。今回で大野子ども家は3回目、みなと子どもの家は6回目の開催になりました。11日の大野子ども家での活動は、42名の小学生に対して音楽に合わせて新聞を破る『新聞ビリビリミュージック』をはじめ、4種類の遊びを子ども達と楽しみました。25日のみなと子どもの家では、募集を上回る49名の参加がありました。



11月15日  
「Youth age a go go festival」に参加  
■ いせはら市民活動サポートセンター(神奈川県伊勢原市)

伊勢原市が主催となり、“子ども達にスポーツの楽しさを伝える”を目的として開催しました。当日は伊勢原市内の3、4年生を中心とする小学生20名が集まり、メンバーは『大縄クイズ』や『仲間探しゲーム』など、7種類のスポーツを紹介しました。メンバーの大島春菜さん(体育学部生涯スポーツ学科2年次生)は「最初は1人でいた子が自然と他の友達と仲良くなっていき、“スポーツが持つコミュニケーションの力”を改めて実感しました」と語りました。



2015年 1月11日、18日  
「第7回東海スポーツDAY」を開催  
■ 湘南校舎総合体育館、土屋野球場(神奈川県平塚市)

11日に総合体育館で開催した「ニュースポーツ体験教室」では、12歳以下の児童と保護者109名が参加し、北日本物産に所属するプロテニスプレイヤーの布目千尋さんの指導による『レッドボールテニス』、FIKA SPORTS CLUBと、神奈川県スポーツ鬼ごっこ連盟による『スポーツ鬼ごっこ』を共に楽しみました。18日には本学硬式野球部と協力して「野球教室」を開催。平塚市、秦野市の少年野球チーム69名が参加しました。



# サイエンスコミュニケーター

社会貢献  
湘南

学びのテーマ **参加者の心を引きつけるコミュニケーション方法を学ぶ**  
達成目標 **理科離れを防ぎ、科学の楽しさを通して人と人とのつながりをつくる**

プロジェクトリーダー 廣瀬貴也 工学部 応用化学科 2年  
サブリーダー 中山梓 工学部 応用化学科 1年  
サブリーダー 藤田大洋 情報理工学部 コンピュータ応用工学科 1年  
広報リーダー 會澤智優 理学部 情報数理学科 2年  
会計 塩谷将人 理学部 物理学科 2年  
参加人数 50名

5月3日  
「エコプロジェクト×4大学  
共同イベント」に出展  
■ ベネッセコーポレーション東京本部(東京都多摩区)

ベネッセコーポレーションが、環境教育についてより多くの人々に考えてもらおうと実施したもので、本学のほか、お茶の水女子大学、帝京科学大学、法政大学がブースを出展しました。今回は“エコについて伝える”をテーマに、ロボットアームやブルブル自動車でのレースなど、玩具工作や簡単な実験を行いました。当日は約300名の方が来場。参加した児童からは「話がわかりやすく、ここ(本学ブース)が一番おもしろい」といった声も聞かれました。



5月4・5日  
「子ども科学館フェスティバル」に  
ブースを出展  
■ 伊勢原市立子ども科学館(神奈川県伊勢原市)

このイベントでは“身近な食べ物に触れ、『食』について考える”を目的とし、科学に親しみを持ってもらえるような企画を実施。2日間で518名が来場しました。1日目はメインの『人工いくら』の作成のほか、『ペットボトルで作る雲の実験』や『ロボットアーム』『浮沈子』『液化現象を表す実験』をし、2日目には前日に行ったもののほか元東海大学理学部教授の鈴木恒則氏による『バランストンプ』の作成を行いました。



10月11日  
「第22回大根ふれあい祭り」で  
ワークショップを開催  
■ 秦野市立大根小学校(神奈川県秦野市)

当日は大根地域の小学生とその保護者50名が企画に参加しました。会場内の「みんなであそぼう」のコーナーでは、長さの異なる金属棒を落として音色を奏でる『バンジーチャイム』を実施し、参加者全員で『星に願いを』を演奏しました。他にも回折格子フィルムと普通紙を用いてレインボーボックス(分光器)を作成。参加した小学生は、虹色に光る箱の中を楽しそうに覗き込んでいました。



12月24日  
「真土小学校クリスマスパーティー」  
で実験教室を実施  
■ 平塚市立真土小学校(神奈川県平塚市)

“真土地区子供会会員の健全な育成の為、多彩な活動により子供たちの心と身体の成長を願い、子供たちが楽しみ、いい思い出になる”ことを主旨に真土地区子供会会が主催したもので、育成会に所属する200名の小学生達が参加。“工作を通じて科学の楽しさを伝える”をテーマに科学実験教室を開催し、『分光器』の製作を行いました。なぜ光がカラフルに見えるのかが気になり、児童達はしきりに分光器を覗いては面白がっていました。



8月9・10日、11月8・9日、11月22日、2015年 3月14日  
「世界一行きたい科学広場」にブースを出展  
■ 宗像ユリックス・ホークスタウンモール(福岡県)、東海大学宇宙情報センター(熊本県)、浦安市総合体育館(千葉県)、湘南校舎

地域の子供達に科学の魅力やものづくりのおもしろさを伝えることを目的として、本学の教育研究機関が中心となって開催しています。各会場とも“真空の不思議を見てみよう”をテーマにブースを出展。透明の容器にマシュマロやお菓子の袋、空き缶を入れて容器内の空気量を調整し、その変化を観察する実験や、鉄製の半球2つを重ね合わせて内部を真空にし、その球に取り付けたブランコに乗ってもらう実験も行いました。



# 東海大学学生ロケットプロジェクト

ものづくり  
湘南

学びのテーマ **限られたリソース(人、物、お金、時間)の中での高性能かつ信頼性のあるロケット開発**

達成目標 **高度2kmに到達するハイブリッドロケットの開発**

プロジェクトリーダー	坂野文菜	工学部	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	4年
サブリーダー	佐野匠	工学部	精密工学科	4年
サブリーダー	中田裕一	工学部	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	4年
広報リーダー	岸里大輝	工学部	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	2年
会計	水野裕介	工学部	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	4年
参加人数 54名				

**4月5日～5月11日**  
**企画展「平塚の学生ロケット開発」展示・講演**  
■ 平塚市博物館(神奈川県平塚市)

平塚市博物館が3月に戦前のロケット開発に関する展示会を開いたことがきっかけとなり、同市内で活躍する本プロジェクトが企画展を行いました。より多くの市民の方々に活動を伝えるため、パネルや2012年度の打ち上げ実験の映像上映を行いました。さらに2014年3月に大樹町で打ち上げ、回収に成功したロケット『H-33』の機体や内蔵したエンジンの実物を展示しました。5月11日には、博物館が4月から開催している宇宙開発連続講座「ロケットを作ろう」の第3回にメンバーが登場。また講演会ではリーダーの坂野文菜さん(工学部航空宇宙学科4年次生)が登壇し、本プロジェクトがこれまで設計、開発してきたロケットの構造や特徴を解説。打ち上げの様子を紹介しながら、発射場の開拓や実際の打ち上げの手順について話しました。



**12月25・26日**  
**「ハイブリッドロケット教室」を開催**  
■ 湘南校舎

「ロケット甲子園」への出場を希望する高校生を対象に、ハイブリッドロケットの仕組みの説明や開発現場の紹介を通じ、ものづくりの知識とその魅力を伝えることを目的として開催されたもので、両日でのべ24名の生徒と引率の教員5名が参加しました。初日は活動の紹介とハイブリッドロケットの燃焼試験を披露。その後ハネの向きや枚数が異なる3種類のペットボトルロケットを飛ばす実験や交流会を行いました。最終日にはメンバーが講師となって「パラシュートと分離機構」「ロケットの機体について」「空力設計とシミュレーション」をテーマに講義。参加した生徒からは「貴重な実機を見学することができて感動し、ロケットの開発に携わりたいという気持ちが強くなりました」といった声が聞かれました。



**8月15～22日**  
**「能代宇宙イベント」で学生記録を更新**  
■ 能代宇宙広場(秋田県能代市)

一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム主催による本イベントは、ロケット打ち上げや自律ロボットの制御などを競う日本最大規模の大会です。昨年、同イベントに参加した際は、ロケットのパラシュート放出に失敗し、機体を大破させた反省を生かし、機体に改良を加え、ハイブリッドロケット『H-34』を完成。21日早朝に行われた『海打ち』部門で高度2403mを見事に達成し、学生記録を1100m以上更新。16日には陸上に打ち上げる『陸打ち』を行い、『H-35』で160mを記録。記録高度やマネジメント能力などを審査し、最も優秀なチームに贈られる同イベントの『MHIアワード2014』を、『海打ち』『陸打ち』両部門で受賞しました。また10回連続出場を記念して、イベントの第1回で使用した『H-5』を復元し、エキシビションとして17日に打ち上げました。メンバーの植松千春さん(工学部航空宇宙学科3年次生)は、「これを励みに、次は高度10kmを目指してさらにロケット開発を進めていきます」と話していました。



**2015年 3月7～10日**  
**ハイブリッドロケット打ち上げ実験**  
■ 大樹町多目的航空公園(北海道広尾郡大樹町)

今回の打ち上げはパラシュートが開いた際の衝撃を計測することが目的で実施されました。ハイブリッドロケット『H-37』は打ち上げから約9秒後に高度約350メートルに到達。無事パラシュートが作動し、地上で回収されました。メンバーの植松千春さん(工学部航空宇宙学科3年次生)は、「パラシュートが完全に開かなかったが、十分に減速した。今後の高性能化へ向け成果があった」と語りました。



# Tokai Formula Club

ものづくり  
湘南

学びのテーマ **社会的実践力の獲得**

達成目標 **日本大会・オーストラリア大会優勝**

プロジェクトリーダー	奈良祥太郎	工学部	動力機械工学科	3年
サブリーダー	佐藤京平	工学部	動力機械工学科	3年
サブリーダー	二木明穂	工学部	動力機械工学科	3年
広報リーダー	岡戸崇矩	工学部	動力機械工学科	3年
会計	齋藤敬樹	工学部	動力機械工学科	3年
参加人数 67名				

**5月18日**  
**「エコパ 走行技術トレーニング」に出展**  
■ 小笠山総合運動公園エコパ(静岡県袋井市)

今年度の車両はコックピットからエンジン搭載部まで全てをカーボン素材とした「フルカーボンモノコック」となっており、エンジンは昨年度の『4気筒エンジン』から大きく変わり『V型2気筒エンジン』を採用。それを縦置のコンパクトなレイアウトに仕上げることで、加速性・コーナリング性能のアップした車両となりました。エコパ走行会は昨年度の日本大会を再現したコースになっており、本番の大会にきわめて近い環境であるため、例年多くの大学が参加しています。本プロジェクトも毎年参加しており、今回は周回コース22周を完走しました。



**5月31日～6月1日、12月7日**  
**「第51・52回SHCCミーティング at 大磯ロングビーチ」に協力出展**  
■ 大磯ロングビーチ(神奈川県中郡大磯町)

20年以上前に生産されたヒストリックカーやクラシックカーなどの愛好者達が交流することを目的とした、湘南ヒストリックカークラブ主催によるイベントで、設営されたコースでタイムを競うジムカーナ形式の競技や貴重な車両の展示が年2回行われています。本プロジェクトは2014年度車両『TF2014』の走行及び広報パネルとの展開を行いました。デモ走行では「大学生が製作した車両とは思えない」など驚きの声が多数上がり、会場でも大きな注目を集めました。



**7月25・26日**  
**「キッズエンジニア2014」に出展**  
■ パシフィック横浜(神奈川県横浜市)

自動車技術協会主催の本イベントは、子ども達に科学やものづくりの楽しさを体験してもらいながら、将来の日本を支える技術者を目指すきっかけとなることを目的としています。当日は『TF2010』の展示をメインに、マシンのスペックや大会成績、設計からテスト走行までの体験談などをメンバーが説明。1500名以上の親子連れが来場し、約700名の子ども達が実際にレーシングカーに乗車。「カッコいい!」と目を輝かせながら喜んでいる姿が見られました。



**9月2～6日**  
**「第12回全日本学生フォーミュラ大会」に出場**  
■ 小笠山総合運動公園エコパ(静岡県袋井市)

今回で11回目の参加になり、1000点中735点を獲得し、96チームエントリー中総合6位の成績を取め、本プロジェクト創設以来2度目の入賞を果たしました。特にオリジナリティを追求したことが功を奏し、デザイン(5位)、プレゼンテーション(6位)、持久力&燃費(5位)の3部門で高い評価を受けました。本大会には大学関係者約8000名、一般見学者約2500名もの来場があり、当日は交通規制が行われるほどの盛況ぶりでした。



**12月11～14日**  
**「2014 Formula SAE Australasia」に出場**  
■ カルダーパークレースウェイ(オーストラリア・メルボルン)

大会では車検を通過した車体が、静的審査(3部門)、動的審査(5部門)の計8部門の総合点を競います。大会3日目に後輪の駆動部品が破損し、走行を続けることが不可能となりましたが、プロジェクトメンバーは、最後まであきらめず修理作業に取り組みました。しかし、チェック走行時に再び修復部分が破損してしまいエンデュランス審査と燃費審査を断念せざるを得ませんでした。結果は24チーム中、総合17位という記録に終わりました。





# 3.11生活復興支援プロジェクト

社会貢献  
湘南

学びのテーマ 人の話を聞き出す力を学ぶ

達成目標 2014年度行う企画のうち、他団体との共同企画を3つ行う

プロジェクトリーダー サブリーダー 広報リーダー 会計  
花塚優人 城森大地 藤崎一輝 山崎崇未  
工学部 建築学科 情報理工学部 情報理工学部 工学部 生命化学科  
2年 2年 2年 2年  
参加人数 72名

3月19日  
「ひらつな祭Vol.3」に  
東北物産展を出版  
■ 平塚市大門通り・平塚八幡宮(神奈川県平塚市)

“東北支援と地元防災力強化のために、『ひら』つなで『つな』がろう!”をスローガンとして開催されたもので、本プロジェクトでは岩手県大船渡市の物産を販売。防災ブースでは新聞紙スリッパの製作やペットボトルランタンの展示、現地調査での体験録や防災グッズを紹介するチラシを配布しました。



5月2～10日  
「どんぐりハウス」の解体作業を実施  
■ 三陸町越喜来泊地区(岩手県大船渡市)

仮設公民館として2011年に設計・建設された「どんぐりハウス」を、借地契約が切れることを期に解体しました。作業は再建するための部材を破損しないよう慎重に行い、トラックで移築先まで搬送。住民の方々の協力もあり、想定していた日程より2日早く終了しました。



7月26日  
「泊区公民館」落成式・感謝の会を開催  
■ 大船渡市泊区公民館(岩手県大船渡市)

本設公民館は、地区の集会所や拠点として、杉本洋文教授(工学部)の指導のもと、メンバーが基本計画を立案し、設計にも携わりました。落成式には、多数の地域住民や自治体関係者、学生7名、杉本教授と大塚滋教授(法学部)が出席し、地域の記念の日を祝いました。



8月6日  
「電子工作教室」を開催  
■ 大船渡市泊区公民館(岩手県大船渡市)

津波の被害で“遊びや集いの場が無くなった子ども達に向けた交流の支援”を目的として、浅川毅教授(情報理工学部)指導のもと本プロジェクトの学生11名、地域の児童14名が参加。左右に振ると文字が浮かぶLEDランプを製作し、子ども達は初めてのはんだ付けに挑戦。完成したLEDランプの点灯に歓声が上がりました。



8月16・17日  
「きまつり～森と木に包まれる夏～」に出展  
■ 小田原市いこいの森(神奈川県小田原市)

小田原市農政課主催の本企画で、被災地復興の支援報告や被災者の声を発信する復興ステーションの建設、設置したタワーに東北に向けてのエールを書いてもらうワークショップや東北物産品の販売を行いました。当日は78名の方が本ブースへ来場され、お祭りということもあり親子連れが多く見られました。



8月24日  
「結の道—夏夜に浮かぶ光—」を開催  
■ 三陸町越喜来泊地区(岩手県大船渡市)

地域住民を結ぶ散策路、「結の道」整備計画のスタートイベントを開催しました。当日は、海側に「みなと口」、山側には周囲の景色にちなんで「さくら口」と名づけ、地域の子も達と一緒にそれぞれの看板を作成。また、草を刈って整えた路上に、約25mごとに50個の行灯を設置して道のりを照らしました。



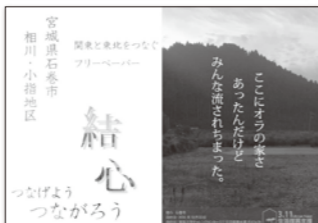
9月6・7日  
「避難所体験ワークショップ」に協力  
■ 町田市立町田第五小学校(東京都町田市)

大規模災害発生時に避難所となる体育館の天井は高すぎるため不安を感じやすく、休むには適しません。そこで天井を低く感じさせる、段ボールをつないだ大きな屋根づくりをメンバーが発案。同小の児童約25名とその保護者の方々とともに、用意した段ボールの工作に挑戦しました。



10月30日  
広報誌「結心」第2号を発行  
■ 宮城県石巻市相川・小指地区でのボランティア体験をまとめた広報誌を、一般の方々に配布。本校建学祭では来場者184名の方達に手にとってもらうことができました。読者からは「私も機会があれば行ってみたい」といった声をいただきました。

宮城県石巻市相川・小指地区でのボランティア体験をまとめた広報誌を、一般の方々に配布。本校建学祭では来場者184名の方達に手にとってもらうことができました。読者からは「私も機会があれば行ってみたい」といった声をいただきました。



12月13・14日  
ワークショップ「思い出をぬろう」を開催  
■ 相川・小指地区どんぐりハウス(宮城県石巻市)

“震災を経験したことのない世代の人達”に当時の記憶を形として表現し、伝えていくためにイベントを実施し、メンバー9名と周辺の仮設住宅にお住まいの18名が参加。用意した白模型を前に、震災前の思い出をたどり、自分の家やご友人の家の場所を探る姿が見られました。



# 病院ボランティアプロジェクト

社会貢献  
湘南

学びのテーマ 工程管理力・情報共有力を学ぶ

達成目標 プロジェクト企画をきっかけに病院ボランティアに関わる人を増やす

プロジェクトリーダー サブリーダー 広報リーダー 会計  
大西康仁 梶原大輔 大西康仁 山口郁  
工学部 建築学科 工学部 建築学科 工学部 建築学科 工学部 医学生体工学科  
2年 1年 2年 2年  
参加人数 50名

8月20日  
「第15回院内コンサート」を開催  
■ 本学医学部付属病院(神奈川県伊勢原市)

本学医学部付属病院の患者様とご家族を対象に“夏祭り”をテーマに開催。早稲田大学三味線サークル『三津巴』と色鮮やかな衣装でよさこいを舞う『いせはら舞呼』が出演し、プロジェクトメンバーが夏祭りの屋台や花火をモチーフにした飾りで会場を演出。166名の方が来場しました。



9月8・9日  
「自主勉強会」を開催  
■ 湘南校舎8号館

グループ討議に必要な不可欠なコミュニケーションスキルであるファシリテーションの技術を身につけることを目的として、本プロジェクトのメンバーと他プロジェクトのリーダー70名が参加。はじめに高橋操さん(チャレンジセンター推進室職員)が講義。その後、少人数のグループに分かれグループ討議を実施しました。



11月5日  
「学生ボランティア賞」を受賞  
■ 神戸国際展示場(兵庫県神戸市)

本プロジェクトの年間を通じた様々な活動が、公益財団法人ソプロチミスト日本財団のSI厚木より推薦を受けて受賞したもので、全国から約2800名のソプロチミスト会員と受賞した103組が集まる中、吉永将太郎さん(教養学部人間環境学科3年次生)が登壇し賞状を授与されました。



11月29日  
「第1回癒しのイベント 秋の合唱会～西湘(青松)の風にのせて～」を初開催  
■ 本学医学部付属大磯病院(神奈川県中郡大磯町)

入院生活のストレスや不安を少しでも和らげることを目的とし大磯病院での初の開催となる本イベントに、89名の患者様とご家族が来場。平塚湘南高等学校と平塚江南高等学校の合唱部の協力のもと、メンバーは会場やパンフレットに「秋」を感じられるような装飾を施すとともに、秋にちなんだ楽曲などを披露しました。



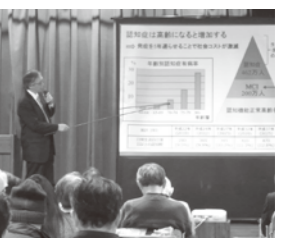
2015年 2月16日  
小児患者への絵本完成  
■ 関野小児科内科クリニック(神奈川県秦野市)

子ども達に予防接種の大切さを伝える絵本『チクッはがんばりのしるし〜ちゅうしゃがんばるぞ〜』を完成させ、製作に協力、監修した同クリニック関野高弘理事長に贈呈しました。今後、公共施設や小学校に配布し、メンバーも読み聞かせを行います。イラストを上野加奈さん(教養学部芸術学科3年次生)が協力しました。



2015年 2月28日  
医療セミナー「私たちの認知症」を開催  
■ 平塚商工会議所(神奈川県平塚市)

社会問題になりつつある「認知症」の正しい知識を身に付けてもらおうと、セミナー「私たちの認知症～支えるためにできること～」を開催。講師に東京都医学総合研究所認知症プロジェクトの秋山治彦氏を招き、認知症の症状、予防法、当事者への接し方などを説明。約70名が耳を傾けました。



11月1日、2015年 2月28日  
広報誌「BRIDGE」の発行

社会と病院を繋ぐ広報誌「BRIDGE」を制作。11月1日には“病院がもたらすものは何か?”をテーマに、医師・看護助手・本プロジェクトリーダーの座談会を掲載するなど特集ページを設けた2号を、また、病院ボランティアを始めるきっかけ作りとなることを目的とした「BRIDGE mini」を2015年2月28日に発行しました。



2015年 3月7日  
ワークショップ「ボランティアの展望」を開催  
■ 伊勢原校舎3号館会議室

ボランティア活動を通じメンバーが抱く違和感や不安などをボランティアに携わる学内外の方々と共有し、今後活かしていくことを目的とし開催。第一部は本学健康科学部の妻鹿ふみ子教授が「ボランティアの可能性」と題し講演、第二部は「ボランティアの展望」をテーマに市民と意見交換会を行いました。



# キャンパスストリートプロジェクト

地域活性  
湘南

学びのテーマ **自ら考え積極的に行動する力を身につける**

達成目標 **地域のあらゆる人々が盛り上げていく街づくり**

プロジェクトリーダー 関根太陽 文学部 歴史学科日本史専攻 3年  
 サブリーダー 齊藤優佳 文学部 アメリカ文明学科 3年  
 サブリーダー 鈴木智志 文学部 歴史学科日本史専攻 3年  
 広報リーダー 山田成徳 文学部 広報メディア学科 3年  
 会計 山根彩花 文学部 心理・社会学科 3年  
 参加人数 52名

7月1～3日  
**「TOKAI音食WEEK2014」を開催**  
 ■ 湘南校舎噴水前特設ステージ

学生、教職員、地域住民の有志によるライブパフォーマンス『音』と、湘南校舎近隣の飲食店が出店する『食』の2つをコラボレーションさせることで地域交流を図り、キャンパス周辺地域をさらに盛り上げていくことを目的として開催。ステージ企画のほか、秦野・平塚市内の飲食店による大判焼き、スムージー、トルコ料理などの出張販売に、学生や教職員をはじめ近隣の住民の方々も多数訪れ、思い思いにイベントを満喫しました。



10月12日  
**地域の花壇植栽に協力**  
 ■ 小田急線東海大学前駅(神奈川県秦野市)

東海大学駅前商店会協同組合および日の出自治会(北矢名)と協力して“秦野市と東海大学のつながりを表すこと”“東海大学前駅の利用者が癒しを感じる憩いの場をつくること”を目的に実施。東海大学が育成する4つの力『自ら考える力』『集い力』『挑み力』『成し遂げ力』を示す4色(青色、緑色、オレンジ、ピンク)をパンジー、ゴールドクレスト、秦野市の花として定められているナデシコを使って表現しました。



4月17日～7月17日、10月2日～12月18日の隔週2回  
**障がい者の自立支援のための「パン販売」を実施**  
 ■ 湘南校舎1号館前・中央通り時計台前

社会福祉法人かながわ共同会秦野精華園を利用している方の自立支援の一環として活動するもので、園内で製作したパンを施設利用者自身が学内で販売し、メンバーは主に販売場所の設置や会計補助業務を行いました。また販売個数などのデータを集計・分析することでマーケティングの実践の場としても活用。新商品開発の提案や、商品POP制作など販売促進に努め、春・秋学期で計44回販売を行い、合計437,217円を売上げました。



11月19日  
**「第2回ペットボトルライト製作教室」を開催**  
 ■ 秦野市立大根幼稚園(神奈川県秦野市)

小田急線東海大学前駅南口広場で実施しているイルミネーションイベント「クリスマスU-night」にてクリスマスツリーと合わせてライトアップする『ペットボトルライト』を製作。当日は園児73名と職員8名、合わせて81名が参加しました。大根幼稚園職員の方からは「子ども達が喜ぶ企画をしていただきたいと思います」「この企画だけでなく、いつでも幼稚園に来て園児と遊んでほしい」などの声が聞かれ、今後も本プロジェクトとの交流を望むご意見もいただきました。



12月1～24日  
**「クリスマスU-night2014」を開催**  
 ■ 小田急線東海大学前駅南口広場(神奈川県秦野市)

8回目を迎えた本イベントは、昨年度に引き続き小田急線東海大学前駅南口広場において学生自らの手でイルミネーションを施した7mツリーを設置し、併せて幼稚園に訪問し作成したペットボトルライトでライトアップしました。また、湘南校舎のシンボルである1号館鉄塔をツリーに見立て点灯し、地域をクリスマスらしい演出で繋ぎました。12月7日には、松ぼっくりにビーズや綿などで飾りつけ、小さなツリーを作成する『オーナメント教室』や、サイエンスコミュニケーターの学生と協力して『スノードームの製作教室』を開催し、期間中約100名の近隣の親子連れが訪れました。



9月14日  
**異文化交流イベント「ブラジルの世界をのぞいてみよう!」を開催**  
 ■ 秦野市立南公民館(神奈川県秦野市)

外国籍の児童が地域に溶け込むきっかけをつくろうと開催したもので、秦野市在住の小学校低学年の児童7名とその保護者4名が参加しました。ブラジル人へのサポート活動に取り組む中村エリカさん(神奈川県立地球市民かながわプラザ)の講演や、ブラジルの遊びを楽しんだ後、意見交換を実施。最後に参加者全員で映画『アナと雪の女王』の『Let It Go』を合唱し、ポルトガル語に馴染みのない子も一生懸命歌う姿も見られ、大いに盛り上がりました。



# Tokai International Communication Club

国際交流  
湘南

学びのテーマ **自分なりの多文化共生**

達成目標 **多様な視点から多文化共生社会を意識する社会を創る**

プロジェクトリーダー 新倉和矢 政治経済学部 経営学科 2年  
 サブリーダー 荒井詩穂 理学部 物理学科 2年  
 サブリーダー 中嶋萌絵花 観光学部 観光学科 2年  
 広報リーダー 原田口昂弘 文学部 アジア文明学科 2年  
 会計 小澤菜月 工学部 材料科学科 2年  
 参加人数 75名

4月2日～7月17日、8月5・6日・20～22日、9月24日～2015年3月21日  
**「にこティー教室」「夏休み宿題やつつけプロジェクト」を開催**  
 ■ 秦野市立南公民館(神奈川県秦野市)

秦野市在住でボリビアやペルーなどの国と関わりのある小中学生および未就学児童10名以上を対象に日本語の読み書きなどの学習支援を実施。好評だったため夏休み中も継続し、漢字や数学の問題集から絵画、工作に至るまで様々な夏休みの宿題のサポートを行いました。企画名は、参加した生徒達がメンバーを“いつもニコニコしているティーチャー”、略して“にこティー”と親しみを込めて呼んでくれたことに由来しています。



4月26日、10月11日  
**「スポーツ交流会」を開催**  
 ■ 湘南校舎高間原グラウンド

本学留学生と日本人学生の交流する機会を設け、スポーツ・レクリエーションを通し、国際交流の楽しみを知ってもらい、多文化共生の第一歩となることを目的として開催。当日は留学生16名を含む約60名が参加し、5種類の競技を実施しました。好天に恵まれ強い日差しの中でしたが、まな水分補給と安全面に配慮した運営で、けが人を出すことなく無事イベントは終了。参加者、企画者ともに笑顔あふれる催しとなりました。



9月2日  
**「日本文化交流会」を開催**  
 ■ 翰林日本語学院(神奈川県横浜市)

日本語を学ぶ中国やタイなどの留学生から、「日本語学校以外で、日本人との交流の場をつくってほしい」といった要望を受けて毎年行っているもので、日本語を実践的に学習してもらおうための機会を設けることで、日本文化についてより深く知ってもらうことを狙っています。当日はまず、参加した33名の留学生を4・5名のグループに分け、書道を教えました。続いて団子作りを行ない、最後はできた団子にあんこを付けて全員で味わいました。



11月14日、12月12日  
**「For the Future ～グローバル化していく日本社会～」を開催**  
 ■ 湘南校舎8号館

“多様な視点から多文化共生を意識する社会を創る”を目標に本企画を開催。第1回は「1964年の東京五輪から2020年の東京五輪を考える」と題してプレゼンテーションを実施。第2回は「観光」をテーマに服部泰講師(本学観光学部)が講演。その後「外国人に伝えたい日本文化」をテーマにディスカッションを行いました。留学生の参加もあり、両日合わせて約60名が参加しました。



2015年 1月9日  
**「餅つき大会」を開催**  
 ■ 湘南校舎コムスクエア前テラス

留学生に日本の正月行事を体感してもらおうとともに、一般学生との交流を深めようという目的で今回初めて企画。12カ国ほどの留学生40名を含めた100名以上の学生が参加しました。留学生の多くは杵を持ったことがなく、最初は戸惑った様子でしたが、「楽しんで、強くついてみよう」とアドバイスを受けてすぐに上達。「餅を食べたことはあったが、こんなに美味しかったのは初めて」といった声が聞かれました。



# 環境キャラバン隊

社会貢献  
湘南

学びのテーマ 500人に学びの場を提供する。そのために自分たちが実際に貢献活動をして説得力を上げる  
達成目標 500人に身近なエコについて伝える

プロジェクトリーダー 石塚杏奈 3年  
サブリーダー 内藤由佳 3年  
サブリーダー 梅津麻衣 2年  
広報リーダー 都野義樹 2年  
会計 小倉有貴 2年  
教養学部 人間環境学科自然環境課程 3年  
教養学部 人間環境学科自然環境課程 3年  
教養学部 人間環境学科自然環境課程 2年  
工学部 光・画像工学科 2年  
教養学部 人間環境学科自然環境課程 2年  
参加人数 50名

9月10日、12日  
[2014年度夏季エコキャラバン]を開催

■ 相模原市立東林小学校(神奈川県相模原市) 秦野市立広畑小学校(神奈川県秦野市)  
メンバー扮するエコレンジャーが登場する環境劇を通じて、4年生の児童達にエコの大切さを伝えることを目的としており、今回で5回目の開催となりました。環境劇ではゴミに関する〇×クイズを出題。その後4・5人のグループに分かれ、普段の生活の中で少しでもゴミの量を減らすための「体験授業」を実施しました。



11月29日  
[富士環境フェア]にて環境劇を披露

■ 富士市産業交流展示場(静岡県富士市)  
静岡県富士市から要請を受け参加した本企画は、エコレンジャーショーに代わり、『エコウェーブ』が主役となり「エアコンの夏の設定温度は28℃、冬は20℃が適温である」などを答えるクイズを実施。未就学児から小学校低学年の子ども達約20名が集まり、より年齢の低い子ども達でも理解できる問題づくりが必要なきづくりに良い機会となりました。



2015年 3月3日  
[2014年度春季エコキャラバン]を開催

■ 付属小学校(静岡県静岡市)  
5年生の児童30名を対象に、捨てられた生ゴミやペットボトル、アルミ缶などの「身近なゴミの分解年数」を学習のテーマに取り上げ、児童達はグループに分かれてゴミが土に還るまでの時間を予想しました。『エコウェーブ』も登場し、「ポイ捨てされたゴミはすぐには消えて無くなる。きちんとゴミの分別をしましょう」と伝えました。



# Beijo Me Liga

国際交流  
湘南

学びのテーマ 共生社会につながる異文化交流  
達成目標 言葉以外のコミュニケーション

プロジェクトリーダー 清原海樹 2年  
サブリーダー 村田雄大 3年  
サブリーダー 流田春美 2年  
広報リーダー 小針有翔 2年  
会計 平田佑依 3年  
工学部 土木工学科 2年  
工学部 土木工学科 3年  
文学部 ヨーロッパ文学科 2年  
理学部 化学科 2年  
法学部 法律学科 3年  
参加人数 81名

4月20日  
[Easter(イースター)]を開催

■ 中央青年の家跡地自然園(神奈川県厚木市)  
日本人にはあまり馴染みのないイースターを通してブラジルの文化に触れると同時に、習慣や文化などを教えることでブラジル人の児童達が日本に興味を持つことを目的に実施。当日はイースターバニーの耳をつけて隠された卵を探し出す『エッグハント』や、卵の殻を割らないようにして転がす『エッグロール』などを通じて交流を深めました。



8月6～8日  
[マルチカルチャーキャンプ]を開催

■ 湘南校舎  
“お互いの文化を知り、つながっていく”をテーマに、国内のブラジル人学校の生徒・児童、一般の方、合計97名を湘南校舎に招き、メンバー39名と3日間に渡っていろいろなアクティビティを行いました。初日は人見知りをしてしまう生徒が多かったものの、最終日にはメンバーとの別れを惜しむ姿が見られました。



8月18日～9月21日  
[エスコラ・アクアレラ・ブラジル・サマーキャンプ]を開催

■ エスコラ・アクアレラ・ブラジル(神奈川県厚木市)  
県内唯一の日系ブラジル人学校の未就学児から中学生までの25名を対象に、夏季休暇期間を利用して“日本の文化に触れる”をテーマに体験教室を実施。絵本の読み聞かせや絵画教室、厚木市資源化センター見学、ハイキングでの虫・魚とりなど、参加した子ども達は初めて見るもの・触れるものに興味を持ち楽しそうな様子でした。



# Music Art Project

社会貢献  
湘南

学びのテーマ 音楽を通して、人とのつながりを深めたい  
達成目標 学内外の人々に、より音楽を身近に感じてもらいたい

プロジェクトリーダー 吉田安那 3年  
サブリーダー 福井ひかる 2年  
サブリーダー 石川健斗 4年  
広報リーダー 藤間田智美 3年  
会計 堀藤太 2年  
教養学部 芸術学科音楽学課程 3年  
教養学部 芸術学科音楽学課程 2年  
教養学部 芸術学科音楽学課程 4年  
教養学部 芸術学科音楽学課程 3年  
教養学部 芸術学科音楽学課程 2年  
参加人数 136名

7月5日  
サマーコンサート  
[Summer☆time]を開催

■ 湘南校舎松前記念館講堂  
“楽しい夏の始まり”をテーマに、バグパイプの独奏での『AMAZING GRACE』や管弦打楽器アンサンブル『宝島』など計12曲を披露。曲の合間で夏をイメージしたBGMや白と黄色の爽やかな衣装の司会者など、会場とステージの“夏らしさ”の一体感を演出し、学生や地域の方々など65名が来場しました。



11月1日  
[MAPFESTA2014  
～音楽で開く記憶のトビラ～]を開催

■ 湘南校舎10号館  
第1部では音楽とピアノの伴奏によるモーツァルトの曲や、ディズニー映画に使用されている『いつか王子様が』、『Under the Sea』をコントラバス、ホルン、トロンボーン、ピアノ、カホンの5つの楽器でアンサンブル演奏。第2部では『思い出ステージ』と題し、『ねむの木の子守歌』、『昴』、『涙そうそう』などを披露しました。



12月22日  
[Christmas Concert 2014]を開催

■ 湘南校舎松前記念館講堂  
“大人のクリスマスコンサート”をテーマに、クリスマス曲だけではなく落ち着いたクラシックを多く取り入れるなど選曲にもこだわり、第1部では声楽独唱で『アヴェ・マリア』、第2部では『くろみ割り人形より金平糖の踊り』、エレクトーンの独奏による『アナと雪の女王』メドレーなど全17曲を披露。26名が来場しました。



# DANDANDANCE AND SPORTSプロジェクト

社会貢献  
湘南

学びのテーマ ダンスを通して 集う 繋がる 創り出す  
達成目標 身体表現、パフォーマンスを通じ地域とつながる

プロジェクトリーダー 小安健太 4年  
サブリーダー 鈴木智也 3年  
サブリーダー 山田大貴 3年  
広報リーダー 金鹿栞 4年  
会計 工藤剛志 4年  
体育学部 体育学科 4年  
体育学部 体育学科 3年  
体育学部 体育学科 3年  
スポーツレジャーマネジメント学科 4年  
体育学部 体育学科 4年  
参加人数 56名

6月25日、8月3日、10月10日、11月20日、12月16日、1月25日  
[スペシャルワークショップ]を開催

■ 湘南校舎松前記念館講堂・コムスクエア・15号館、平塚市金目公民館(神奈川県平塚市)  
初心者でも身体表現の喜びや身体を動かすことの楽しさを実感することを目的に、田巻以津香講師(本学体育学部)による「はじめてのダンス」、D-Life Dance SchoolのTAIHEY氏による「R&B」「HIPHOP」、亀田里奈講師(本学体育学部)による「ヨガ」、本学モダンダンス部による「ストリートダンス」、本学チアリーディング部による「チアリーディング」、Co.山田うんによる「創作ダンス」を開催し、広報活動に力をいれ、のべ100名以上の市民や学生が来場しました。

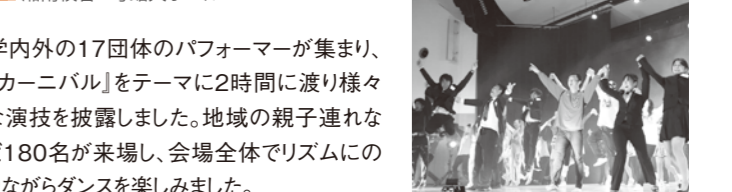


10月3日  
[2014秋 プレ公演]を開催

■ 湘南校舎松前記念館講堂  
本学のダンスのクラブやサークル同士の交流を図ることを目的として開催。本学モダンダンス部より3チーム、よさこいサークル響、本プロジェクトより2チーム、計125名がリズムに合わせて舞い踊りました。

2015年 3月1日  
第4回DANDANDANCE & SPORTS公演

■ 湘南校舎 2号館大ホール  
学内外の17団体のパフォーマーが集まり、『カーニバル』をテーマに2時間に渡り様々な演技を披露しました。地域の親子連れなど180名が来場し、会場全体でリズムにのりながらダンスを楽しみました。



# Takanawa共育プロジェクト

地域活性  
高輪

学びのテーマ 地域と学生とが共に育つ企画の展開

達成目標 地域交流でのコミュニケーションの確立と地域活性化

プロジェクトリーダー	鈴木琢也	情報通信学部	通信ネットワーク工学科	3年
サブリーダー	池本昌史	情報通信学部	通信ネットワーク工学科	3年
サブリーダー	田口幸来	情報通信学部	通信ネットワーク工学科	2年
広報リーダー	片岡優子	情報通信学部	通信ネットワーク工学科	2年
会計	大前寛尚	情報通信学部	情報メディア学科	3年
				参加人数 47名

5月4・5日

## 「高輪のれんノ市」の運営をサポート

■ 高輪校舎周辺各所

期間中は飲食店などの屋台が並んだほか、民謡に合わせて踊りながら練り歩く『おわら踊り』なども行われました。参加した16名のメンバーは、屋台のテントやゴミ箱などの設置や会場案内を担当。また半径100メートルほどの受信範囲にラジオ放送するイベントにも参加し、本プロジェクトの活動について紹介しました。



5月17・18日

## 「浅草神社例大祭(三社祭)」に参加

■ 東京都台東区

本プロジェクトは高輪地区の祭りへの参加などを通じて交流のある高輪神輿同好会の協力を得て、昨年度から特別に浅草氏子の44町会の一つである町会神輿を担いでいます。今回は2日間でのべ13名のメンバーが参加。千束二丁目西町会の神輿のほか、本社神輿の1基を、同好会会員とともに担ぎました。



9月11～13日

## 気仙沼で「テニススクール」を初めて開催

■ 気仙沼市立気仙沼中学校(宮城県気仙沼市)

硬式テニス部に所属のメンバーを中心に、高輪地区の住民を対象として月1回程度テニススクールを実施しており、そのノウハウを生かすことで、被災地の人々とより深く交流することを目的に企画。当日は同中学校の生徒約30名と試合形式の練習を実施。動きの一つひとつを丁寧に指導しました。



12月1～25日

## 「クリスマスイルミネーション」を点灯

■ 高輪校舎・付属高輪台高等学校

高大の連携を深めようと同高生徒会と協力してクリスマスツリーを設置。9日には、メンバー10名と生徒7名が協力して付属高輪台高等学校のツリーにイルミネーションを飾り付け、点灯式を行いました。メンバーは、「生徒と力を合わせ、満足のいくクリスマスイルミネーションを完成させることができました」と話していました。



8月23・24日、30・31日

## 多数の地域イベントをサポート

■ 高輪校舎周辺各所

23日と24日に麻布十番商店街で開催された「麻布十番納涼祭り」では、東日本大震災の復興支援活動で交流のある宮城県の株式会社白福本店が出展した宮城ブースの運営に協力し、特産品の販売などを行いました。またメリーロード高輪からの依頼を受け、高野山東京別院で行われた「高輪盆踊り」にも参加。輪投げや的当てなどができる遊戯コーナーを手伝いました。さらに30、31の両日には、泉岳寺前児童遊園で開催された「夏祭り大盆踊り大会」で、商品の引換券の配布や出店の販売の手伝い、地域の催しを盛り上げました。



12月12日

## 「クリスマスワークショップ」を開催

■ 高輪校舎学生食堂コモドール

オリジナルキャンドルの制作を手がける LMF HEAD OFFICE & STUDIO 大阪ユカ氏の協力で、ゼリー状の色つきワックスにスパンコールなどの装飾を施す『ジェルキャンドル』と熱したグルーガンを用いてキャンドルをドライフラワーで彩る『ドライフラワーキャンドル』の2種類を作成。会場には約35名の親子連れが集まりました。プロジェクトメンバーは子ども達と楽しく交流。キャンドルの火災によるやけどなどがないように見守りました。また、会場では本学ジャズ研究会『Takanawa Jazz Ensemble』による「Xmas演奏会」も開催し、参加者はジャズバージョンのクリスマスソングを楽しみました。



# 先端技術コミュニティACOT

ものづくり  
熊本

学びのテーマ コミュニケーション能力

達成目標 先端技術を活用した新しい仕組み、システムを開発することを通じて連携活動を強化し社会貢献に寄与する

プロジェクトリーダー	森本智	産業工学部	電子知能システム工学科	3年
サブリーダー	島津貴大	産業工学部	電子知能システム工学科	3年
サブリーダー	小川幹矢	産業工学部	電子知能システム工学科	3年
広報リーダー	堀文哉	基礎工学部	電気電子情報工学科	2年
会計	花岡舜	基礎工学部	電気電子情報工学科	2年
				参加人数 34名

6月7日、14日

## 「ロボットサマースクール2014in熊本」をサポート

■ 付属熊本星翔高等学校(熊本県熊本市)

小学4年生から中学3年生までを対象に、自動で走行するレゴブロックのロボット作成を通じ、ものづくりの面白さを知ってもらうために毎年開催しています。今年は2日間で70名の児童と生徒が参加。参加者に組み立て方をアドバイスするとともに、迷路やコースにチャレンジする走行会も実施しました。



8月10日

## 「世界一いききたい科学広場in熊本」に出展

■ 東海大学宇宙情報センター(熊本県上益城郡益城町)

地域の子供達に科学の魅力やものづくりの面白さを伝えることを目的に、本キャンパスの教職員が中心となって実行委員会を組織。当日は、住民ら約2700名が来場しました。本プロジェクトは、スマートフォンのソフトを使って4枚羽の飛行ロボット操作体験や牛乳パックを使ったブーメラン製作を実施しました。



9月20・21日

## 「ETロボコン」のチャンピオンシップ大会出場決定

■ 九州産業大学(福岡県福岡市)

九州地区大会に出場。昨年度から新設されたアーキテクト部門で、チーム『東海どーかい!?』として出場したメンバー4名が優勝を飾りました。デベロッパー部門に参加した4名のメンバーによるチーム「ACOT」は、コースアウトによりリタイアとなりました。



11月19・20日

## 「ETロボコン」チャンピオンシップ大会に出場

■ パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

今回製作したロボットは、スペースシャトルをイメージ。コースに配置した色を読み取り、その色に応じて音を出すことで『きらきら星』を演奏します。予選ではゴールで月をイメージしたガジェットに旗を立てるパフォーマンスを披露しましたが、本戦ではゴールに宇宙エレベーターをモチーフにしたガジェットを設置。そこに機体が触れることで月に向かってエレベーターが上昇し、到着すると旗が立つ仕組みを新たに加えました。本番ではマシンが傾いてしまうアクシデントが発生し、コース中心から外れて走行したため、宇宙エレベーターによるパフォーマンスは実現せず、総合9位の成績となりました。

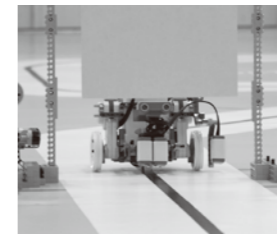


10月18日

## 「スマートデバイスGP 福岡大会」に初参戦

■ 西新パレスホール(福岡県福岡市)

今回初めて開催された本大会は、最新の自動車に導入されつつある安定走行制御や自動ブレーキ、自動パーキングのシステムを、2輪および4輪の自律走行するマシンに組み込み、そのスピード精度を競いました。参加15チーム中、本プロジェクトは完走したチームが6位、もう1チームが9位という結果でした。



12月20日

## 「クリスマスサイエンスパーティー」を開催

■ 熊本校舎カフェテリアSiesta

本学付属熊本星翔高等学校サイエンス部と協力し、『LEDランプを作ろう』『レゴロボット体験コーナー』『空飛ぶロボットコーナー』など5つの科学実験コーナーを開きました。会場には、地元の小学生と保護者約65名が来場し、参加した子ども達は熱心に実験に取り組みました。他にもジャズ研究会による演奏会が行われました。



2015年 1月10・11日

## 「八代子ども科学フェア」でワークショップを開催

■ やつしろハーモニーホール(熊本県八代市)

“科学に対して苦手意識を持つ子どもへの興味喚起”を目的に、八代市と八代工業振興協議会が主催。会場には親子連れが多く来場し、『簡単モーターを作ろう』『輪ゴム銃で遊ぼう』『Legoロボット操縦』『ARで動く塗り絵』『PHANTOM2による空撮』の5種類のワークを行いました。



# メカトロマイスター

ものづくり

熊本

**学びのテーマ** 初めて立ち上げたプロジェクトチームをどのようにまとめ、組織論と技術を学ぶための土台をどのように作り、そのための運営をどのように行っていくかを学ぶ

**達成目標** レスキューロボットコンテスト予選(6月)を突破し本選(8月)出場、ソーラーカーレース鈴鹿に出場しクラス6位入賞を目指す

プロジェクトリーダー	仲田祐己	産業工学部	機械システム工学科	4年
サブリーダー	山田健太郎	産業工学部	機械システム工学科	4年
サブリーダー	野田基晴	産業工学部	機械システム工学科	3年
広報リーダー	山田健太郎	産業工学部	機械システム工学科	4年
会計	野田基晴	産業工学部	機械システム工学科	3年
参加人数 31名				

**8月1・2日**  
[FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP マイナビソーラーカーレース鈴鹿2014]に参戦

■ 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

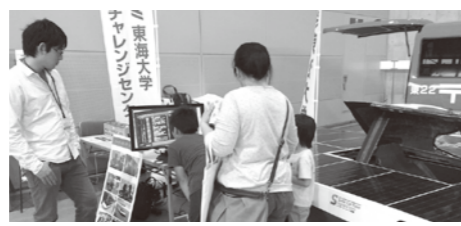
5時間耐久レース(フルコース1周5.807km)に挑み、22台中17位で、昨年より17周多い41周を周回することができました。メンバーの野田基晴さん(産業工学部機械システム工学科3年次生)は「来年度は上位入賞を果たすため、新しい車体を製作中。運転技術向上を目的としたサーキット場での走行練習も計画しています」と語りました。



**10月11・12日**  
[EVフェスティバル九州inくまもと]でソーラーカーを展示

■ グランメッセ熊本(熊本県上益城郡益城町)

電気自動車や低公害車に対する興味を深めてもらうとともに、地球温暖化防止について考える場を提供する目的で行われ、本プロジェクトは『ソーラーカーレース鈴鹿』に出場したマシン『Nextage』を展示しました。両日とも多数の来場者があり、メンバーはブースを訪れた人たちにマシンの性能を紹介。専門的な内容の質問にも答えていました。



**3月~10月**  
UAE・石油大学とのソーラーカー共同製作プロジェクトに参加

■ 熊本校舎

ライトパワー・プロジェクトと共に2015年1月にUAE(アラブ首長国連邦)で開催された「アブダビ・ソーラー・チャレンジ」に出場するUAEの石油大学(PI)チームのマシンを共同で製作。同時に、PIの学生向けの研修を実施したほか、8月から9月下旬には大学の学生がPIを訪れてマシンの制作をサポート。10月19日にテスト走行を終えて無事引き渡すを終えました。



# 熊本地域プロデュースプロジェクト

社会貢献

熊本

**学びのテーマ** PDCAサイクル目標達成のための実践的活用(工程管理の円滑化)

**達成目標** 熊本県の地域づくりの事例分析

プロジェクトリーダー	白澤諒	総合経営学部	マネジメント学科	3年
サブリーダー	棚田厚	総合経営学部	マネジメント学科	3年
サブリーダー	新美誠生	経営学部	観光ビジネス学科	2年
広報リーダー	酒井花栄	産業工学部	電子情報システム工学科	3年
会計	榎本悠矢	総合経営学部	マネジメント学科	3年
参加人数 31名				

**4月29日**  
御船町恐竜博物館リニューアルオープンに伴う来館者満足度調査を実施

■ 御船町恐竜博物館(熊本県上益城郡御船町)

本セレモニーにボランティアスタッフとして参加し、来館者に対して、独自アンケートによる満足度調査を実施しました。後日、アンケート結果を集計・分析し、御船町役場へ報告。今後の運用の参考になると非常に喜んでいただきました。



**2015年 1月17日**  
[御船町日帰りツアー]を実施

■ 熊本県上益城郡御船町

恐竜博物館での満足度調査の結果を踏まえ、リピーター客の増加と訪問者滞在時間の延長を目的とした、家族向け日帰りツアーを実施。当日は保育園児と小学生、その保護者ら11名の参加があり、水越地区で収穫したもち米を使った餅つきなどを体験。御船町の魅力を発見してもらいました。



**2015年 1月30日**  
熊本の魅力を学生目線で発信するフリーペーパー「望達(noah)」を発行

熊本の魅力を情報発信するため、学生目線で取材・編集したフリーペーパーを発行しました。記念すべき第1号は、熊本の「食」に着目し、熊本県人に昔から愛されている食堂などの紹介および、熊本の城下町の歴史や文化についても紹介しています。



**2015年 2月9日**  
[熊本の広告代理店から学ぶフリーペーパー活用セミナー]を開催

■ 熊本校舎

県内の広告代理店(ゆうプランニング)社長の木村氏を講師として招き、学生に向けて、地域の魅力を伝えるためのポイントや、読者の年齢層に合わせた有効なデザインなどについて講演いただきました。



# 阿蘇援農コミュニティプロジェクト

環境・農業

阿蘇

**学びのテーマ** 援農活動を通して農業の活性化をはかるために、インターネットや広報誌などを利用し、様々な人への発信を行う

**達成目標** 農家さんの作業負担の軽減をしながら農業について身を以て学び、そこから今の農村地域、農業が抱える問題について考え、外部へと発信していく

プロジェクトリーダー	井上雅妃	農学部	応用動物科学科	3年
サブリーダー	白石ももこ	農学部	応用植物科学科	3年
サブリーダー	河野佳美	農学部	応用植物科学科	2年
広報リーダー	高井彩瑛	農学部	応用植物科学科	3年
会計	梁池美沙紀	農学部	応用植物科学科	3年
参加人数 90名				

**7月~8月**  
[夏の援農]を実施

■ 熊本県 阿蘇市、阿蘇郡産山村、南阿蘇村

18世帯に対して7日間ずつ実施。阿蘇市ではイチゴの苗運びや定植、産山村ではほうれん草の出荷作業やパンジーの種植え、南阿蘇村ではミニトマトの収穫やアスパラガスの除草作業を行いました。猛暑が続いた今年の夏はビニールハウス内の湿度が高くて大変でしたが、作業が終わった畑を見ると、どのメンバーにも達成感が生まれていました。



**10月19日**  
[南阿蘇交流フェスタ(あそのみなみの秋祭り)]に協力

■ あそ望の郷くぎの(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

南阿蘇村からの依頼により実施され、役場農政課の方々が援農を受け入れていただいている多くの農家の方から我々のプロジェクト活動の話を聞いていたことがきっかけで実現しました。模造紙の展示を中心に広報活動を行い、展示だけでは伝わらない部分を学生スタッフが説明。お世話になった農家の方も足を運んでくださいました。



**12月13・14日、20・21日**  
[冬の援農]を実施

■ 熊本県阿蘇郡高森町

メンバー18名がトマト農家さんと杉の苗作りをする林家さん(※)で杉の苗木の植え付けやハウスの組み立て作業、トマトの古株を片付ける作業を行いました。土が凍るほど厳しい寒さの中で行った苗の植え付けにメンバーたちの手がかじかみ苦労したものの、無事全工程を成し遂げることができました。(※林業を営む人を指す)



# 阿蘇は箱舟プロジェクト

環境・農業

阿蘇・湘南

**学びのテーマ** 阿蘇の草原性動植物の保全活動に必要な知識および技術の習得

**達成目標** 阿蘇地域に生息する動植物の保全活動

プロジェクトリーダー	碓元貴也	農学研究科	農学専攻	2年
サブリーダー	前田拓也	理学部	化学科	3年
サブリーダー	中屋孝彰	農学研究科	農学専攻	2年
広報リーダー	工藤寛生	農学研究科	農学専攻	1年
会計	黒田彩加	農学部	応用植物科学科	4年
参加人数 81名				

**5月10・11日**  
[交流会]と[不法採集防止パトロール]を実施

■ 阿蘇校舎周辺

岡田工教授(チャレンジセンター)引率のもと、湘南校舎から3名の学生が参加。阿蘇校舎の学生15名と、村田浩平准教授(農学部)とともにオオルリシジミの生息地を訪れてパトロールを行ったほか、阿蘇の希少動植物のデータベース作成に必要な3D技術の勉強会等も実施。異なるキャンパスで学ぶメンバー同士が交流を深めました。



**7月6日**  
オオルリシジミ生息環境改善のための[除草活動]を実施

■ 熊本県阿蘇郡南阿蘇村

市民ボランティア団体の水源の森林ボランティアネットワークと協力し、絶滅危惧I類に指定されているオオルリシジミの生息環境の保全と地域との連携強化を目的として、クララ(マメ科の植物)や希少な植物を避けた除草活動を実施。5ヘクタールの草地で刈払い機や大鎌を使いながら、4時間かけて行いました。



**11月29日**  
[阿蘇地域の絶滅危惧生物の保全のための環境教育と地域連携]に協力

■ 阿蘇校舎農学部基礎教育センター

To-Collaboプログラムの一環で、副島顕子教授(熊本大学理学部)、星良和教授(農学部)村田浩平准教授(農学部)河野裕美准教授(沖縄地域研究センター)の4名が講演。メンバー30名が、会場設営や来場者の受付、マイクランナーなどを担当し、熊本大学の学生や阿蘇牧野組合の方々ほか、約80名が集まりました。



# あにまるれすきゅープロジェクト

社会貢献  
阿蘇

学びのテーマ 動物愛護の現状を改善するために啓発活動を行い、地域に情報を発信していく

達成目標 殺処分されてしまう捨て犬や猫たちを少しでも多く減らす

プロジェクトリーダー	崎村海人	農学部	応用動物科学科	3年
サブリーダー	松本唯	農学部	応用動物科学科	3年
サブリーダー	福岡千香	農学部	応用動物科学科	3年
広報リーダー	田崎穂菜美	農学部	応用動物科学科	3年
会計	菅谷佳織	農学部	応用動物科学科	3年
参加人数 84名				

9月18日、2015年1月26日

## 小学生へ「迷子札」のアピール活動を実施

■ 南阿蘇村立南阿蘇西小学校(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)、阿蘇市立阿蘇小学校(熊本県阿蘇市)

動物の命の大切さや人間の都合で殺処分されてしまう犬・猫達の現状を知ってもらうことを目的に地元の小学校を訪問。メンバーは“責任を持ってペットを一生世話する覚悟はあるか”など、のべ92名の児童にペットを飼う際の心得を伝えました。次に、紙芝居で2匹の飼い犬の話をしました。首輪や迷子札を付けていない犬は野良犬と勘違いされ、保健所に連れて行かれてしまう場合があり、飼い主の連絡先が書かれた迷子札を付けていた犬は無事に飼い主と再会できたというものです。その後、迷子札はペットの「命のお守り」であることを伝え、全員でプラ板の迷子札を作りました。児童の中には「飼っているペットに早速つけたい」と意気込む姿もありました。メンバーの大林希依子さん(農学部応用動物科学科3年次生)は「今回小学生達に「殺処分」について伝えることに不安を抱いていましたが、私達の話を受容し受け止め、ペットを飼っている子もそうでない子も、命の大切さを感じてくれたと思います」と語りました。



10月11日

## 「ハッピーマルシェ」に出展

■ 熊本県農業公園カントリーパーク(熊本県合志市)

本イベントは熊本県内外のハンドメイド作家や地域の店舗が出店するお祭りで、本プロジェクトは今回で2回目の参加となりました。当日は多くの親子連れが来場し、本プロジェクトは迷子のペットと野良を見分けるための「迷子札」のアピールや、ペットに関するクイズを交えたスタンプラリーを行いました。他にも、動物愛護活動への募金調達のため、来年の干支である羊をモチーフにしたマスコットや、動物のキーホルダーなど、メンバーが手作りした雑貨を販売しました。メンバーの奥村真衣さん(農学部応用動物科学科3年次生)は「子どもだけでなく、大人の方にもスタンプラリーや迷子札の製作を楽しんでいただけました。多くの方に私たちの活動を理解していただきながら、出展ブースを楽しんでいただけたかと思います。バザーでの売上金は動物愛護活動団体に寄付させていただきます」と語りました。



4月、6月、12月

## 犬猫の「譲渡会」へのサポート活動を実施

■ 熊本県内

“1匹でも多くの犬や猫の命を救い、殺処分数を減らす”ことを目的として、動物愛護団体のPHILIA(フィリア)が主催する保護された犬猫の里親を探す本会にサポートスタッフとして参加しました。保護された犬猫は、それぞれ性格や抱える過去も異なるため、プロジェクトメンバーは保護された犬猫たちを、来場者へ丁寧に紹介します。他にも、実際に触れ合ってもらおうこととお互いの相性や本当に飼うことができるのかを判断してもらいます。広報リーダーの田崎穂菜美さん(農学部応用動物科学科3年次生)は「直接お手伝いをさせていただくことによって、命の大切さや殺処分の現状を理解でき、命をつなぐことができる場でもあることを実感できました。動物愛護団体の方々の活動がなければ罪のない多くの命が失われます。今後の活動は、学んだことを勉強会などで伝えていきたいです」と語りました。



# 福祉除雪プロジェクト

社会貢献  
札幌

学びのテーマ ボランティア活動の拡大と共に、子供からお年寄りまで各世代とのふれあいを通し、コミュニケーション能力を学び、社会人基礎力を身につける

達成目標 除雪作業のボランティア活動を中心に、社会貢献や地域貢献に尽力する

プロジェクトリーダー	原尚輝	国際文化学部	地域創造学科	4年
サブリーダー	濱田和弥	国際文化学部	地域創造学科	4年
サブリーダー	熊谷萌恵子	生物理工学部	生体機能科学科	4年
広報リーダー	高橋美子	国際文化学部	国際コミュニケーション学科	4年
会計	阿波根那奈	生物理工学部	海洋生物科学科	4年
参加人数 87名				

10月10日

## 「安全・安心なまちづくり道民の集い」に参列

■ ホテルオークラ札幌(北海道札幌市)

『北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議』が主催となり、道民の地域安全への意識の向上を図ることを目的として開催され、本プロジェクトは北海道・大学生などボランティアネットワークの幹事校として参加要請を受け出席しました。当日は、北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞の表彰式や北海道コカ・コーラボトリング株式会社・上島信一氏の基調講演、道警音楽隊とカラーガード隊の演奏が催されました。メンバーの濱田和弥さん(国際文化学部地域創造学科4年次生)は「私達のような若い世代も積極的に参加しなくてはいけないと思いました」と語りました。



12月2日

## 「出陣式」を開催

■ 札幌校舎マルチメディアホール

札幌方面南警察署、北海道警察本部生活安全課・少年課、札幌市南区役所保健福祉課、札幌市南区第2地域包括センター、白樺町内会等から多数の来賓に参加いただきました。はじめに本プロジェクト・アドバイザーの大形利之教授(国際文化学部)が挨拶。竹中実践学長補佐(生物学部教授)、北海道くらし安全局道民生活課の近藤裕司課長からもお話をいただきました。また北海道コカ・コーラボトリング株式会社の山野正幸部長より清涼飲料水が贈呈されました。最後にサブリーダーの濱田和弥さん(国際文化学部地域創造学科4年次生)が、「明るく」「安心感を与え」「ありがとうという言葉を最後にいただける」というトリプルAの精神で活動に取り組みます」と決意を表明しました。



11月20日

## 「社会全体で被害者を支え加害者も被害者も出さない街づくりフォーラム」に出席

■ 札幌校舎マルチメディアホール

「犯罪被害者週間(11/25~12/1)」を前にした道警による啓発活動の一環として、北海道警察本部の室城信之本部長による講演会が開催されました。本プロジェクトは、当日の受け付けや設営の補助を担当。当日は、学生や教職員など約150名が聴講し、室城本部長は被害者遺族の精神的ケアの重要性について説明。実例をもとに、「被害者も加害者も出さない、よりよい社会を実現させたい」と語りました。学生達は、「交通事故などは私たち学生も加害者や被害者になってしまう可能性もあるので、日ごろからしっかりと安全に注意を払っていきたい」と感想を述べました。



2014年12月15日~2015年2月4日

## 除雪回数が歴代最高記録を更新

■ 札幌市南区(藻岩地区・南沢地区・中ノ沢地区・北ノ沢地区)

7年目を迎えた今年度は、学生82名が参加。自力で除雪が困難な高齢者や難病を患っている方、98世帯を対象として、授業の合間や放課後に除雪活動を行っており、今年度の除雪回数が94件を超え歴代最高記録を更新しました。今シーズンの札幌は昨年12月下旬から低気圧が頻繁に通過し、通過後の冬型の気圧配置が長く続くことも多く、まとまった雪が降る日が断続的に続きました。リーダーの原尚輝さん(国際文化学部地域創造学科4年次生)は、「責任を持って仕事をやり遂げたことから得られる充実感や達成感は何事にも代え難い経験です」と語りました。



# チャレンジセンター所長賞

プロジェクト活動を通じて社会に貢献できる「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身に付けた学生に対し、「チャレンジセンター所長賞」を授与しています。2014年度は5キャンパス13名の卒業生が選ばれました。

- 【受賞要件】
- ①チャレンジプロジェクトに加入して2年以上活動した者  
(継続していなくてもかまわない)
  - ②プロジェクトリーダーを務めた経験がある者
  - ③プロジェクト修了認定を2回以上受けている者
  - ④卒業が確定している者

校舎名	プロジェクト名	氏名	リーダー経験年数
湘南	病院ボランティアプロジェクト	上沼 裕太	2012年度
	スポーツ社会貢献プロジェクト	中林 辰馬	2013年度
	サイエンスコミュニケーター	平田 将大	2012年度
	環境キャラバン隊	瀧戸 一希	2013年度
	キャンパスストリートプロジェクト	吉越 彩香	2012年度
	Tokai Formula Club	前見 旭人	2013年度
高輪	ライトパワープロジェクト	鹿島 隆寛	2013年度
	3.11生活復興支援プロジェクト	佐藤 由紀	2012年度
	Takanawa共育プロジェクト	米盛 聖也	2012年度
熊本	先端技術コミュニティACOT	国枝 桂亮	2013年度
	メカトロマイスター	仲田 祐己	2014年度
阿蘇	阿蘇援農コミュニティプロジェクト	高橋 啓	2013年度
	阿蘇は箱舟プロジェクト	碓元 貴也	2014年度
札幌	福祉除雪プロジェクト	原 尚輝	2014年度

# チャレンジプロジェクト学科別参加人数

学部	学科	人数
国際文化学部	地域創造学科	22
	国際コミュニケーション学科	17
	デザイン文化学科	3
生物学部	生物学科	27
	海洋生物科学科	8
生物理工学部	生物工学科	2
	海洋生物科学科	6
	生体機能学科	2
情報通信学部	情報メディア学科	8
	組込みソフトウェア工学科	8
	経営システム工学科	9
	通信ネットワーク工学科	21
文学部	文明学科	4
	アジア文明学科	4
	ヨーロッパ文明学科	1
	アメリカ文明学科	4
	北欧学科	8
	歴史学科日本史専攻	6
	歴史学科東洋史専攻	1
	歴史学科西洋史専攻	1
	歴史学科考古学専攻	0
	日本文学科	10
	文芸創作学科	2
	英語文化コミュニケーション学科	13
	広報メディア学科	14
心理・社会学科	6	
観光学部	観光学科	24
政治経済学部	政治学科	14
	経済学科	4
	経営学科	8
法学部	法律学科	23
教養学部	人間環境学科自然環境課程	37
	人間環境学科社会環境課程	20
	芸術学科	128
	国際学科	42
理学部	数学科	3
	情報数理学科	2
	物理学科	18
情報理工学部	化学科	28
	情報科学科	6
	コンピュータ応用工学科	14
工学部	生命化学科	12
	応用化学科	15
	光・画像工学科	9

学部	学科	人数
工学部	原子力工学科	7
	電気電子工学科	14
	材料科学科	10
	建築学科	28
	土木工学科	13
	精密工学科	17
	機械工学科	39
	動力機械工学科	95
	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	77
	航空宇宙学科航空操縦学専攻	6
体育学部	医用生体工学科	18
	体育学科	27
	競技スポーツ学科	3
	武道学科	0
基盤工学部	生涯スポーツ学科	21
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	44
総合経営学部	電気電子情報工学科	22
	医療福祉工学科	5
経営学部	マネジメント学科	4
	経営学科	5
産業工学部	観光ビジネス学科	20
	環境保全学科	0
	電子知能システム工学科	15
健康科学部	機械システム工学科	20
	建築学科	2
	看護学科	1
農学部	社会福祉学科	1
	応用植物科学科	83
	応用動物科学科	123
大学院	バイオサイエンス学科	35
	学部生 計	1369
	総合理工学研究科総合理工学専攻	1
	人間環境学研究科 人間環境学専攻	2
	理学研究科数理科学専攻	1
	理学研究科物理学専攻	2
	工学研究科電気電子システム工学専攻	2
	工学研究科工業化学専攻	2
	工学研究科建築学専攻	11
	工学研究科機械工学専攻	3
工学研究科航空宇宙学専攻	7	
農学研究科農学専攻	5	
大学院生 計	36	
合計	1405	

※チャレンジプロジェクト学生の在籍していない芸術工学部・医学部・開発工学部・海洋学部は除いております。  
※チャレンジプロジェクト学生の在籍している専攻のみ抜粋しております。

# チャレンジプロジェクト協力団体・協力者一覧 (敬称略)

## ライトパワープロジェクト

- パナソニック株式会社
- 東レ株式会社
- 東レ・カーボンマジック株式会社
- エティハド航空
- トヨタ自動車株式会社
- 日本ミシュランタイヤ株式会社
- 日野自動車株式会社
- 株式会社ミツバ
- アールエスコンポーネンツ株式会社
- 石塚工業株式会社
- 植木プラスチック株式会社
- 九重電気株式会社
- 株式会社ジェイテクト
- サウジアラビア大使館文化部
- 株式会社三協
- 独立行政法人産業技術総合研究所
- サンスター技研株式会社
- 株式会社ソーアップ
- 株式会社ソフトウェアクレイドル
- チームTEEDDA
- 特殊電装株式会社
- 日本ケミコン株式会社
- 株式会社日本デジコム
- 株式会社パトライト
- 古河電池株式会社
- ベクター・ジャパン株式会社
- 有限会社三島木電子
- ヤマハ発動機株式会社

## スポーツ社会貢献プロジェクト

- 秦野市子ども健康部こども育成課
- 平塚市西部福祉会館
- 平塚市大野子どもの家
- 平塚市みなと子どもの家
- 伊勢原市青少年課
- 平塚市真土地区 子ども会
- TOM Tennis Planning
- FIKA SPORTS CLUB
- 有限会社ボルケーノ
- 神奈川県スポーツ逸ごっこ連盟
- 東海大学湘南校舎 体育会 ラグビーフットボール部
- 東海大学湘南校舎 体育会 硬式野球部
- 東海大学湘南校舎 体育会 女子バレーボール部
- 東海大学湘南校舎 体育会 水泳部

## サイエンスコミュニケーター

- NPO法人ガリレオ工房

## 東海大学学生ロケットプロジェクト

- 北海道大樹町企画課
- 国土交通省東京航空局帯広空港出張所
- 国土交通省札幌航空交通管制部
- 国土交通省東京航空局釧路空港事務所
- 国土交通省航空交通管理センター
- 北海道釧路方面広尾警察署
- 航空大学校帯広分校運用課
- 能代宇宙イベント協議会
- 能代市上町すみれ会
- 夢工房咲く・咲く
- あきた宇宙コンソーシアム
- 航空宇宙学会 北部支部
- 北海道エア・ウォーター株式会社
- 有限会社スリーホープ
- 日本スウェーデンロックFST株式会社
- 株式会社植松電機

## Tokai Formula Club

- スズキ株式会社
- 株式会社井上ボーリング
- ソリッドワークス・ジャパン株式会社
- トタル・ルブリカント・ジャパン株式会社
- 有限会社及川製作所
- 株式会社日本ヴェテック
- エヌ・イー有限会社
- 日本グッドイヤー株式会社
- 有限会社鈴村製作所
- 株式会社コイワイ

- 株式会社IDAJ
- NTN株式会社
- AVO/MoTeC Japan
- アンシス・ジャパン株式会社
- サイバネットシステム株式会社
- 日信工業株式会社
- 株式会社エフ・シー・シー
- 株式会社レント
- 東海大学機友会
- グッドリッチジャパン
- 株式会社ミスグループ本社
- 東海パネ工業株式会社
- 株式会社東科精機
- 住鋳潤滑株式会社
- ハリケーン大阪単車用品工業株式会社
- 有限会社プライトロジック
- 株式会社コタキ
- 中山ライニング工業株式会社
- 京王観光株式会社
- ウエストレーシングカーズ株式会社
- 株式会社ミクニ
- 株式会社TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY
- 株式会社サイアン
- 有限会社丸山ラジエーター工作所
- 株式会社コーヨー
- 福岡ゴムタイヤサービス
- 株式会社デンソー
- 株式会社グサイ
- FCデザイン株式会社
- 三和メッキ工業株式会社
- 丸紅情報システムズ株式会社
- 株式会社CD-adapco
- 新日本フエザーコア株式会社
- タウ化工株式会社
- 株式会社深井製作所
- 株式会社平塚イトウネジ
- BJD
- 高砂産業株式会社
- 武藤工業株式会社
- 有限会社ボルケーノ
- 有限会社サンフレッチェ
- 株式会社ニフコ
- 石原金属化工株式会社
- 東芝機械株式会社
- 株式会社棟葉鉄工所
- いしだ眼科医院
- 株式会社N.A.C.T.
- ケーエスエンジニアリング株式会社
- 大井松田カートランド
- 日産自動車株式会社
- 本田技研工業株式会社

## 3.11生活復興支援プロジェクト

- NPO法人アーバンデザイン研究体
- 株式会社富永事務所 一級建築士事務所 富永哲史建築設計室
- 東海大学情報理工学部 コンピュータ応用工学科 浅川研究室

## 病院ボランティアプロジェクト

- いせはら舞呼
- 早稲田大学三味線サークル 三津巴
- 東海大学医学部付属病院 オレンジクラブ
- 病院ボランティア会 ランバス
- 神奈川県立平塚江南高校 合唱部
- 神奈川県立平塚湘風高校 合唱部

## キャンパスストリートプロジェクト

- 秦野市道路管理課
- 東海大学駅前商店会協同組合
- 秦野市大根地区自治会連合会
- 秦野市県人会連合会
- 東京大学産学ネットワーク「ジェロントロジー」
- 東海大学湘南校舎 望星会 舞台屋
- 株式会社ヨネザワGK
- 社会福祉法人かながわ共同会 秦野精華園
- 株式会社秀和ビルメンテナンス 湘南営業所

## Tokai International Communication Club

- 神奈川県立地球市民かながわプラザ
- 翰林日本語学院
- 首都大学東京 国際交流ボランティアサークル HANDs
- 秦野市立南公民館
- NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ
- 外国につながる子どもと家庭のためのサポーターズチーム「ゆう」

## 環境キャラバン隊

- 株式会社ベネッセコーポレーション

## Beijo Me Liga

- 日本ビオダンサファシリテーター協会所属 内田圭子

## DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト

- D-Life Dance School 小松原大平
- 東海大学非常勤講師、ヨガスタジオ アルモニ(厚木)代表 亀田里奈
- 東海大学湘南校舎 モダンダンス部
- 東海大学 体育会 チアリーディング部
- 東海大学湘南校舎 望星会 舞台屋
- Co.山田うん
- 株式会社Theatre Kanpany 山口明子

## Takanawa共育プロジェクト

- 港区商店会連合会 メリーロード商店街
- 港区商店会連合会 高輪商店街
- 東海大学同窓会 たかなわ会
- 高輪地区総合支所
- 高輪二本榎町会
- 高輪松ヶ丘会
- 高輪親睦会
- 高輪警察署
- 東海大学高輪校舎 ジャズ研究会 Takanawa Jazz Ensemble
- 東海大学高輪校舎 硬式テニス部
- 東海大学高輪校舎 フォトクラブ部

## 先端技術コミュニティACOT

- NPO法人HITOプロジェクト
- 東海大学付属熊本星翔高等学校
- 東海大学熊本校舎 ジャズ研究部

## 熊本地域プロデュースプロジェクト

- 御船町観光交流推進課商工観光推進係
- 御船町商工会
- 御船町水越地域活性化協議会
- 田舎の体験交流館さんがうら
- kinko's
- フリースクール「地球子屋」代表 加藤千尋
- 「CANDLE HOUSE」代表 上村敏子
- ソーシャルメディア熊本交流会代表 馬場口一利
- 株式会社ゆうプランニング 代表取締役 木村正夫

## 阿蘇援農コミュニティプロジェクト

- 産山村村財天宮農集落
- 南阿蘇村

## 阿蘇は箱舟プロジェクト

- 水源の森林ボランティアネットワーク

## あにまるれすきゅープロジェクト

- 動物愛護団体PHILIA
- 動物愛護団体ACT
- チームにゃわん
- 猫カフェ かごにゃん
- ビッグベア動物病院
- 熊本市動物愛護センター
- 熊本県動物管理センター
- 熊本県獣医師会

## 福祉除雪プロジェクト

- 札幌市南区
- 札幌市南区南区社会福祉協議会
- 札幌南区第2地域包括支援センター
- 札幌方面南警察署
- 北海道警察本部
- 北海道環境生活部くらし安全局道民生活課
- 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- 札幌市建設局雪対策室

# ユニークプロジェクト活動報告

★は今年度新規プロジェクトです。

## 【湘南校舎】

### エコ・コンクリートカヌープロジェクト2014

施工技術を磨き、より薄く軽いコンクリートカヌーを作製し全国大会二連覇を目指す。

### きらきら実験教室

児童や生徒を対象に、理科に興味・関心を引き出すことを目標に工作教室などを企画・実施する。

### Same Same but TOKAI

駅前での募金活動や長期休暇を利用した海外での住居建築活動を行う。

### TOKAI DESIGN PROJECT

東京デザイナーズウィーク出展やアートを通じ周辺地域と連携したイベントを行う。

### HRE-Airplaneプロジェクト

水素ロータリーエンジンを搭載したラジコン飛行機を製作し、RC航空ページェント出場を目指す。

### 学生航空機プロジェクト

RC飛行機の設計・製作を行い、全日本学生室内飛行ロボットコンテストに出場し上位入賞を目指す。

### ★Fabsatプロジェクト

簡単に作成できる衛星の開発。Webを通じて成果を公開し、中高生を対象としたイベントなども行う。

### ★International Cultural Properties Project

本学が所有する文化財を調査・記録・修復・保存し、学外の公共施設で広く公開する。

### ★しるしプロジェクト

育児知識やコミュニティの不足による孤独育児の問題意識を改善し、学生が子育てについて考える機会を増やす。

### ★たすけあいプロジェクト

被災地に関するボランティア活動の情報発信や秦野・平塚市内の小中学校などで自然災害に備える啓発活動を行う。

### ★International Cultural Exchange Events

楽器演奏などの特技を持つ学生が国籍や学部・学年を問わず集い、留学生と国際交流する機会を提供する。

## 【代々木校舎】

### よよさんぽ

宮城県女川町や代々木校舎周辺の魅力を発見するための情報発信やイベント企画を行う。

## 【高輪校舎】

### ロボP

ETロボコンへの出場及びSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)に参加し、ものつくりの楽しさを伝える。

### ★情報通信研究プロジェクト

地域貢献をテーマとしたアプリケーション開発を通して情報システムの開発を学び、コンテストにも出場する。

## 【清水校舎】

### ワンダフル・マリニアニマルズ

魚型水中ロボットや生物ロボットを用いて、地域イベントなどに参加し、市民との交流を図る。

### 三保活性化プロジェクト

静岡県清水区での地域活性化を目的とし、三保半島を中心に地域交流などを行う。

### 海の森プロジェクト

コンブやワカメの収穫・加工を通して、地域の方々との親睦を深める。

### 夢工房

身近な「科学」や「ものづくり」の楽しさに触れる機会を提供し、地元の子どもの理科に対する感性を豊かにする。

### ★Tour～三保と世界をつなぐ旅～

国際交流に興味のある日本人へ国際交流ツアーを企画し国際交流の場として三保の松原をPRする。また、「生きた英語」を学ぶ機会を提供する。

### ★サンゴを守るプロジェクト

造礁性サンゴの種類数を調査し、北限域のサンゴの産卵の確認と保護を行う。

## 【清水・湘南校舎】

### ★Tokai Kesenuma Shark Project

気仙沼のサメに商品として付加価値を付け、現地の方々の生活再建を支援する。

## 【熊本校舎】

### 肥後のたまもの

熊本のアグリビジネスに貢献するイベントに参加し、肥後農産物の販売などを通して第六次産業の発展を目指す。また、県やJAと連携して「食の安全」にも取り組む。

### “sync”スポーツ

スポーツでの交流を通じて参加者の生活を豊かで生き生きとしたものにする。

### ★STYLE

若者を対象にフリーペーパーを作成し、熊本市民の生き方(ファッション)について発信する。

## 【熊本・阿蘇校舎】

### ★水資源調査プロジェクト

熊本、阿蘇校舎の学生がチームとなり白川の水資源を調査し水環境についての理解を深める。

## 【阿蘇校舎】

### ★Unique Endless Lifeプロジェクト

大学や阿蘇地域で収穫された農産物を加工し、新商品開発・販売(六次産業化)へとつなげる。

### ★日本農機具遺産プロジェクト

阿蘇地域で使用していた古い農機具のデータベース化を行い、農業の歴史認識を分かりやすく伝える。

## 【札幌校舎】

### 地域連携プロジェクト

まちづくりやデザインという視点で様々な方法・媒体を用い、地域にアプローチする。

9月9～11日

## Tokai Kesenuma Shark Project が気仙沼で高鮮度ヨシキリザメの基礎調査を見学

■ 水産総合研究センター(宮城県気仙沼市)

9月10日深夜に気仙沼港で水揚げされたヨシキリザメは約50t。1匹10kg～30kgほどのヨシキリザメが鮮度保存のために氷につけられたまま次々と水揚げされる様子を、研究センターの研究者から説明を受けながら見学。サメの中からいくつかのサンプルを選び出して捕獲時間を記録し、温度計をつけて捕獲後の温度変化データや、水揚げ後の鮮度変化データの収集を手伝いました。調査終了後には、フカヒレ加工会社の中華高橋のふかひれ工場と、ムラタのすり身加工工場を見学。復興が遅れている被災地の現状も教えていただきました。



9月22・23日

## よよさんぽが「代々木八幡宮例大祭」に初めて参加

■ 代々木八幡宮(東京都渋谷区)

例大祭は代々木八幡宮を中心に、近隣地域で毎年行われています。今回は代々木校舎のある渋谷区富ヶ谷2丁目の神輿を管理する『神富会』から、よよさんぽに協力依頼があり参加が決まりました。観光学部生から有志も募り、神輿を担いで本校舎前の東海大学通りなどを、「ワッショイ」「ソイヤ、サー」と気合いを入れながら約2時をかけて練り歩きました。副リーダーの深澤克哉さん(観光学部観光学科4年次生)は、「神輿を担ぐのは初めてのことでとても大変でしたが、地域の方々から“来てくれてありがとう”といった声を聞くことができ、疲れも吹き飛びました」と話していました。



10月11・12日

## ロボPが「ETロボコン2014」東京地区大会で3位入賞

■ 早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

メンバー4名によるチーム『ロボPort』を結成し、今年から新設されたアドバンスドクラスに出場。アドバンスドクラスは、2輪のロボットで争うプライマリークラスに比べて高度な技術が必要とする3輪ロボットで競技を行うもので、ロボPでは大会に向けて、約半年をかけて3輪ロボットのソフトウェアプログラムを改良してきました。大会では、コースアウトで完走は逃したものの、機体の性能や戦略を審査員が評価するモデル審査で高得点を得ることができ、全13チーム中3位に入賞。他のメンバー5名による『./robot』も同クラスに出場し、9位に入りました。



10月25日～11月3日

## TOKAI DESIGN PROJECTが「東京デザイナーズウィーク2014」に作品を出展

■ 明治神宮外苑絵画館前(東京都新宿区)

「Sign Design Object『NOを伝える』」と題し、木材で作った『N』と『O』の文字を重ねて禁止マークを表現しました。目で見るだけでなくポーズをとって写真を撮ることもできる体験型の作品になっています。今回の制作には、1年次生から4年次生まで約30名が参加。中心となって活動した小澤拓弥さん(教養学部芸術学科3年次生)は、「コミュニケーション」というテーマと、体験型の作品にすることがすぐに決まったのですが、30名いれば30通りの案が出るので1つの作品にまとめるのは難しかったです」と語りました。



7月8日

## ワンダフル・マリニアニマルズが生物ロボットを使ったボランティア活動を実施

■ 静岡県立こども病院(静岡県静岡市)

“ほんものそっくりの生物ロボットがやってくる”をテーマに、病院屋上にプールを設置してカクレクマノミやシュモクザメ、ウミガメなどの水中生物ロボットを用意しました。入院している子ども達60名と保護者、病院関係者らが参加し、日ごろはほとんど病室から出ることのない子ども達も看護師さんやボランティアの方々につき添われて見学。メンバー達がリモコンを操作してロボットが本物そっくりに泳ぐ様子をデモンストレーションすると、歓声がわきおこりました。また、子ども達も自分でロボット操作を楽しみました。



通年

## Unique Endless Life プロジェクトが大学や阿蘇地域で収穫された農産物を加工し、新商品を開発・販売

■ 阿蘇校舎

“野菜を作るだけでは『農業』ではなく、『農』である。それを流通させて初めて『農業』になる”を理念に、畑を5a程開墾し、白菜、ニンニク、玉ねぎ、大根などを収穫。白菜は、学生食堂と共同で漬物に加工して学生に提供しました。その他の野菜は、学内での販売や近隣の温泉施設で地域の方々に販売。メンバーの原田健汰さん(農学部応用動物科学科3年次生)は「大学で生産されているが活用方法が見つからない農産物を流通させ、新たな特産品になりえる商品の開発も行っていきたい。これからの日本の食を支えていくためにがんばります」と語りました。





# プロジェクトコーディネーター・アドバイザー

東海大学は教員と職員による協働体制で教育支援を推進しています。その一環として、チャレンジセンターでは、プロジェクト活動の質を高め、より高度な目標を成し遂げられるよう各プロジェクトには東海大学教職員から選抜されたコーディネーターとアドバイザーを配置しています。チャレンジプロジェクトにおいては、コーディネーターとアドバイザーが必ず配置されますが、ユニークプロジェクトでは学生からの支援要請に基づきチャレンジセンターで審議の上、配置を決定します。

さらに、チャレンジセンターではプロジェクト支援に活用できるスキル向上を主な目的とした研修会や意見交換会などをコーディネーターとアドバイザーを対象に実施しています。

## 【2014年度 プロジェクトコーディネーター 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属	担当プロジェクト名	氏名	所属
<b>チャレンジプロジェクト</b>					
病院ボランティアプロジェクト	高橋 操	チャレンジセンター推進室	あにまるれすきゅープロジェクト	神鷹 孝至	農学教育実習場
スポーツ社会貢献プロジェクト	成 博勝	企画課		伊藤 貴人	阿蘇教学課
Music Art Project	松永 達也	スポーツ課	福祉除雪プロジェクト	池田 隆之	札幌教学課
サイエンスコミュニケーター	小石川 浩晃	入学課		五十嵐 力	札幌事務課
環境キャラバン隊	森川 真希	技術支援課		柳沢 篤寛	
キャンパスストリートプロジェクト	平島 滋義	チャレンジセンター推進室		松島 佑介	北海道企画調整課
Tokai Formula Club	木村 直樹	チャレンジセンター推進室	学生運営スタッフ	山下 直也	チャレンジセンター推進室
ライトパワープロジェクト	原田 渡	情報システム課	<b>ユニークプロジェクト</b>		
東海大学学生ロケットプロジェクト	佐藤 多嘉雄	チャレンジセンター推進室	International Cultural Exchange Events	関野 辰夫	国際部
Beijo Me Liga	島村 祐太	チャレンジセンター推進室	Tokai Kesennuma Shark Project	舟尾 隆	
Tokai International Communication Club	伊地知 弘樹	事務課	三保活性化プロジェクト	鈴木 啓司	
3.11生活復興支援プロジェクト	梅澤 智光	キャリア支援課	ワンダフル・マリニアニマルズ		清水教学課
DANDANDANCE AND SPORTSプロジェクト	田熊 侑良	国際課	海の森プロジェクト		
Takanawa共育プロジェクト	近藤 竜二	To-Collabo推進室	夢工房	舟尾 隆	
	三橋 雅之	中央図書館図書課	Tour～三保と世界をつなぐ旅～		
	佐藤 邦夫	高輪教学課	サンゴを守るプロジェクト		
	渡部 真紀	高輪教学課	肥後のたまもの	六嘉 孝裕	熊本教学課
先端技術コミュニティACOT	福間 恵	熊本教学課	"sync" スポーツ	佐藤 行祥	熊本事務課
メカトロマイスター	石川 真之	熊本事務課	STYLE	村山 剛子	熊本教学課
	六嘉 孝裕	熊本教学課	水資源調査プロジェクト	雨木 秀文	熊本教学課
熊本地域プロデュースプロジェクト	下山 佳祐	九州企画調整課	Unique Endless Life プロジェクト	浦部 一浩	農学部農学教育実習場
	高倉 智之	熊本事務課	日本農機具遺産プロジェクト	後田 浩	阿蘇教学課
阿蘇援農コミュニティプロジェクト	高橋 誠二	阿蘇教学課			
阿蘇は箱舟プロジェクト	金子 博	農学教育実習場			

## 【2014年度 プロジェクトアドバイザー 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属	担当プロジェクト名	氏名	所属
<b>チャレンジプロジェクト</b>					
病院ボランティアプロジェクト	児玉 千代子	健康科学看護学	先端技術コミュニティACOT	村上 祐治	基盤工学部電気電子情報工学科
スポーツ社会貢献プロジェクト	妻鹿 心み子	健康科学福祉学	メカトロマイスター	松本 欣也	基盤工学部電気電子情報工学科
Music Art Project	伊藤 栄治	体育学部スポーツレジャーマネジメント学科		高橋 将徳	基盤工学部電気電子情報工学科
サイエンスコミュニケーター	梶井 龍太郎	教養学部芸術学音楽学課程		清田 英夫	基盤工学部電気電子情報工学科
環境キャラバン隊	二宮 洋	教養学部芸術学音楽学課程	熊本地域プロデュースプロジェクト	佐松 崇史	基盤工学部電気電子情報工学科
キャンパスストリートプロジェクト	岡田 工	チャレンジセンター		中嶋 卓雄	基盤工学部電気電子情報工学科
	広川 美津雄	教育研究所		宮内 順	経営学部観光ビジネス学科
	若本 泰	教養学部人間環境学自然環境課程	阿蘇援農コミュニティプロジェクト	鈴木 康夫	経営学部観光ビジネス学科
	崔 一英	チャレンジセンター	阿蘇は箱舟プロジェクト	高野 誠二	経営学部観光ビジネス学科
	吉永 昌史	工学部動力機械工学科	あにまるれすきゅープロジェクト	小林 寛子	経営学部観光ビジネス学科
	坂本 俊之	工学部動力機械工学科	福祉除雪プロジェクト	田中 孝幸	農学部応用植物科学科
	岡本 高光	工学部動力機械工学科		村田 浩平	農学部応用植物科学科
	森下 達哉	工学部動力機械工学科		岡田 工	チャレンジセンター
	陳 之立	工学部動力機械工学科		森友 靖生	農学部応用動物科学科
	佐々木 一哉	工学部動力機械工学科		大形 利之	国際文化学部国際コミュニケーション学科
	加藤 英晃	工学部動力機械工学科	<b>ユニークプロジェクト</b>		
	平岡 克己	工学部航空宇宙学	Same Same but TOKAI	カリスナー・チーフ・メソジ	外国語教育センター
	木村 英樹	工学部電気電子工学科	International Cultural Properties Project	山花 京子	文学部アジア文明学
	福田 紘大	工学部航空宇宙学	Fabsatプロジェクト	中藤 恭一	工学部航空宇宙学
	那賀川 一郎	工学部航空宇宙学	Tokai Kesennuma Shark Project	加藤 登	海洋学部水産学
	森田 貴和	工学部航空宇宙学	Tour～三保と世界をつなぐ旅～	加藤 和美	清水教養教育センター
	中藤 恭一	工学部航空宇宙学	海の森プロジェクト	鉄 多加志	海洋学部海洋フロント教育センター
	小貫 大輔	教養学部国際学	よよさんぼ	荒木 恵美子	海洋学部水産学
	北村 よう	国際教育センター	情報通信研究プロジェクト	遠藤 晃弘	観光学部観光学科
	森山 美紀子	外国語教育センター	肥後のたまもの	高 正博	情報通信学部観光学科
	大塚 滋	法学部法律学	"sync" スポーツ	藤井 一郎	経営学部経営学
	杉本 洋文	工学部建築学	STYLE	的場 英行	経営学部経営学
	浅川 毅	情報理工学部コンピュータ応用工学	水資源調査プロジェクト	大川 康隆	経営学部経営学
	中村 なおみ	体育学部体育学	Unique Endless Life プロジェクト	儀間 敏彦	経営学部経営学
	田巻 以津香	体育学部生涯スポーツ学	日本農機具遺産プロジェクト	高野 誠二	経営学部観光ビジネス学科
	福崎 稔	高輪教養教育センター		中嶋 卓雄	基盤工学部電気電子情報工学科
	佐藤 弘幸	情報通信学部通信ネットワーク工学科		多賀 直彦	農学部バイオサイエンス工学科
	中嶋 卓雄	基盤工学部電気電子情報工学科		村田 浩平	農学部応用植物科学科

## コーディネーター研修

開催	研修名	テーマ・内容	担当
4月15日 (火)	コーディネーター事務研修	① 開会挨拶 ～チャレンジセンターの目指すもの～ ② チャレンジセンター推進室 業務管理および勤務管理について ③ コーディネーター業務について	① 木村 英樹 (チャレンジセンター所長) ② 五十嵐 義和 (チャレンジセンター推進室長) ③ 高橋 操 (チャレンジセンター推進室職員)
5月23日 (金) 5月24日 (土)	コーディネーター能力研修	【1日目】 ① 交流分析とは何か ② エゴグラムを用いた自己理解 ③ コミュニケーションの分析 ④ モチベーションを上げるコミュニケーションについて  【2日目】 ① アクションラーニングの紹介 ② アクションラーニング演習 ③ 振り返り	【1日目】 田島 祥 (チャレンジセンター講師)  【2日目】 堀本 麻由子 (チャレンジセンター講師)
6月4日 (水)	アドバイザーミーティング	① 2014年度方針およびアドバイザーの役割について ② チャレンジセンター科目、FD研究会について ③ ライトパワープロジェクトにおける支援事例	① 木村 英樹 (チャレンジセンター所長) ② 岡田 工 (チャレンジセンター主任) ③ 福田 紘大 (工学部航空宇宙学准教授)
12月1日 (月)	コーディネーター中間研修	学生を成長させる褒め方・注意の仕方について	芳川 玲子 (文学部 心理・社会学科教授)
2015年2月24日 (火)	コーディネーター・アドバイザー意見交換会	地域活動における学生の学びについて ① Takanawa共育プロジェクトにおける事例 ② 意見交換	① 福崎 稔 (高輪教養教育センター教授) ② ファシリテーター: 木村 英樹 (チャレンジセンター所長)



# チャレンジセンター開講科目

チャレンジセンターは、自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力を身に付けることによって建学の精神を培うという教育理念のもとで、総合大学としての多様性を活かし、学部・学科単独ではできない、社会とのつながりの中での実践的な教育を行っています。

チャレンジセンターが開講する科目には、2つの科目群があります。

## 【1.社会的実践力科目】

目標を見つけ、計画を立て、実行する方法を体験的に学ぶための科目群（「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」「プロジェクト入門」「プロジェクト実践」など）を「社会的実践力副専攻」として開講しています。目標を見つけ、計画を立て、実行する方法を体験的に学ぶことによって、社会に出てから通用する実践力を身につけます。社会的実践力科目では、本年度も、理系教育プログラムとして、プロジェクト入門Cを工学部光・画像工学科および理学部物理学科教員と共同で授業運営しました。

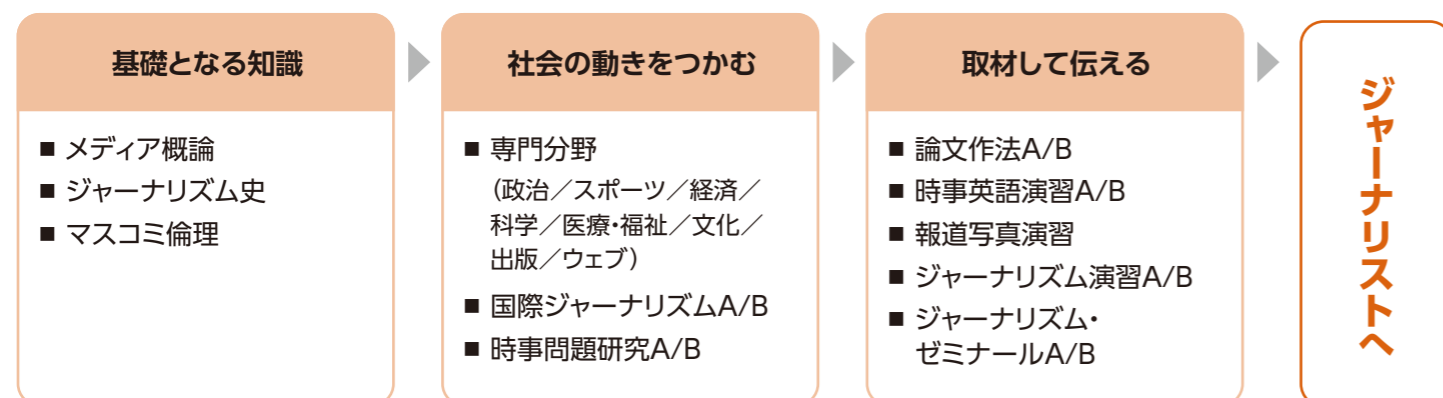
## 【2.ジャーナリズム実践教育科目】

より高度な実践力を身に付けるジャーナリズム実践教育のための科目群（「ジャーナリズム史」「メディア概論」「国際、政治、出版ジャーナリズム」など）を「ジャーナリズム副専攻」、「ジャーナリズム実践教育特定プログラム」として開講しています。公共的な価値に基づいて「情報を選別し、加工し、多くの人々へ提供する作業」を担う人材を育てます。

### 社会的実践力科目



### ジャーナリズム実践教育科目



## 履修者状況一覧

### 〈社会的実践力科目〉

校舎	授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
湘南	集い力(入門)	園田 由紀子・田島 祥 他	6	526
	集い力(演習A)	崔 一英・田島 祥	10	282
	集い力(演習B)	崔 一英・岡田 工 他	8	141
	挑み力(入門)	堀本 麻由子・園田 由紀子 他	5	483
	挑み力(演習A)	富永 貴公・園田 由紀子・堀本 麻由子 他	6	183
	挑み力(演習B)	園田 由紀子・田島 祥・青木 孝子	7	194
	成し遂げ力(入門)	堀本 麻由子 他	4	433
	成し遂げ力(演習A)	堀本 麻由子・青木 孝子	7	186
	成し遂げ力(演習B)	広川 美津雄・谷 俊子	5	120
	プロジェクト入門A	岡田 工・園田 由紀子・結城 健太郎	10	259
	プロジェクト入門B	崔 一英・青木 孝子・堀本 麻由子・園田 由紀子	11	256
	プロジェクト入門C	堀本 麻由子・岡田 工・渋谷 猛久・棚田 淳子	3	64
	プロジェクト実践A	崔 一英・木村 英樹 他	2	38
	プロジェクト実践B	崔 一英・木村 英樹 他	2	30
プロジェクト実践C	岡田 工	1	10	
プロジェクト実践D	岡田 工	1	17	
合計			88	3222

校舎	授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
代々木	プロジェクト入門A	岡田 工	1	23
	プロジェクト入門C	岡田 工	1	35
	挑み力(演習A)	堀本 麻由子	1	15
	成し遂げ力(演習A)	堀本 麻由子	1	4
	挑み力(演習B)	田中 紀代子	3	95
	成し遂げ力(入門)	堀本 麻由子	1	63
	成し遂げ力(演習A)	堀本 麻由子	1	51
	プロジェクト入門A	福岡 稔・倉田 和夫	3	71
	プロジェクト入門B	田中 紀代子	2	24
	プロジェクト実践A	福岡 稔	2	44
高輪	プロジェクト実践B	田中 紀代子・田丸智也	3	41
	プロジェクト実践D	田中 紀代子	1	16
	集い力(入門)	園田 由紀子	1	85
	集い力(演習A)	園田 由紀子	1	21
清水	挑み力(入門)	園田 由紀子	1	63
	挑み力(演習A)	園田 由紀子	1	17
	プロジェクト入門A	鹿田 光一 他	1	29
合計			15	697

### 〈ジャーナリズム実践教育科目〉

校舎	授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数	
湘南	時事問題研究A	岩田 伊津樹	1	6	
	時事問題研究B	岩田 伊津樹	1	4	
	論文作法A	岩田 伊津樹	1	4	
	論文作法B	岩田 伊津樹	1	2	
	時事英語講習A	山口 勉	1	2	
	時事英語講習B	山口 勉	1	1	
	報道写真演習	平 博之	1	8	
	ジャーナリズム演習A	山口 勉	1	6	
	ジャーナリズム演習B	山口 勉	1	4	
	ジャーナリズム・ゼミナールA	岩田 伊津樹	2	2	
	ジャーナリズム・ゼミナールB	岩田 伊津樹	2	2	
	ジャーナリズム史	飯塚 浩一	1	231	
	国際ジャーナリズムA	山口 勉	1	88	
	国際ジャーナリズムB	山口 勉	1	87	
	政治ジャーナリズム	笹島 雅彦	1	101	
	出版ジャーナリズム	松室 徹	1	96	
	ウェブ・ジャーナリズム	鈴木 美潮	1	98	
	経済ジャーナリズム	丸山 康之	1	144	
	マスコミ倫理	岩田 伊津樹	1	192	
	環境ジャーナリズム	岩田 伊津樹	2	212	
	メディア概論	水島 久光	1	335	
	スポーツ・ジャーナリズム	堤 辰佳 他	1	137	
	科学ジャーナリズム	長谷川 聖治 他	1	69	
	文化ジャーナリズム	福永 聖二 他	1	150	
	医療・福祉ジャーナリズム	阿部 文彦 他	1	161	
	合計			28	2142

## ジャーナリズム講師一覧

講師は「読売新聞社」、「中央公論新社」他より招いています。

春semester講師	秋semester講師
<p><b>読売新聞社より招聘</b></p> <p>【ウェブ・ジャーナリズム】</p> <p>鈴木 美潮 編集委員 松井 正 メディア局編集部次長 石井 重聡 メディア局IT事業部 武田 潤 メディア局IT事業部 栗山 倫子 メディア局オリンピック・パラリンピック事務局 山根 章義 メディア局会員事業部 西崎 徹 メディア局会員事業部 次長 堀津 宏 広告局広告第六部第一課長 中村 文陽 メディア局管理部 次長</p> <p>【政治ジャーナリズム】</p> <p>笹島 雅彦 調査研究本部主任研究員 川崎 英輝 世論調査部 笹森 春樹 調査研究本部主任研究員</p> <p>【経済ジャーナリズム】</p> <p>丸山 康之 調査研究本部主任研究員</p> <p>【報道写真演習】</p> <p>平 博之 編集局委員</p>	<p><b>中央公論新社より招聘</b></p> <p>【出版ジャーナリズム】</p> <p>松室 徹 製作本部長 中田 哲史 事業戦略本部長 三木 哲男 婦人公論編集長 郡司 典夫 学芸局長 森本 広美 商品管理部長 佐野 泉 校閲部長 深田 浩之 進行管理部長兼文芸局コミック担当部長 高木 雅信 学芸・文芸局次長 木佐貴 治彦 中央公論編集長</p> <p>その他</p> <p>【ウェブ・ジャーナリズム】</p> <p>三重 綾子 The Japan Times 杉本 誠司 ニワンゴ代表取締役 牧野 友衛 Twitter Japan</p>
<p><b>読売新聞社より招聘</b></p> <p>【文化ジャーナリズム】</p> <p>福永 聖二 編集委員 大木 隆士 文化部 清川 仁 文化部 待田 晋哉 文化部 祐成 秀樹 文化部 清岡 央 文化部</p> <p>【スポーツ・ジャーナリズム】</p> <p>堤 辰佳 運動部長 川島 健司 編集委員 軍地 哲雄 運動部 結城 和香子 編集委員 若水 浩 運動部 塩見 要次郎 編集局部長 山脇 幸二 運動部 近藤 雄二 運動部 三宅 宏 紙面審査委員 下山田 郁夫 運動部 三木 修司 運動部次長 清水 暢和 運動部 谷 祐一 サッカー推進事業局次長 三橋 信 運動部次長</p>	<p><b>【科学ジャーナリズム】</b></p> <p>長谷川 聖治 科学部長 徳毛 貴文 科学部次長 大塚 隆一 企画委員 滝田 恭子 論説委員 笹沢 教一 英字新聞部 知野 恵子 編集委員 芝田 裕一 調査研究本部主任研究員 吉田 昌史 科学部次長 柴田 文隆 編集委員 山田 哲朗 科学部 佐藤 俊彰 科学部次長 調査研究本部主任研究員 佐藤 良明 編集委員 佐藤 淳 編集委員</p> <p><b>【医療・福祉ジャーナリズム】</b></p> <p>阿部 文彦 社会保障部長 林 真奈美 論説委員兼編集委員 榊原 智子 社会保障部次長 猪熊 律子 社会保障部次長 大津 和夫 社会保障部 小山 孝 社会保障部 本田 麻由美 社会保障部次長 山口 博弥 医療部次長 坂上 博 医療部次長 藤田 勝 医療部 中島 久美子 医療部 佐藤 光展 医療部 吉田 清久 医療部長</p>

# チャレンジセンター開講科目

## 社会的実践力科目

### 集い力(演習A)

【 湘南校舎開講 】

担当:田島 祥

この授業では、「安全・安心なインターネット利用を考える」をテーマに、他学科・他学年の学生達とのグループワークを通して、多数の意見を集め、集約し、活用する方法を学びました。授業は次の3部構成となっています。

第一部は理論編として、講義を中心に進めました。対面でのコミュニケーションと比較しながらオンラインコミュニケーションの特徴を確認したり、インターネット利用がもたらすプラス面とマイナス面について、主に心理学領域で検討されてきた理論や知見を学びました。また、様々な調査データをもとに、子どもたちの携帯電話・スマートフォン利用の状況やトラブルの事例、フィルタリング等の対策について学びました。

第二部・第三部はグループワークの形で進めました。第二部では、身近なインターネットトラブルの実態を把握することを目的に、多数の事例を収集し、集約していきました。初めに学生自身が経験したトラブルや友人・知人から聞いたことのあるトラブルについて書き出した後、グループ内・クラス内で事例を共有しました。その後、他のクラスで挙げられた事例も含めた100を超える事例について、KJ法を用いて分類し、集約していきました。作業はグループごとに話し合っ進められました。模造紙に事例を配置していく過程で、グループ独自の視点で身近に潜むトラブルを分類し、内容を把握していきました。

第三部では、スライド作りと発表を行いました。ここでは、KJ法の結果をもとに、グループで特に重要であると思われるトラブルを1つ選び、具体的な事例を紹介した上で、そうしたトラブルに遭わないための対策を検討し、発表

しました。例えばLINEでのトラブルやインターネット上の詐欺、迷惑メールなど、様々なテーマが選ばれていました。

半期の授業を終え、受講生からは次のようなコメントが寄せられました。

- ・いろいろなグループが様々なアプローチから問題について発表しておりとても面白かった。
- ・他学科の人たちと話し合ったり考えることが楽しかったし、いい刺激になった。
- ・これまでもグループ発表の経験はあったが、他学科の人たちとするとまた違った達成感があり、集い力の意味を再確認できた。
- ・一人一人が自分の役割を自覚し、責任を持ってやり遂げる力も身につけることができた。
- ・KJ法と言う情報処理方法を学んだことが一番の収穫だった。
- ・相手に自分の考えを伝えることの難しさを学んだ。



### 挑み力(演習A)

【 湘南校舎・清水校舎開講 】

担当:園田 由紀子

挑み力演習Aは、地域の問題に対し積極的に取り組む問題発見力、個人、集団で問題の解決を目指す思考力、様々なアイデアを論理的に説明する論理的思考力を高めることを目的とした授業です。今回は、『ひょうたん島問題』というシミュレーション教材(藤原孝章著 明石書店)を活用し、実施しました。この教材は、ひょうたん島という架空の島に、異なる文化を持った2つの民族が移住してきたことから起こる様々な問題を元に「多文化共生」について考えさせる内容になっています。

取り扱ったテーマは、「移住してきた人々の子供は、どんな教育を受けるべき?」や「特定の民族への公的サービス負担は誰が負う?」「共有する自然環境を守るためにはどうすべきか」などであり、多くの場面では、設定(〇〇人:△△△△という考え)の書かれた役割カードが配布され、意見や立場の対立を乗り越えるような展開が必要とされるグループ討議が行われます。

授業では、教材内で使われている紙芝居画像を使い、問題について説明し、役割カードを使い、5~6人のランダムなグループ分けを行います。その後、与えられた役割を演じながら、グループで問題解決を目指した話し合いを行い、ワークシートへの記入、振り返りを行いました。毎回異なるグループでの話し合いを経験することにより、多様な価値観の存在やコミュニケーションの特徴などを理解し、互いに尊重しながら、問題に取り組む重要性を、実感できるトレーニングをすることができ、さらに、架空の環境を設定することで、自己開示や自己主張が苦手な学生も、「市民体験」を容易にできることか

ら、多くの学生が積極的にグループワークに参加していました。参加した学生からは、「架空の設定だったので、親しみやすかった」「毎回異なるグループで、話し合いの方法が学べた」「最初は、違う文化の人と暮らすのは面倒だと思ったが、共生という考え方を理解し、仲良く暮らす方法を考えることが大切だとわかった」「自分がこんなにも外国人に対して偏見を持っていることに気づいて驚いた。他の文化を尊重する大切さを学んだ」など、様々な学びが見られました。さらに、後半は、具体的な地域の問題を解決する演習や地域の問題を発見する演習などを加え、より具体的に市民を体験できるシミュレーション教材を用い、問題発見、多角的な思考力などを学ぶ機会を設けました。受講した学生からは、「無責任な市民ではなく、積極的に問題に関わる市民になりたい」、「大学生であっても既に市民であるという自覚を持てるようになった」などの意見が見られました。



### 成し遂げ力(演習A)

【 湘南校舎開講 】

担当:青木 孝子

テーマ:多面体工作のワークショップ企画

三次元立体のうち、面が正三角形だけで構成される凸多面体を、デルタ多面体と呼びます。この授業は、このデルタ多面体を、正三角形の面が出来るように印刷された紙の教材を使って、紙工作を考えました。線に沿って折って、差込口を切って、組み立てると、8種類すべてのデルタ多面体を作ることができるということです。8種類の具体的な立体の名称は、正四面体・デルタ六面体・正八面体・デルタ十面体・デルタ十二面体・デルタ十四面体・デルタ十六面体・正二十面体です。正多面体は、現在のカリキュラムでは中学校で学習しますが、現大学生は、学習していない人が多く、デルタ何面体という名称の立体は、ジョンソンの立体と呼ばれる範疇にあり、大学でも専門的に学習しないと学ぶことのない内容です。しかも、紙の組み合わせ方まで考えると、18通りにも及びます。

授業の前半は、自己紹介を行った後、グループワークを行い、ポリドロンというプラスチックの教材で、デルタ多面体にはどのような立体があるのかを知ります。その後、とにかくデルタ多面体を作る作業を行います。正四面体から始まり、徐々に難しい立体を作っていくことになります。

授業の中盤に入り、紙やハサミの扱いにも次第に慣れてきたころに、仮企画書を作成します。教室で学生どうしでの模擬ワークショップを開きます。このときは、教え方と作り方に重点が置かれています。セロテープを貼ったり、糊付けを施したりすることで、組み立てやすくなったり、丈夫な立体になったりします。授業の終盤は、科学館でのワークショップという具体的な企画を考え、企画書

にまとめます。その際、タイムスケジュールや会場レイアウトも実践的なものを考え、予算書も添付します。これは、実際にこの紙教材を大学で購入しているときと同じ見積額を使用しています。具体的には、1~100枚まで@39円、101~200枚まで@30円、201~300枚まで@24円、301~400枚まで@20円と、多く注文するほど単価が下がります。科学館のイベントでの予算は、概ね10000円であることから、この金額を予算総額として設定しています。予算には、消耗品のみの計上するようにしています。つまり、紙教材のほかは、セロテープや糊などです。また会社に入社したばかりの新人5人が、2時間で100人の参加者を想定した地元の科学館でのワークショップを開催するという前提にし、学生がより現実的にイメージしやすい内容になっています。この企画書を提出すると共に、それに基づいた模擬ワークショップを行い、最終授業では、作成する立体を見せながらプレゼンテーションを行っています。



### プロジェクト入門A

【 熊本校舎開講 】

担当:中嶋 卓雄、小松 敏弘、鈴木 康夫、鹿田 光一

【2014年度春学期授業テーマ】

第一課題「大学における学生の幸福感とは? 一もっと幸せになるために」  
第二課題「地域活性化、地域における幸福度を上げるには?」

2017年度カリキュラムへのPublic Achievement科目導入を視野に、地域の良さを“Positive”に捉え、さらに活性化させるActivityを検討課題と致しました。

第1課題においては、課題発見と課題解決に向けたアプローチを体験する為、「大学における」の言葉通り、より身近なエリアをテーマとしたプロジェクト企画を行い、第二課題では、第一課題におけるアプローチ体験を元に課題発見とその解決に向け、熊本を中心とした地域に存在する好要素“幸福度”をさらに高める為のプロジェクト企画の検討を行いました。

【授業進行】

最初にアイスブレイクによりクラスの融和を図った後、課題について学生自ら考え、グループでメンバーの考えを共有し、ディスカッションを通してグループ企画を選定、関連する資料調査を行い、プロジェクト企画を具体化、学生・教員一体による中間発表を行いました。その後、中間発表で得られた新しい見地、アイデア、(批判的)指摘などに基づく分析・修正を行い、最終発表を実施致しました。最終的なプロジェクト企画としては、・地域学生交流プラン、・大学フリースペースの解放、・小~高校生向け体験教室の運営収益によるチャリティ活動、・学生&教員による協同授業組織運営、・資格取得に向

けた情報ネットワーク設立、・大学によるフィットネス施設運営のSWOT分析による検討など多彩な企画が発表されました。

【受講者の声】

- ・他人の話聞くことで、見えなかった世界が広がる事を知った。
- ・自分で考えることが増えた。周りの意見を取り入れて一つの物を作る楽しさを味わった。
- ・知らない人との意見交換の良い練習になった。
- ・今回のグループ活動をおこなったプロジェクトが本当に実現出来れば良いのと思った。
- ・コミュニケーション能力の向上や色々な考えを持つ事で、視野が広がるのが良かった。
- ・1つの目標に向かって協力して作業を行うことで、共同作業ならではの一体感や団結力を感じ、充実感を得ることができた。



# チャレンジセンター開講科目

## ジャーナリズム実践教育科目

ジャーナリズム実践教育科目の特定プログラムは、2014年3月に初めて4人の修了生を送り出しました。読売新聞東京本社との協定に基づき、読売の現役デスクなどを講師陣にすえたこのコースでは、ジャーナリズムの基礎から専門的な演習やゼミまで25科目(50単位)が用意されています。特定プログラムの修了要件である40単位をクリアするのはかなりハードルが高いといえますが、4人が修了したということは、ジャーナリズムに対する高い関心と熱意のある学生がいることの証明にもなりました。

しかし最近の傾向をみると、1年生から誰でも受講できる基礎的科目(特副科目)には多数の受講希望者が押しかける一方、受講者に選抜を実施する特定プログラム専門科目、修了科目は敬遠されがちで、受講者の少なさが目立っています。コース全体のアンバランスを補正するため、科目構成について再検討が必要な時期に入っていると思われます。

## 国際ジャーナリズム

担当: 山口 勉

2014年度から特任となり、春秋との「国際」「ジャーナリズム演習」「時事英語演習」の3科目を担当しました。

春学期の「国際ジャーナリズムA」では、主にアメリカを中心に講じました。唯一の超大国としてのアメリカを支える「力」について、核戦力、米軍の世界展開の実情を「テロとの戦争」、「中国の台頭」をからめながら説明しました。オバマ政権が進めてきた中東政策がなお安定化には程遠く、その中から「イスラム国」の勢力拡大が大きな問題として浮上し、一方スノーデン事件の暴露により米国の電子諜報機関が肥大化している現状について語りました。

またアメリカの「理念」については、合衆国憲法の成立から20世紀に入ってから公民権法の成立まで民主主義の拡大について論じ、さらにペリー提督に始まり、沖縄普天間基地移転問題に至る日米関係について3回に分けて講じ

ました。

秋学期は、「中東」「中国」を中心に教えました。中東ではイスラム教の歴史、石油資源、パレスチナ問題を中心に、西欧列強の植民地支配とイスラム原理主義について、イラン革命、ソ連のアフガニスタン戦争、4回の中東戦争を絡めながら歴史的背景をさぐりました。

「中国」については、日中戦争、中国共産党政権の成立から経済大国化まで歴史的な基礎知識を与えることに主眼を置き、その中で日本との領土問題、靖国神社首相参拝問題などの「歴史問題」、中国の海軍力増強の問題、チベット、ウイグル中心とする少数民族の問題について説明しました。春秋との受講者は80~90人で、相変わらず全般に中東への認識は低く、中国との歴史問題、韓国との関係悪化など身近な問題に強い興味を示しました。

## ジャーナリズム演習

担当: 山口 勉

春学期4人、秋学期6人の受講者でした。科目を「ミニ・ゼミ」と位置づけ、春は受講者に取材テーマを選ばせ、取材のやり方、記事へのまとめ方など、実際に各自の取材に同行して教えました。また「スノーデン事件」「特定秘密保護法」について、分析、討議を進めました。

秋学期は、2014年が第1次世界大戦勃発100年にあたることから米作家バーバラ・タックマンの『8月の砲声』(ちくま学芸文庫、上下960ページ)の講読と国際ニュースの焦点になった「イスラム国」の動向を中心に授業を進めました。書籍講読では、2章づつ読み進め、各回要約を提出させ、疑問点について討議しました。仏軍だけで1日に5000人の兵士が死亡した西部戦線の塹壕戦のすさまじさに学生は強いショックを受けたようでした。

「イスラム国」研究では、12月に代々木上原にあるイスラム教モスクを見学、取材しました。モスクで行われた集団礼拝に参加し、その後イスラム教徒の日本人女性から2時間以上にわたり、モスクの歴史、イスラム教についての講義を聞きました。



## ジャーナリズム・ゼミナールA/B 福島定点観測取材

担当: 岩田 伊津樹

福島県と同じ農家を継続的に取材することで、東日本大震災と福島第1原発事故の生活への影響と復興を記録します。同時に日本農業の問題点を考えようという趣旨で始めた観測取材も3年目を迎えました。今年度の取材は6月と2月の2回実施。

### 1. 福島県・鏡石の柳沼家(定点)

#### ● 原発事故による風評被害の現状

対応していただいたのは、柳沼家で一手に農業を取り仕切る千津子さん。風評被害の影響はまだ色濃く残り、解消されるには10年かかるのではとあきらめ顔でしたが、学生たちも何とかしてあげたいという気持ちを持ちました。

### 2. 津波跡の復興状況

原発事故現場の一角で通行止めが続いていた国道六号線が間もなく再開通するというニュースが流れたばかりだったので福島経由で浜通りへ。現場周辺へは、関係車両だけの通行のようでしたが、南相馬の海岸も見ました。復興工事は進んでいるようだったが、住民が元の生活へ果たして戻れるのかどうか。極めて厳しい状況といわざるをえません。

### 3. 考察

一か所を継続的に取材することで時間的な変化を記録するとともに学生の取材技術も磨いていこう。そんな考えから東日本大震災と福島原発の事故をきっかけにスタートしたこの取り組みも3年目に入りました。この間、定点を引き受けてもらった福島・鏡石の柳沼家を中心に福島、宮城の両県の被災地を計6回取材しました。本来の目的である定点取材の原則からいえば、なるべく同じ学生に繰り返し取材してもらいたいところですが、継続参加がごく一部に限られたのは、チャレンジセンター科目という所属学部とは別の位置づけのゼミということからやむを得ない面もあると思われます。しかし、この福島取材を通して、メディアを経由した情報と現場で実際に自分の目で確かめ、現地の人たちの話を聞いて感じる現実との違いを実感したと参加者のだれもが話すことに実施の意義があったと思います。



## 原点に戻り現場重視で臨んだジャーナリズム・ゼミ

担当: 岩田 伊津樹

第5福竜丸事件から50年にあたる2014年3月には各新聞社が特集記事を組みましたが、春学期には東京・夢の島の第5福竜丸記念館を取材しました。広島と長崎の原爆、そしてビキニでの第五福竜丸乗組員の被ばくは、学生たちにとってははるか昔の出来事ですが、日本人が心に刻むべき記憶であると再認識したようです。この事件は、読売新聞社会部の歴史的なスクープでしたが、その取材に参加、「死の灰」という言葉をつくった村尾清一さんへインタビューも実施しました。

かねてから学生から希望のあった靖国神社にも行きました。安倍首相の参拝に対しアメリカから「失望した」といわれた靖国は、若者たちにとって関心はあるものの一人で訪れるには心理的な抵抗があるようでした。近くにある千鳥ヶ淵戦没者墓苑も訪れましたが、こちらには天皇、皇后両陛下の献花があり、この違いが体感できたように思います。

秋学期には、事件の現場を二か所訪れました。まず向かったのは、東電OL殺人事件の東京・渋谷のアパートでした。晩秋の冷たい雨の降る中、渋谷駅前の雑踏を抜け、道玄坂から神泉駅近くの現場に向かって行くと人通りがぱったりと少なくなります。現場は古い木造二階建てのアパートです。長年服役したネパール人のゴビンタ・マイナリさんの冤罪が証明されたこの事件はまだ記憶

に新しいものですが、華やかな渋谷の裏にこんな場所が残っているとは学生たちも驚きの表情でした。こんなネズミが這い回る土地にバブル時代には9億円の抵当権が設定されていたことも登記簿で確認しました。続いて戦後最大の誘拐事件といわれた村越吉展ちゃん誘拐事件の現場となった東京・台東区の下谷南公園の取材に行きました。「事件ノンフィクションの金字塔」といわれる本田靖春さんの「誘拐」を事前に読み、綿密な取材で事実を記録することの重要性を学びました。遺体が発見された荒川区南千住の円通寺にも足を延ばしました。犯人の自供とこのお寺での遺体発見は、読売新聞のスクープでした。この取材源を50年近くも秘密にしていた当時の察回り(警察担当)記者・原野彌見さんにもその理由を聞きに出かけました。



## 中央公論への原稿掲載

担当: 岩田 伊津樹

取材して原稿を書くことがジャーナリズムの基本ですが、問題意識をもって丹念に経緯や背景を調べ表現したとしても、それを発表しなければジャーナリズムの仕事は完結しません。ジャーナリズム実践教育コースでは年2回、伝統のある月刊誌「中央公論」に学生たちの原稿を掲載しています。ジャーナリズム・ゼミナールの受講生が中心ですが、特定プログラムの専門科目、修了科目の受講生にも書いてもらうことがあります。

今年度は、2014年9月号と2015年3月号の2回、計10本の原稿が掲載されま

した。福島取材の成果や東京の事件現場の取材記事、あるいはインタビューも2本載りました。このコースを受講するまで、どの学生にも取材して書く経験がほとんどゼロというのが実情です。現場を取材して関係者から話を聞き、文章にまとめる苦労を経て自分の原稿が載った時の喜びと書くことの責任を感じられればと思います。

# 研究業績

## 研究トピックス

海外で発表した2つのテーマについて紹介。

### オンラインゲームを活用したシャイネス改善プログラムの開発と効果

担当: 田島 祥

様々な社会的場面で高い社会性が求められる現代において、シャイネス特性は社会的活動を妨げる要因のひとつとなっている。本研究では、プレイヤー間の社会的相互作用を促進する仕掛けが多数盛り込まれているオンラインゲームに着目し、シャイネスを改善するプログラムを開発した。本プログラムでは、不安階層表を用いた曝露療法的手法を援用し、ゲーム内で知らない相手と会話をしたり、一緒にプレイをして関係を深めていくなどの課題を段階的にクリアしていくことでシャイネスを克服することが狙いとなっていた。このプログラムの効果を検討するために実験を行った。プログラムに参加したグループと参加しなかったグループについて、プログラム前後のデータを比較したところ、参加し

たグループの方がシャイネスが低く自尊心が高いといった効果が確認された。しかし、プログラム終了から1ヶ月後のデータではグループ間に差がみられなかったことから、短期的な効果はみられるものの、プログラムから離れてしまうと効果が持続していないという課題が残された。Tajima S., Matsuo, Y., Takei, Y. & Sakamoto, A. (2014) Effects of Training with Massively Multiplayer Online Role Playing Game on Alleviating Shyness. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications Vol. 2014, No. 1, pp. 678–683. (Tampere, Finland)

### 海外学会報告

The 13th International Conference of the Asia Chapter of Academy of Human Resource Development Innovative Session 「Asian Women in Top Management」参加報告

担当: 堀本 麻由子

2014年11月12～14日に韓国、ソウルで開催されたAcademy of Human Resource Development アジア地区国際会議に参加した。本会議は米国のAcademy of Human Resource Developmentのアジア大会で、毎年11月に、アジア地域の都市で実施されている。アジア地域在住、あるいはアジア地域の人材開発学に関心のある研究者と実践者が集い、自由研究発表、アジア地域で課題とされている人事・人材開発に関するテーマを中心に実務者と研究者の意見交換の場となっている。今年の大会テーマは、「人材開発学の見地から、リーダーシップを検討する」であり、筆者が報告者として参加した「Asian Women in Top Management」は、革新的テーマによるセッション(Innovative Session)に位置付けられていた。「Asian Women in Top Management」は、インディアナ大学のチョン准教授が発起人となり、アジア8カ国(中国、インド、日本、韓国、マレーシア、スリランカ、台湾、タイ)の女性研究者に



報告者とファシリテーター

呼び掛け実現したセッションである。本セッションでは各国の女性管理職の活躍状況について一人20分程度の報告を行なわれ、セッション参加者からの報告者への質疑応答が行われた。今回は、急激な経済的成長がみられるアジア各国における女性管理職、とりわけ経営層の女性管理職をめぐるアジア諸国が抱えている人材開発における課題は何なのかを見出すことが目的とされた。特に、女性管理職として組織で働く際の労働をめぐる伝統的価値観と現代的価値観の狭間にある課題を検討することがねらいであった。筆者は、日本政府による女性活用策が1980年代から様々な形で行われることによって、女性の就労率が上がり、共働き率が増加したものの、女性は依然として家事・育児の伝統的価値観の影響などで30代～40代において、労働市場からいったん離れる傾向が強いこと、労働の場において管理職に必要なリーダーシップを学ぶ機会が少なく、結果としてトップマネジメント層の女性は少ないことを説明した。筆者の報告に対して参加者の関心は高く、質問として、「政府主導で行う女性支援策はどの程度効果があるのか。」「日本は女性の就労に関して韓国よりも保守的なイメージがあるが、最近はどうなのか。」などの質問を受けた。今回のセッションの成果として、学会誌(Human Resource Development International)の次号に論文として掲載することとなり、次回以降の学会においても継続して、アジアの女性管理職の育成に関する研究の継続が確認された。

## 研究業績一覧

### 学術論文

- 東海大学における社会的実践力育成の取り組み(1)ーチャレンジセンターの教育活動ー, 堀本 麻由子, 文部科学教育通信, 337 (pp. 18-19) (2014/4)
- 東海大学における社会的実践力育成の取り組み(2)ーバブリック・アチーブメント型教育の推進ー, 堀本 麻由子, 文部科学教育通信, 338(pp. 20-21) (2014/4)
- テレビ接触量・テレビ視聴量と読書時間が子どもの国語の学力に与える影響: 構造方程式モデル分析と潜在曲線モデル分析による検討, 工藤 玲, 田島 祥, 向田 久美子, 坂元 章, 「子どもに良い放送」プロジェクトフォローアップ調査中間報告第11回調査報告書, (pp. 77-93) (2014/4)
- 職業訓練, 田島 祥, 青年期発達百科事典, 第2巻 (2014/4)
- 永久磁石を用いたホール効果, 安森 偉郎, 岡田 工, 崔 一英, 応用物理教育, 第38巻 1号(pp.1-8) (2014/8)
- 永久磁石を用いた導体紙のホール効果, 安森 偉郎, 岡田 工, 崔 一英, 応用物理教育, 第38巻2号(pp.91-96) (2014/12)
- ゲーミング・シミュレーション「近所トラブル」の設計と実践 東海大学チャレンジセンターにおける取組を中心に, 園田 由紀子, 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会論文報告集, 2014年秋号(pp. 22-25) (2014/12)
- メディア・インターネットからの影響, 田島 祥, 自ら挑戦する社会心理学, (pp.105-106) (2014/12)
- 社会心理学で用いる方法, 田島 祥, 自ら挑戦する社会心理学, (pp. 17-18) (2014/12)
- 挑戦してみよう, 投資モデルに基づいて恋愛の悩みを分析してみよう, 田島 祥, 自ら挑戦する社会心理学, (pp.119-120) (2014/12)
- Asian Women in Top Management: Eight Country Cases, Yonjoo Cho, Gary N. McLean, Mayuko Horimoto, Human Resource Development International, Vol.18 no.4 (2015/3)

### 学会・学術集会

- Effects of Training with Massively Multiplayer Online Role Playing Game on Alleviating Shyness., Sachi Tajima, Yumi Matsuo, Yuki Takei, Akira Sakamoto, World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications., (2014/6)
- 絶滅危惧種昆虫の保護活動のための3D撮影について, 岡田 工, 村田 浩平, 渋谷 猛久, 崔 一英, 木村 英樹, 日本情報科学教育学会 第7回全国大会, (2014/7)
- SNS上での外国人利用者ととのトラブルの分析, 松尾 由美, 田島 祥, 寺本 水羽, 祥雲 暎代, 相田 麻里, 坂元 章, 日本社会心理学第55回大会, (2014/7)
- テレビ視聴が勤労観に及ぼす影響ーキャリア教育による調整効果ー, 田島 祥, 祥雲 暎代, 麻生 奈央子, 坂元 章, 日

## 2013年度 学部等研究教育補助金による研究

2013年度学部等研究教育補助金にて、下記の2件の研究が行われた。

1. スマートフォンを活用した授業内容について (岡田工、崔一英)
2. 「定点観測」手法を使った実践的教育の開発(岩田伊津樹)

### スマートフォンを活用した授業内容について

担当: 岡田 工、崔 一英

スマートフォンの普及率が上がり、学生の多くがスマートフォンを持つようになってきた。近年、企業ではBYOD(Bring your own device)として個人の持つ携帯電話やスマートフォンでメールやネット等を使って仕事を行う体制が増えている。本研究では、学生のスマートフォンを上手に活用し、授業への活用方法を検討した。通常の授業では、携帯電話やスマートフォンは授業の妨げとなるため、利用しないように指導されている場合が多い。授業にてスマートフォンを利用させる試みは、学生の興味を引き出すツールになる。今回、プロジェクト入門にて学生達のスマートフォンを活用した授業について報告する。プロジェクト入門Aでは、小学4年生を対象とした「楽しい理科実験教材の開発」を題材としてグループワークを行っている。各実験のテーマについて、グループで検討して決定し、実際に授業内で模擬授業として発表している。「身近な静電気の実験」や「風船とCDディスクを使ったホバークラフトの製作」など子供達だけでなく、大学生が楽しめる実験テーマを見つけ出し、実験を行っている。このプロジェクト入門では、インターネット検索やプレゼンテーションソフトを使うため、コンピュータルームにて授業している。コンピュータルームでは、水や火を使うことができないので、実験テーマに制限がかかってしまう。そこで、学生のスマートフォンを利用して、教室の外で行った実験の様子をビデオ撮影した。「割れない風船」や「入浴剤を使ったロケット」などより楽しい実験テーマの

### 「定点観測」手法を使った実践的教育の開発

担当: 岩田 伊津樹

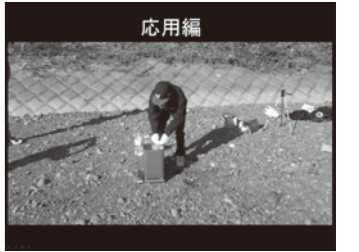
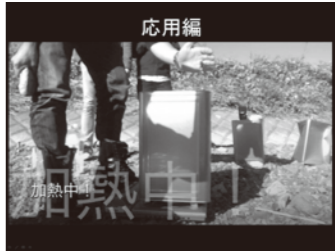
原発事故の風評被害と戦いながら生きる福島の人達を記録しようと前年度に始めた定点取材研究も2年目に入り、取材を繰り返すことの意味合いが少しずつ感じられるようになってきた。半年に一回の「定点取材」を引き受けていただいているのは、福島県のほぼ中央に位置する岩瀬郡鏡石町の兼業農家柳沼一良さん方で、本校卒業生の柳沼志帆さん(2012年3月文学部広報メディア学科卒業、現・日本農業新聞記者)のご実家である。稲作のほかモモとリンゴを中心とした果樹を栽培している。東京電力福島第1原発からの距離は約60キロメートルである。ゼミ生の入れ替えによって学生の顔ぶれはその都度変わるが、2013年度には2回(2013年9月と2014年2月)の現地取材を実施した。

#### 第3回定点取材 (2013年9月5日～6日)

今回は、まず前回(2013年3月)訪問した後の農業の状況について、日々農作業の中心となっている一良さんの妻の千津子さんから話を聞いた。原発事故の影響は深刻で、農業収入の中心である米は、今年も全袋検査を実施することになっているという。今回は、特にキュウリ、イチゴ、梨をそれぞれ栽培している3軒の近隣農家を紹介していただき取材した。どことも風評被害に悩んでいる様子だが、中には町内の仲の良い知人に収穫したばかりの果実を持って行ったら、「福島物は食べない」と突っ返されてショックを受けたという人もいた。

2014年2月で4回目の参加となる学生もあり、定点取材を契機に自分で現地の除染ボランティアに参加するなど自主的な活動ができるようになった者もあり、これも成果の一つだと思われる。取材も普段の人の付き合いも同じだが、初対面の相手に本音を打ち明ける人はいない。もしいたとしても、そんな言葉が信じられるだろうか。そこに定点取材の意味があると考えている。人間関係の構築が、取材の前提になるのはいうまでもない。相手とじっくり話すことは取材活動の原点であると同時に、個々の学生にとっても異なる世代の相手への取材経験は、将来、様々な局面で生きてくると思われる。

領域が増えた。また、グループ全員のスマートフォンを利用し、1つの被写体を撮影するとマルチアングルの動画を撮影できた。写真は、「一斗缶を潰す実験」である。1回の撮影で多くの方向から映像を撮影が可能であるため、臨場感のあふれるビデオになった。また、この撮影のために授業時間外に学部学科を超えたメンバーが河原に集まり、撮影を自主的に行っている。発表を終えた学生達は、「メンバーと一緒に成し遂げて楽しかった」「子どもたちの前で実際に披露したい」と満足した様子であった。今回は、スマートフォンをマルチアングルのハイビジョンカメラとして利用ができた。ビデオ編集もパソコンで簡単に可能であるため、今後様々な映像を撮影できると期待される。



**第4回定点取材**(2014年2月24日～25日)  
今回の取材行では、宮城県内に足を延ばした。読売新聞東北総局で谷川泰司総局長に被災地の現況を聞いた後、石巻市のみなし仮設住宅に住んでいる千葉紀子さんに被災当時の状況を取材した。2階建てだった千葉さんの家は、津波で1階部分が柱だけになった。被災後の混乱は報じられているように秩序正しく整然と、というようなきれいごとではなく、商店からの略奪などが横行、治安は最悪だったという話に学生達は驚いた。繰り返し現場を訪れることと同時に、やはり実際に現場に行つて自分の目で見て話を聞くことの重要性に学生達が気づけば大成功と考えた。今回の参加者は全員卒業を控えた4年生だったが、法律学部法律学科の岩崎義哉君は「テレビの映像や写真は、撮影者、編集者の作ったストーリーを見ているようなもの」という先生の言葉を実感したと語っていた。自分達を取り巻く情報のうち、何が真実で何がウソなのか、それを見極めるにはどうしたらよいのかを考える機会になればと思う。



鏡石町の梨農家に取材する学生達



石巻市の千葉紀子さんに取材する学生達

2014年度は、チャレンジセンターの開講科目について、教員間で情報を共有し、授業内容の改善を図ることを目的としてFD研修会を開催した。また、キャリア支援センターと合同でFD研究会を開催した。本教員の発表する各センター開催のFD研究会をチャレンジセンターFD研究会として振り替えた。

## チャレンジセンター第1回FD研修会報告 チャレンジセンターにおける集い力の教育について

- 1.集い力(入門)における取組と教育内容について (園田 由紀子)
- 2.集い力(演習)における取組と教育内容について (田島 祥)
- 3.ディスカッション (ファシリテーター 堀本 麻由子)
- 4.研修を振り返って (崔 一英)

**概要:**  
集い力(入門)では、チャレンジセンター科目の導入科目として履修する学生が多い傾向がみられる。特にガイダンスでは、チャレンジセンター科目が楽勝科目ではなく、努力と実践が重要であり、社会的実践力を身につける重要

ことが重要であると指導している。科目の内容としては、コミュニケーションとはどのようなものか理論的に説明した後、非言語コミュニケーションを中心に表現の傾向や意味解釈について説明している。さらに、聞くスキル、伝えるスキルなどの技法やグループ演習を交えながら教え、多人数でも取り組めるシミュレーション型の演習を行なっている。ルーブリックは、教育目標の提示として、ガイダンス時とセメスター終了時にそれぞれ自己評価をさせているが、結果は成績評価には用いていない。集い力(入門)では、コミュニケーションを理解し、基礎的なスキルを学んだ後、演習にて試行させるという授業を行っている旨報告があった。

日時：9月3日(水) 14:00~15:30  
場所：東海大学湘南校舎 8号館3階プロジェクト会議室

## チャレンジセンター第2回FD研修会報告 チャレンジセンターにおける挑み力の教育について

- 1.挑み力(入門)での取り組みと学習について (堀本 麻由子)
- 2.挑み力(演習A)(演習B)での取り組みと学習について (園田 由紀子)
- 3.ディスカッション  
～挑み力での学びについて～  
～今後の挑み力における取組について～ (ファシリテーター 田島 祥)
- 4.閉会の挨拶 (崔 一英)

**概要:**  
挑み力(入門)では、問題発見、構想力という点を重視し、生涯学習論から「学習観」に注目するプログラムを行っている。まず、多様な学習のあり方を認識した上で、子どもとおとなの学習の方法の違いを知る。その上で、自分の学習観を振り返り、最終的には自分自身の学習観を見出し、学習観の転換のきっかけを作る内容になっている。これにより、自己成長を促進すると考えて

いる。具体的には NPO活動やボランテア活動からいかに学ぶかという中で、自身の学習観を振り返り、新たな学びを開発する力は、基礎的な力として考えることができる。成果と課題としては、学生が書いたものなどから、学生の自らの学習への振り返りは十分できていることがわかる。また、挑み力(演習A)はシチズンシップを学ぶテーマとして、前半は、市販教材を用いた「多文化共生」学ぶ演習、後半は、より身近な具体的なテーマを設定し、仮想住民会議として、グループの話し合いを行っている。多角的に問題を発見する力を育成し、自らが一市民としてコミュニティに積極的に働きかける重要性を学ぶ。挑み力(演習B)では、「東海大学検定を作ろう」と「ギネス記録に挑戦する」をテーマにグループ演習を行っている。ディスカッションでは、「問題発見力」の重要性が指摘され、挑み力の必要性が共有できた。

日時：10月1日(水) 15:15~16:45  
場所：東海大学湘南校舎 プロジェクト室5

## チャレンジセンター第3回FD研修会報告 プロジェクト入門での学びとは PBL型教育モデルについて

- 1.プロジェクト入門Bでの学びと課題 (崔 一英)
- 2.プロジェクト入門Aでの学びと課題 (岡田 工)
- 3.プロジェクト入門Aでの学びと課題 (青木 孝子)
- 4.ディスカッション (ファシリテーター 田島 祥)

**概要:**  
崔次長より、「ウォーキングにおけるスマートフォンの活用とグループワークの実践」として、プロジェクト入門Bでの取り組みについて報告があった。プロジェクト入門は課題に取り組みながら、学生達にプロジェクト実践力を身につけさせることが、この授業目的である。さらに、コンピュータ室を利用し、加えて、近年学生に普及したスマートフォンを活用した情報の収集、データを

パソコンに取り込み、編集する能力を身につけることができる内容になっている。調査の基本、調査内容をまとめて、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行うことから、プレゼンテーション能力を身につけることができる。グループワークも行うため、コミュニケーション能力も育成される。次に岡田主任より、湘南校舎のプロジェクト入門Aとして、「興味を引くような科学教材の開発」や代々木キャンパスの「新人研修、新入生研修」について報告があった。また、プロジェクト入門Cとして光画像工学科の渋谷先生と複数担当の「3Dテレビについて」や物理学科の榎田先生と担当している「流星の電波観測」についても紹介された。最後に青木孝子講師より「多面体の工作方法の実践」について報告された。また、ディスカッションでは、学生へのチームワークや欠席者を減らすための取り組みなど活発な意見交換がなされた。

日時：12月3日(火) 16:00~17:30  
場所：東海大学湘南校舎 8号館3階プロジェクト会議室

## 第1回チャレンジセンターFD研究会報告 (教育支援センター第4回FD研修会:To-Collabo共催)

- 1.PA型教育導入について (梶井龍太郎 学長補佐 (To-Collabo担当))
- 2.視察から見たPublic Achievement(PA)とは (内山秀一 教学部次長、堀本麻由子 チャレンジセンター講師、山本義郎 教育支援センター次長)
- 3.東海大学におけるPA型教育のプロジェクト活動実践 事例報告 (海洋学部海洋フロンティア教育センター長 平木隆之)



**概要:**  
パブリック・アチーブメント(PA)型教育について学ぶ教職員向けの研修会(FD研修会)「PA型教育導入に向けて～PAとは何か～」を、1月22日に湘南キャンパスで実施した。平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受けて展開している「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」の一環として教育支援センターとTo-Collabo推進室が開いた。本プログラムでは、北アメリカを中心に実践されているPA教育をモデルに、シチズンシップと地域理解、ボランティアについて学ぶ必修型科目の開講を計画しており、昨年11月には教職員がアメリカでPA教育に関する研修を積むなど準備を進めている。研修会の様子は代々木、高輪、熊本など8キャンパスと東海大学福岡短期大学にも配信され、山田 清志学長をはじめとする教職員約160名が参加した。

日時：2015年1月22日(木) 17:15~18:45  
場所：東海大学湘南校舎 15号館4階15-1会議室

## 第2回チャレンジセンターFD研究会報告 (教育研究所第19回東海大学授業研究会)

- 1.海外諸事情講義科目における能動的学修の取り組み (外国語教育センター 結城 健太郎講師)
- 2.ラーニング・アウトカムを中心にした授業プログラムの構築に向けて (総合教育センター 吉田 厚子教授)
- 3.工学部における学生の自主性を引き出す組織的取り組み事例 (工学部精密工学科 吉田一也教授、同電気電子工学科 大山龍一郎教授、同建築学科 渡部憲教授)
- 4.実践授業における人間環境学科自然環境課程の組織的取り組み (教養学部人間環境学科自然環境課程 藤野裕弘教授、岩本泰准教授)
- 5.チャレンジセンターにおける多人数で行うアクティブ・ラーニングの取り組み (チャレンジセンター 園田由紀子講師)
- 6.次世代アクティブ・ラーニング教室における学習者行動評価の試み (情報教育センター 白澤秀剛講師)
- 7.理科基礎教育におけるアクティブ・ラーニングの試み (理学部基礎教育研究室 峯崎俊哉准教授、及川義道准教授、佐藤実講師、藤井功准教授、千葉雅史教授)

**概要:**  
1月24日に東海大学教育研究所主催の「第19回東海大学授業研究会」を開催された。授業研究会は、各学部学科や研究機関、短期大学部などの教員が教育開発や日々の授業での取り組みを発表し、討論などを通じてより質の高い授業づくりにつなげることを目的に毎年開催している。今回は、「アクティブ・ラーニング—多様な視座とその交流—」を中心テーマに据え、各教育センターや学部学科の教員ら14名が7件の研究について発表。アクティブ・ラーニングは、生涯学び続ける力や主体的に考える力を持つ人材を育てるために、双方向型の授業を通じて学生が主体的に問題を発見し、解決策を見出す取り組みで、本学でも近年、授業や課外活動型のプロジェクトを通じて導入が進んでいる。発表では、吉田一也副学長(研究担当・工学部長)が「工学部における学生の自主性を引き出す組織的取り組み事例」と題して工学部の取り組みを説明したほか、最先端のICT機器を教室に導入した「次世代アクティブ・ラーニング教室における学習者行動評価の試み」について情報教育センターの白澤秀剛講師がその概要を紹介するなど、幅広い分野の活動について熱心な議論が交わされた。

日時：2015年1月24日(土) 13:30~16:00  
場所：東海大学湘南校舎 18号館1階サイエンス・フォーラム

## 第3回チャレンジセンターFD研究会報告 (チャレンジセンター、キャリア支援センター合同FD研究会報告)

講師：株式会社リアセック 酒井 陽年

**概要:**  
概要は本報告書P45のPROGによる基礎力測定テストの結果に示す。



# To-Collaboプログラムの取り組み

本学では、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の一環として、地域の活性化、地域への貢献を目的とした「To-Collaboプログラム」を4計画8事業に展開している。2014年度の「地域志向教育研究経費」として、地域を志向した教育の推進につながる活動であることを理解した取り組みを学内公募し、活動費を助成している。今年度からは研究活動に対する取り組みに加え、教育活動と社会貢献活動に関する取り組みも募集対象としたほか、【タイプ1】2人以上のメンバーで行う取り組み(支給金額は1件あたり上限50万円)、【タイプ2】5人以上のメンバーかつ所属組織と地域を横断している取り組み(支給金額は1件あたり上限300万円)の2つタイプがある。チャレンジセンターでは【タイプ1】【タイプ2】のそれぞれ1件の採択を受けた。

## 【タイプ1】 [地域デザイン計画] 安心安全事業・社会貢献

「大学近隣地区住民の防災意識向上と地域連携に向けた実践」 研究代表者 崔一英教授

## 【タイプ2】 [ライフステージ・プロデュース計画] 大学開放事業・研究

「多世代コミュニティとの交流機会を広げるための実践研究」 研究代表者 岡田工教授

## 【タイプ1】 大学近隣地区住民の防災意識向上と地域連携に向けた実践

崔一英教授(チャレンジセンター)、岡田工教授(チャレンジセンター)、広川美津雄教授(教育研究所)、成川忠之教授(総合教育センター)、木村直樹(チャレンジセンター推進室)

湘南校舎に隣接する大根地区の自治会連合会は、安全で安心して住めるまちづくりを活動の目標としている。大根地区の人口は約23,000人、その内65歳以上の人口比率は約26%、20歳前後の人口比率は約6%となっている。比較的高齢者の人口が多くなっているが、大学所在地に隣接していることから若い人の人口も多くなっている。しかし、大学生が自治体に参加しないため、自治体加入率は約43%と秦野市の中でも低い加入率となっている。大根地区では、高齢化と自治体加入率の低さが、まちづくりの地盤を弱体化していると考えている。

昨年、大根地区は、毎年8月末に実施される秦野市総合防災訓練の中央会場に指定された。この訓練を機に大根自治会連合会は、住民の防災意識を向上させると同時に、地域の活性化に繋げるため、中高生および本学生も巻き込んだ活動を展開しようと計画を練っていた。

本取組では、上記大根地区の計画に連動する形で活動することを中心課題とした。その中でも、学生を含む住民の防災意識を高めるために実施される「大根地区市民の集い」、防災訓練等への参加を促す広報活動を大根自治会連合会と共同で行うことにした。広報媒体の作成においては、自治連の考えを大学側が実際の形にして提供することにした。

図は、本取組で作成したロゴ「おおね いいね みんなでね」と防災訓練への参加を促すポスターとチラシである。ロゴは湘南校舎1号館から望む浅間山、権現山、弘法山をモチーフにして、地区コミュニティの活性化を目的に作成した。防災訓練のポスター類は、全住民の参加を強く訴えるために、キャッチコピー、人型シルエット、吹き出しなどの表現に一貫性をもたせた。

防災訓練に向け、自治体役員、生徒、学生を交えた約80名による意見交換会が5月と6月に行われた。大学側は本取組教職員および学生(キャンパスストリートプロジェクト)が参加し、地域住民と一緒に行動計画の細部を検討した。7月に開催した「大根地区市民の集い」では、秦野市長、市職員の参加のもと市政出前懇談会と地域活性化に関する講演会が行われ、約180名の参加者を得ることができた。

秦野市総合防災訓練は8月31日に実施され、大根地区は住民の約10%に相当する2300名の参加者を集めることができた。本取組で作成した防災訓練ポスターのデザインには学生も参加し、地域貢献の一端を担うことができた。

防災訓練は、タウンニュースの記事に取り上げられ、大根自治連と東海大学が協働していることを紹介した。意見交換会、ポスター配布、自治会の啓発

活動の結果、中高生、大学関係を含む多くの方と防災の連携意識を持つ事ができた。中高生や大学生の参加は、地域住民に大きな励みとなった。また、意見交換会、ポスター作成に携わった学生には地域の課題を理解するきっかけになった。

2014年11月第9回マニフェスト大賞「復興支援・防災対策賞」部門において、大根地区自治連が最優秀賞を受賞することになった。審査委員からは「近隣の東海大学ともポスター作成や意見交換会への学生参加など連携を図った。」と講評され、今回の取り組みの一部が、客観的に良い評価を得たことが明らかになった。

大根自治連と本学の連携は初めての試みであり、さらなる活動の展開が望まれている。その一環として、昨年10月に開催された大根ふれあいまつりでは、大根地区社協(社会福祉協議会)からの依頼でサイエンスコミュニケーターによるサイエンスショーが行われた。これまでもチャレンジセンターの学生プロジェクトを中心に様々な形で地域貢献活動を行ってきた。しかし、共通の目的をもって地域と連携する活動は少なかったようである。今回の取り組みによって近隣地域と本学の連携の輪を広げることができたと思われる。



大根地区のロゴ



防災訓練のポスターとチラシ



意見交換会の様子



防災訓練の様子

図1 意見交換会の様子 図2 防災訓練の様子

## 【タイプ2】 多世代コミュニティとの交流機会を広げるための実践研究

岡田工教授(チャレンジセンター)、西田小百合准教授(政治経済学部経済学科)、新出昌明教授(国際文化学部地域創造学科)、太田民夫教授(経営学部経営学科)、近藤真由准教授(教養学部芸術学科音楽学課程)、福崎稔教授(エクステンションセンター所長・高輪教養教育センター)

### 取り組みの概要

高齢化社会が進み、生き生きとした老後生活を送る方法が注目されている。病気になるまで生活ができる寿命を健康寿命と呼び、健康寿命を平均寿命に近づけることが、これからの老後生活に重要なことである。大学や地域コミュニティで開催されているカルチャースクールや公開講座などに参加したり、スポーツやボランティア活動などで高校生や大学生など若者など多世代交流することによって、病気になるまで生き生きとした老後生活を送ることができると言われている。

特に、シニア世代と若者世代のニーズに合わせて、教育プログラムや多世代との交流機会を設定することが求められている。本プロジェクトでは、神奈川県秦野市をはじめ、北海道札幌市南区などを対象とし、近隣住民のニーズや現在の課題を汲み取るため、アンケート調査を実施する。そして、大学開放へ向けて、地域住民が受講したい授業の検討や学生との交流方法について検討し、試行していく。また、地域住民のニーズや地域格差などデータをもとに大学生を交えた教育テーマや方法について検討し、地域住民に回覧板など通じて情報をフィードバックしていく。

### 取り組みの進捗状況

高齢化の進むアメリカでは、社会定年退職後、元気な人が入居する施設として、CCRC (Continuing Care Retirement Community)が注目されている。CCRCでは、大学で学ぶ機会が多くあり、教員や大学生との交流が盛んに行われている。2014年3月研究代表を初め、3名の教職員にてアメリカのCCRCを視察した。また、5月には、米国視察団が集まり、座談会を開催し、アメリカと日本の老後を比較し、今後訪れる老後生活について話し合いを行った。健康寿命を延長するためにもCCRCの取組が注目されており、高齢化社会の進む日本でも日本版CCRCの立ち上げが必要とされている。

本学では、2000年4月よりエクステンションセンター開設され、多くの地域住民に向けて生涯学習教育を行ってきた。受講生の多くは、高齢者であり、受講後のアンケート調査では「教養を深めたい」「スキルアップのために受講した」とモチベーションの高い答えが多かった。エクステンションセンターでは、生涯学習教育の取り組みとして、講義だけでなくフィールドワークや子どものための情操教育など取り入れ、多世代の受講者に満足度できるカリキュラムを実施している。これらの取り組みにおける課題や他学での取り組みを検証するために、中部大学アクティブアゲインカレッジの視察を行った。視察先では、受講生との対談と担当教員との意見交換を行った。受講生は、学習意欲が非常に高く、今後知識を地域に活かしたいという想いが強く感じられた。地域の高齢者と連携したCOCプログラムとして参考となった。



図1 フロリダ大学内にあるCCRC (Oak Hammock at the University of Florida)



図2 CCRCでの大学教授による講義の様子

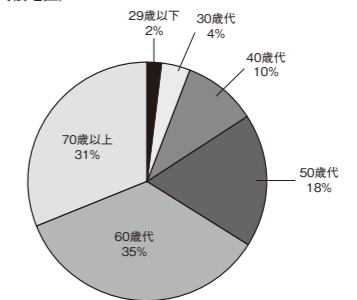


図3 スポーツ施設での学生との交流



中部大学視察

アンケート回答者年齢層(大根地区)



近隣住民の本学学生との交流・連携意欲

機能	交流・連携意欲の有無	件数	比率(%)
本研究機能を活かした交流・連携	してみたいと思う	114	54.3%
	内容(複数回答)	14	6.7%
	地域の特産品などを一緒に開発してみたい	83	39.5%
	地域の抱えている問題の解決のため、大学の教員や学生などと一緒に研究したい	17	8.1%
	その他	66	31.4%
未回答		30	14.3%
本学教育機能を活かした交流・連携	してみたいと思う	147	70.0%
	内容(複数回答)	65	31.0%
	近隣住民向けの生涯学習講座や公開講座などを大学内で開いてほしい	68	32.4%
	地域の施設などを使って生涯学習講座や公開講座を開いてほしい	19	9.0%
	大学生と一緒に(大学で一般に開講されている)講義を受けてみたい	7	3.3%
未回答		55	26.2%
未回答		8	3.8%
研究・教育機能以外での連携(複数回答)	大学施設(図書館、体育館など)を地域住民にも開放してほしい	58	27.6%
	地域の防災や防犯で協力してほしい	113	53.8%
	地域の児童の学習支援(学習支援ボランティア)に取り組んでほしい	41	19.5%
	地域の公民館のイベントやお祭りなどに参加してほしい	57	27.1%
その他		8	3.8%
合計		210	100%

# PROGによる基礎力測定テストの結果

チャレンジセンターでは、学生のプロジェクト活動を通して、「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の育成を行っている。この能力の育成に対して、プロジェクト活動がどの程度、効果があったかを基礎力(ジェネリックスキル)の側面から客観的に測定し、プロジェクトの効果を検証した。基礎力測定実施対象者は、湘南校舎を中心に、4つのプロジェクト(ライトパワープロジェクト、病院ボランティアプロジェクト、キャンパスストリートプロジェクト、環境キャラバン隊)の参加学生で、1年から3年までの学生である。測定時期と人数は、2014年7月(前回)172名、2014年12月(今回)147名であり、両方の受験者は134名である。両受験者の134名(1年56名、2年47名、3年31名)において、この6か月間で能力にどのような変化があったかの検証を試行的に実施した。

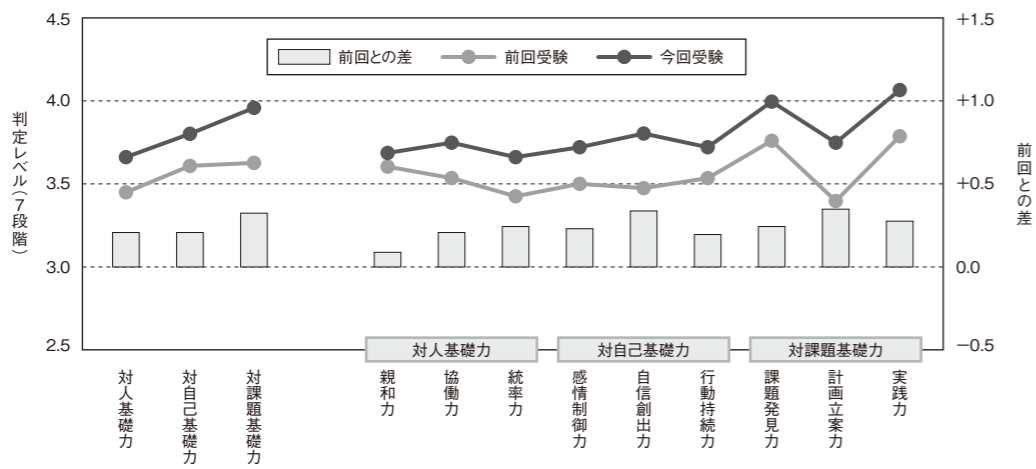
検証方法としては、(株)リアセックと河合塾が共同開発したジェネリックスキル測定用のPROGテストを活用し、「リテラシー」と「コンピテン

シー」の2つの観点で測定した。「リテラシー」は、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものである。「コンピテンシー」は、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものである。

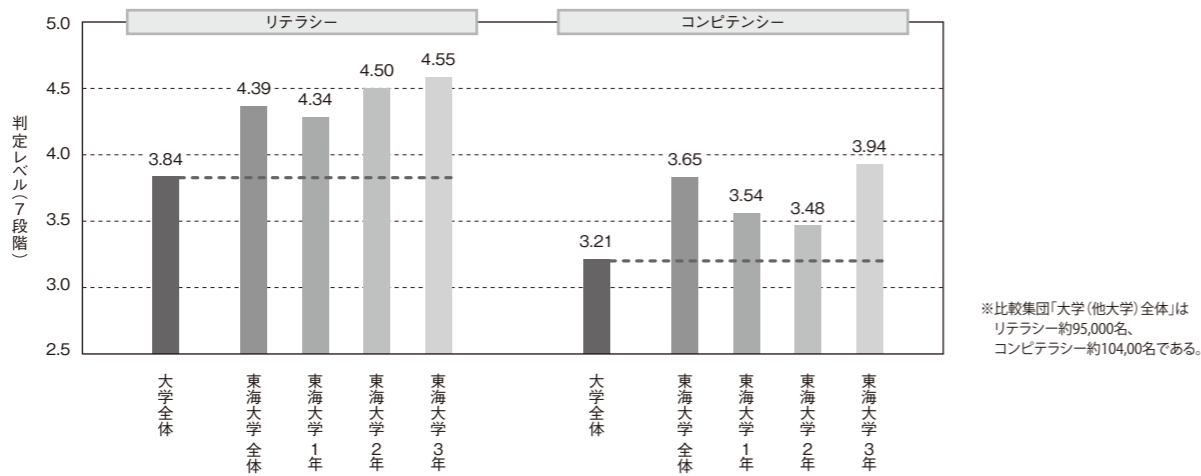
今回の測定結果よりリテラシー、コンピテンシー共に、全ての項目において、6か月の活動によって伸張していることが明らかになった。夏休みなど、比較的長いスパンでプロジェクトに関わり、様々な課題に対して、取り組んだ成果だと推測される(図1参照)。2つの能力の平均値を学年別で見ると、いずれも3年生が1、2年生より高く、プロジェクトでのリーダー的な活動を通じて、伸張していると考えられる。また、リテラシー、コンピテンシー共に、比較集団の他大学と比べても、水準が上回っている(図2参照)。

これら結果は、プロジェクトの様々な活動を通して学生達の能力が向上したことを表している。

(図1) コンピテンシーの能力変化



(図2) 他大学との比較



# 広報媒体 (ポスター・チラシ)

< チラシ >



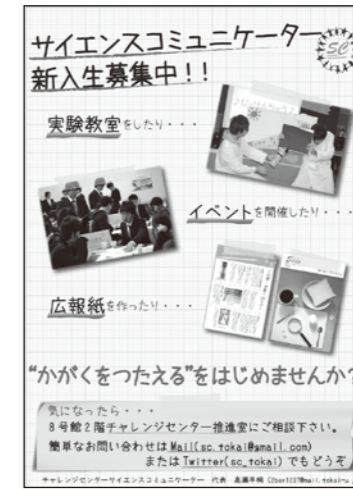
ライトパワープロジェクト

< チラシ >



スポーツ社会貢献プロジェクト

< ポスター >



サイエンスコミュニケーター

< ポスター >



東海大学学生ロケットプロジェクト

< ポスター >



Tokai Formula Club

< ポスター >



3.11生活復興支援プロジェクト

< ポスター >



病院ボランティアプロジェクト

< ポスター >



キャンパスストリートプロジェクト

< ポスター >



Tokai International Communication Club

< チラシ >



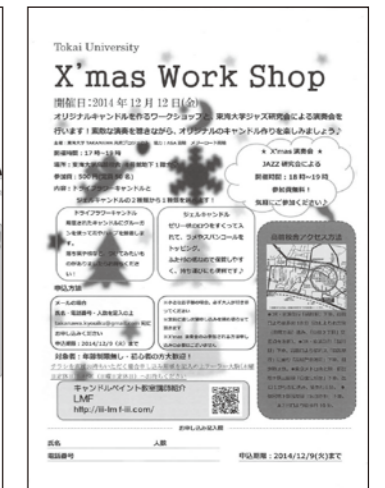
Music Art Project

< チラシ >



DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト

< チラシ >

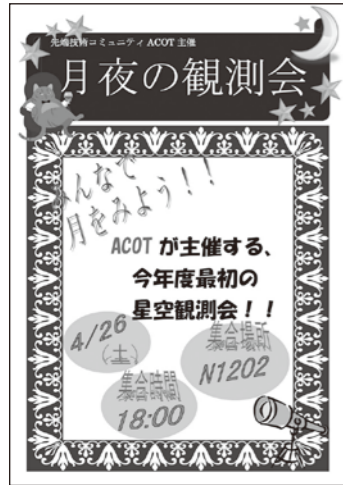


Takanawa共創プロジェクト



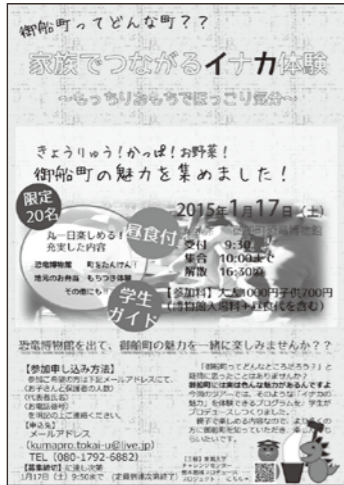
# 広報媒体 (ポスター・チラシ)

< チラシ >



先端技術コミュニティACOT

< チラシ >



熊本地域プロデュースプロジェクト

< チラシ >



阿蘇援農コミュニティプロジェクト

< チラシ >



阿蘇は箱舟プロジェクト

< チラシ >



あにまるれすきゅープロジェクト

< ポスター >

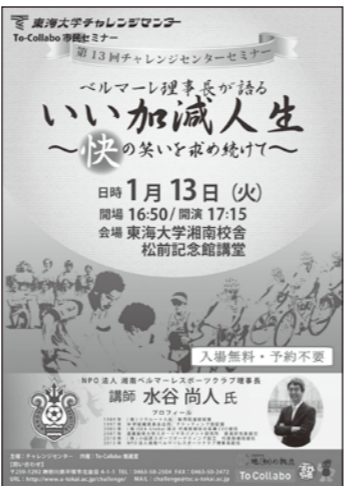


チャレンジセンター

< ポスター >



< ポスター >



< ポスター >



< ポスター >



< ポスター >



< チラシ >



チャレンジセンター

# メディア一覧

プロジェクト名	月日	分類	掲載メディア
ライトパワープロジェクト	4月 1日	その他	デイリーサピックス 小学校5年生向け理科問題集
	4月 1日	その他	アールスコンポーターネット株式会社 両面粘着メモ
	5月 1日	TV	NHK秋田放送
	6月25日	Web	産経新聞社
	6月30日	Web	Car Watch
	7月 1日	雑誌	進研ゼミ高校講座My Vision
	7月 8日	雑誌	季刊アラブ
	7月10日	Web	カナロコ
	7月10日	新聞	神奈川新聞
	7月 3日	新聞	朝日新聞
	7月13日	新聞	朝日小学生新聞
	7月12日	新聞	日刊自動車新聞
	8月30日	Web	読売オンライン
	8月30日	新聞	読売新聞
	8月30日	新聞	東京中日新聞
	9月 1日	Web	Car Watch
	9月 1日	新聞	電気新聞
9月 1日	新聞	日刊自動車新聞	
9月 2日	Web	MSN産経ニュース	
9月 2日	Web	パナソニックホームページ	
9月 2日	Web	PR TIMES	
9月 2日	Web	News2u	
9月 2日	新聞	日刊油業報知新聞	
9月 2日	Web	毎日新聞	
9月 3日	TV	鳥人間コンテスト ~Iwataniスペシャル 2014~	
9月 3日	新聞	自動車タイヤ新聞	
9月10日	新聞	日経産業新聞	
9月11日	新聞	朝日新聞	
11月14日	Web	AFP BB NEWS	
11月16日	Web	BBC	
11月19日	新聞	El longino	
11月19日	新聞	EL MERCURIO	
11月19日	Web	日本経済新聞	
11月19日	新聞	東京新聞(夕刊)	
11月19日	Web	スポニチ Sponichi Annex	
11月19日	Web	テイルスポーツ online	
11月19日	Web	nikkansports.com	
11月19日	Web	毎日新聞	
11月19日	Web	徳島新聞	
11月19日	Web	大分合同新聞	
11月19日	Web	河北新報 他	
11月19日	新聞	北海道新聞	
11月19日	新聞	静岡新聞(夕刊)	
11月19日	新聞	信濃毎日新聞(夕刊)	
11月20日	新聞	東奥日報	
11月20日	新聞	山形新聞	
11月20日	新聞	秋田魁新報	
11月20日	新聞	福島民友	
11月20日	新聞	上毛新聞	
11月20日	新聞	北日本新聞	
11月20日	新聞	北国新聞(夕刊)	
11月20日	新聞	千葉日報	
11月20日	新聞	山梨日日新聞	
11月20日	新聞	紀州新聞	
11月20日	新聞	京都新聞	
11月20日	新聞	大阪日日新聞	
11月20日	新聞	日本海新聞	
11月20日	新聞	山陰中央新報	
11月20日	新聞	四国新聞	
11月20日	新聞	徳島新聞(夕刊)	
11月20日	新聞	愛媛新聞	
11月20日	新聞	山陽新聞	
11月20日	新聞	中国新聞	
11月20日	新聞	山口新報	
11月20日	新聞	熊本日日新聞	
11月20日	新聞	沖縄タイムス	
11月20日	新聞	神奈川新聞	
11月20日	新聞	The Japan Times	
11月20日	新聞	電波新聞	
11月20日	新聞	読売新聞	
11月20日	新聞	東京中日スポーツ	
11月21日	情報誌	広報ひらつか	
11月21日	新聞	日刊自動車新聞	
11月21日	Web	日経BP	
11月25日	Web	時事ドットコム	
11月26日	新聞	東京中日スポーツ	
11月26日	Web	トーチユ F1 EXPRESS	
ライトパワープロジェクト 他	7月24日	雑誌	るるぶ厚木 伊勢原 秦野 斐川 清川
	5月 2日	情報誌	広報平塚
	1月19日	情報誌	スポーツ報知
	8月19日	新聞	神奈川新聞
	11月 2日	TV	所さんの目がテン!
	8月14日	新聞	北羽新報
	8月15日	新聞	北羽新報
	8月16日	新聞	北羽新報
	8月17日	新聞	北羽新報
	8月17日	新聞	北羽新報
8月18日	新聞	北羽新報	
8月18日	新聞	北羽新報	
8月18日	新聞	北羽新報	
8月20日	新聞	北羽新報	
8月22日	新聞	秋田魁新報	
8月22日	新聞	北羽新報	
8月22日	新聞	北羽新報	
Tokai Formula Club	8月 9日	新聞	日刊自動車新聞
	9月11日	新聞	交通毎日新聞
	10月15日	雑誌	Motor Fan illustrated
	4月17日	新聞	岩手日報
3.11生活復興支援プロジェクト	4月13日	新聞	東海新聞
	6月 4日	新聞	家具新聞
	7月31日	新聞	岩手日報
	9月 8日	新聞	毎日新聞東京版
	2月15日	情報誌	日本住宅新聞
病院ボランティアプロジェクト	5月23日	新聞	科学新聞
	2月19日	新聞	読売新聞
	2月23日	新聞	東京新聞
	3月 1日	新聞	朝日新聞
キャンパスストリートプロジェクト	7月12日	情報誌	タウンニュース
	12月 6日	情報誌	タウンニュース
	12月20日	新聞	日本経済新聞
Tokai International Communication Club	8月16日	情報誌	タウンニュース
	8月20日	新聞	朝日新聞
	8月21日	情報誌	タウンニュース
	9月15日	新聞	神奈川新聞
	12月 4日	情報誌	タウンニュース
DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト	11月15日	情報誌	タウンニュース
	1月17日	情報誌	タウンニュース
	2月10日	新聞	神奈川新聞
Takanawa共育プロジェクト	11月15日	情報誌	タウンニュース
	1月17日	情報誌	タウンニュース
	2月25日	新聞	読売新聞
先端技術コミュニティACOT	11月 1日	情報誌	高輪地区地域情報紙「みなとつづ」
	12月11日	TV	News i
メカトロマイスター	6月 1日	Web	青少年の人材育成 NPO法人 HITOプロジェクト
	10月 8日	新聞	電波新聞
熊本地域プロデュースプロジェクト	7月11日	TV	スーパーニュース(熊本地域での放送のみ)
	7月11日	TV	夕方いちばん
	7月11日	TV	くまパワ
	7月11日	TV	ケーブルテレビニュース
	7月12日	新聞	熊本日日新聞
阿蘇は箱舟プロジェクト	1月18日	新聞	熊本日日新聞
	1月18日	TV	KAB 熊本朝日放送
	1月18日	TV	夕方いちばん
ロボP	4月 4日	雑誌	昆虫と自然
	5月 7日	新聞	熊本日日新聞
	5月10日	新聞	朝日新聞
	6月 5日	新聞	朝日新聞
	6月10日	TV	テレビタミン
	7月 5日	新聞	熊本日日新聞
	9月10日	新聞	静岡新聞社
	2月26日	TV	NHK静岡
	8月 9日	新聞	静岡新聞社
	1月10日	新聞	日刊自動車新聞
チャレンジセンター	5月26日	新聞	朝日新聞
	9月18日	Web	日本経済新聞

# チャレンジプロジェクト活動一覧

3月～10月/[熊]メカトロ:UAE・石油資源大学とのソーラーカー共同製作 4月17日～7月17日・10月2日～12月18日の隔週2回/[湘]C.A.P.:パン販売イベント 4月2日～7月17日・9月24日～2015年3月21日/[札]TICC:にこティー教室  
 4月・6月・12月/[阿]あにまる:譲渡会 7月～8月/[阿]阿蘇援農:夏の援農 12月15日～2015年2月4日/[札]福祉除雪:除雪回数が歴代最高記録を更新

	月	火	水	木	金	土	日
4月	3月19日 [湘]3.11:ひらつな祭 Vol.3	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

	月	火	水	木	金	土	日
5月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	月	火	水	木	金	土	日
6月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23/30	24	25	26	27	28	29

	月	火	水	木	金	土	日
7月							1
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	月	火	水	木	金	土	日
8月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	月	火	水	木	金	土	日
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22/29	23/30	24	25	26	27	28

	月	火	水	木	金	土	日
10月							
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

	月	火	水	木	金	土	日
11月							1
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

	月	火	水	木	金	土	日
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	月	火	水	木	金	土	日
1月							
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	月	火	水	木	金	土	日
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

	月	火	水	木	金	土	日
3月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

**ライト:**ライトバワープロジェクト  
**スポーツ:**スポーツ社会貢献プロジェクト  
**サイエンス:**サイエンスコミュニケーター  
**TSRP:**東海大学学生ロケットプロジェクト  
**TFC:**Tokai Formula Club  
**3.11:**3.11生活復興支援プロジェクト  
**痛ボラ:**病院ボランティアプロジェクト  
**C.A.P.:**キャンパスストリートプロジェクト  
**TICC:**Tokai International Communication Club  
**環キャラ:**環境キャラバン隊  
**MAP:**Music Art Project  
**BML:**Bejo Me Liga  
**DANCE:**DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト  
**Takanawa共育:**Takanawa共育プロジェクト  
**ACOT:**先端技術コミュニティACOT  
**メカトロ:**メカトロマイスター  
**熊プロ:**熊本地域プロデュースプロジェクト  
**阿蘇援農:**阿蘇援農コミュニティプロジェクト  
**箱舟:**阿蘇は箱舟プロジェクト  
**あにまる:**あにまるれすきゅープロジェクト  
**福祉除雪:**福祉除雪プロジェクト  
 湘南校舎…湘 札幌校舎…札 高輪校舎…高  
 熊本校舎…熊 阿蘇校舎…阿